

第2章

介護技術向上に関するデータ分析

第 2 章 介護技術向上に関するデータ分析

1. 介護技術向上に関するデータ分析実施概要

(1) 目的

第1章 介護職員の介護技術向上にむけた取組実態に関するアンケートにおいて、介護職員に対する介護技術の指導や評価(介護職員に対する OJT)に取り組んでいる介護事業所と、取組ができていない事業所の比較分析を行い、介護技術向上にむけた取組がもたらす事項につき、検証を行ったが、同様に、介護キャリア段位におけるレベル認定への取組のプロセスである「期首評価」及び「期末評価」のデータを用いて、介護キャリア段位における介護技術の評価の取組が、介護技術向上として介護事業所に対してどのようなことをもたらしているのか、また、全国に展開している介護キャリア段位制度が、全国の介護事業所に対して 3 年にわたってどのようなことをもたらしたか、その影響や効果について検証することを目的にデータ分析を行った。

また、合わせて OJT として重点すべき介護技術の分析を行い、それらの介護技術に対する OJT の標準的な時間を示すとともに、事業所評価指標となり得る OJT 項目について明らかにすることで、介護事業所の効果的・効率的な OJT 実施が推進されることを目的にデータ分析を行った。

(2) 分析対象データ

介護キャリア段位制度におけるレベル認定申請システムに登録されている「期首評価票」データ及び「期末評価票」データ

(3) 対象データ抽出条件

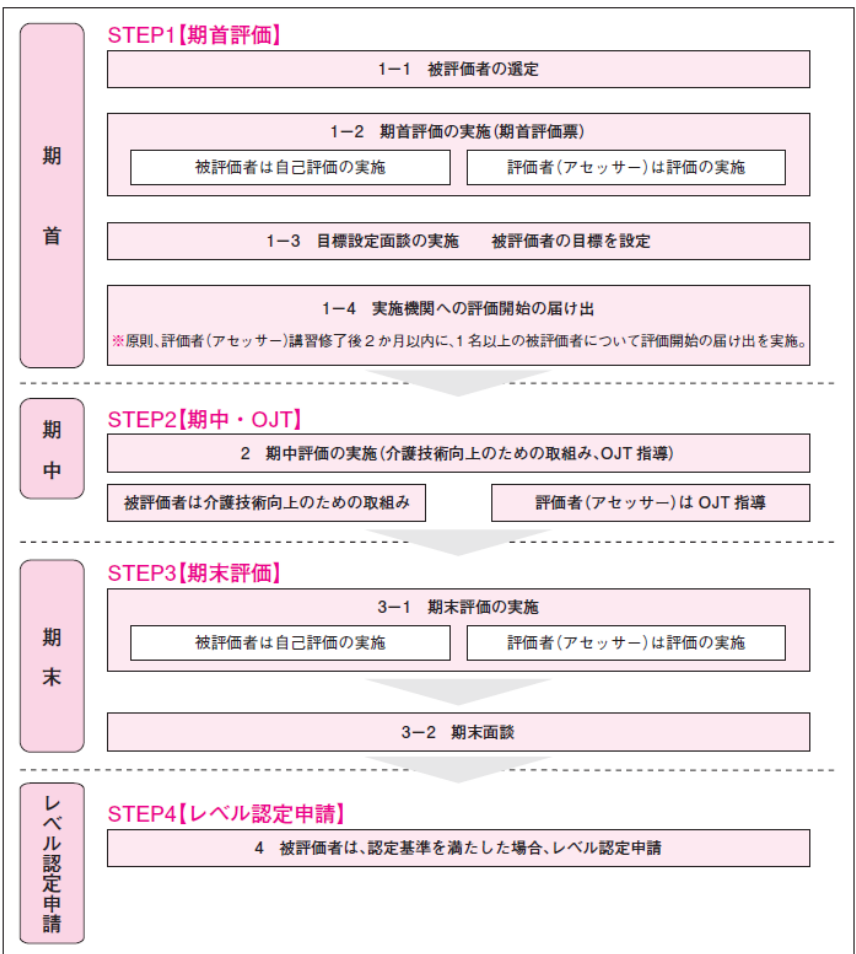
- 「期首評価票」データ : 全体 9,149 件
2019 年 12 月までにレベル認定となった期首評価票データ : 4,192 件
評価開始から 1 年以上経過し、レベル認定に至らなかった期首評価票データ : 4,957 件
- 「期末評価票」データ : 全体 : 2,174 件
新様式を用いて評価を行い、2019 年 12 月までにレベル認定となった期末評価票データ

2．期首評価票データ分析結果

(1) 期首評価票データの分析（全体）

介護キャリア段位制度におけるレベル認定までのプロセスは以下の通りとなっており、期首の段階において、介護技術を客観的に評価するアセッサー（評価者）が、レベル認定を目指す介護職員に対して、日頃のケアの状況を振り返りながら、介護技術の評価項目に基づき「できる」「できていない」評価を行っている。これが今回データ分析の対象となる期首評価票データとなる。なお、この期首評価の際に見出された「できていない」介護技術を中心に、ある一定期間において「できる」ようになるよう OJT を実施し、一定期間経過後、介護技術の定着がはかられたか確認する期末評価を行う、いわゆる介護技術の評価と OJT を一体的に実施するプロセスを介護キャリア段位では構築している。

介護キャリア段位制度におけるレベル認定までのプロセス



介護キャリア段位制度における期首評価票

Ⅰ. 基本介護技術の評価					目標レベル		
中項目	No	小項目	小項目評価				
			自己評価	評価者評価			
1. 入浴介助	1	入浴前の確認ができる			レベル2①		
	2	衣服の着脱ができる					
	3	洗体ができる（浴槽に入ることを含む）					
	4	清拭ができる					
2. 食事介助	1	食事前の準備を行うことができる					
	2	食事介助ができる					
	3	口腔ケアができる					
3. 排泄介助	1	排泄の準備を行うことができる					
	2	トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる					
	3	おむつ交換を行うことができる					
4. 移乗・移動・体位変換	1	起居の介助ができる			レベル2②		レベル3
	2	一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる					
	3	全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる					
	4	杖歩行の介助ができる					
	5	体位変換ができる					
5. 状態の変化に応じた対応	1	咳やむせこみに対応ができる					レベル4
	2	便・尿の異常（血便・血尿、バイタル、ショック状態など）に対応ができる					
	3	皮膚の異常（炎症、表皮剥離、水疱、潰瘍等）に対応ができる					
	4	認知症の方がいつもと違う行動（攻撃的行動、突発的行動、対応が困難な行動等）を行った場合に対応できる					
Ⅱ. 利用者視点での評価					目標レベル		
中項目	No	小項目	小項目評価				
			自己評価	評価者評価			
1. 利用者・家族とのコミュニケーション	1	相談・苦情対応ができる				2②	
	2	利用者特性に応じたコミュニケーションができる					
2. 介護過程の展開	1	利用者に関する情報を収集できる					
	2	個別介護計画を立案できる					
	3	個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる					
	4	個別介護計画の評価ができる					
3. 感染症対策・衛生管理	1	感染症予防対策ができる				2②	レベル3
	2	感染症発生時に対応できる					
4. 事故発生防止	1	ヒヤリハットの視点を持っている				2②	
	2	事故発生時の対応ができる					
	3	事故報告書を作成できる					
5. 身体拘束廃止	1	身体拘束廃止に向けた対応ができる					
	2	身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる					
6. 終末期ケア	1	終末期の利用者や家族の状況を把握できる					
	2	終末期に医療機関または医療職との連携ができる					
Ⅲ. 地域包括ケアシステム&リーダーシップ					目標レベル		
中項目	No	小項目	小項目評価				
			自己評価	評価者評価			
1. 地域包括ケアシステム	1	地域内の社会資源との情報共有					
	2	地域内の社会資源との業務協力					
	3	地域内の関係職種との交流					
	4	地域包括ケアシステムの管理業務					
2. リーダーシップ	1	現場で適切な技術指導ができる					レベル4
	2	部下の業務支援を適切に行っている					
	3	評価者として適切に評価できる					

第2章：2. 期首評価票データ分析結果

この期首評価票における小項目単位での評価結果、「○（できる）」「×（できていない）」を用いて、期首評価の段階、いわゆる QJT 実施前に介護技術項目としてどのくらいできているか、○（できる）の評価数／評価総数により介護技術項目別「○（できる）」割合を算出した。割合において 100%に近いほど「○（できる）」ということであり、例えば 50%であれば半数が「○（できる）」ということ、半数が「×（できていない）」ということになる。

その上で、介護職員としての経験年数と期首評価票データ全体における「○（できる）」割合を一覧表形式にて集計分析すると以下の通りとなった。

なお、視認性を高める上で、90%以上「○（できる）」場合は白抜き、「○（できる）」割合が 80%台の場合は 、「○（できる）」割合が 70%台の場合は 、「○（できる）」割合が 60%台の場合は 、「○（できる）」割合が 50%台の場合は 「○（できる）」割合が 50%未満の場合は にて網掛けを行っている。

経験年数ごと介護技術項目「○（できる）」割合一覧表（n=9,149 件）

90%以上： 80%台： 70%台： 60%台： 50%台： 50%未満：

評価項目			経験年数																				平均	
大項目	中項目	小項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		
Ⅰ.基本介護技術 の評価	1.入浴介助	1 入浴前の確認ができる	84.5	87.6	88.7	92.1	94.2	93.8	93.0	91.7	94.7	93.8	95.3	95.2	96.1	95.1	95.6	97.6	94.8	99.2	98.9	95.9	93.9	
		2 衣服の着脱ができる	83.6	86.2	90.7	89.1	92.5	92.5	94.0	92.0	94.2	94.6	95.3	95.0	95.8	94.2	94.3	96.2	98.5	96.1	96.7	96.6	93.4	
		3 洗体ができる	77.4	82.6	87.9	88.4	92.1	92.3	92.2	90.1	92.1	93.7	94.5	90.9	93.9	95.7	94.3	95.7	94.0	93.8	97.8	97.3	91.8	
	2.食事介助	4 清拭ができる	55.8	68.9	74.8	81.9	84.7	90.5	87.7	85.8	87.6	91.0	91.7	92.6	93.0	94.8	92.9	93.4	96.2	95.3	97.8	93.2	87.5	
		1 食事前の準備を行うことができる	83.5	86.1	88.4	89.7	92.8	93.8	91.8	90.8	92.3	94.2	96.4	93.1	95.0	95.4	94.3	94.3	95.5	96.9	97.8	95.9	92.9	
		2 食事介助ができる	75.0	80.6	85.1	85.8	89.0	91.9	91.2	89.2	88.2	90.5	92.5	92.1	92.7	92.9	91.7	94.8	90.3	93.0	93.3	91.8	89.6	
	3.排泄介助	3 口腔ケアができる	72.7	77.6	83.3	85.0	87.7	90.4	87.8	88.0	91.9	90.8	95.0	91.9	93.0	93.5	91.1	96.2	93.3	92.1	93.3	92.5	89.4	
		1 排泄の準備を行うことができる	89.6	89.1	92.4	93.1	94.7	95.2	94.4	94.5	95.3	96.5	97.5	95.5	96.4	97.7	95.8	97.2	96.3	97.7	96.7	97.3	95.2	
		2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	76.7	76.8	82.5	87.3	89.7	91.4	90.6	89.3	91.6	91.8	93.3	91.1	93.0	94.2	93.7	94.3	94.0	94.5	96.7	91.8	90.2	
	4.移乗・移動・ 体位変換	3 おむつ交換を行うことができる	72.2	79.4	82.9	88.5	90.6	92.1	91.8	89.4	93.0	92.4	93.9	92.6	94.7	96.0	94.3	96.2	93.3	94.3	94.5	95.7	91.0	
		1 起居の介助ができる	80.6	82.8	88.3	88.4	91.5	93.5	93.2	92.6	94.0	94.6	96.9	95.0	94.7	96.9	96.4	96.2	97.8	98.4	98.9	97.3	93.4	
		2 一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	75.1	75.3	81.6	84.0	87.8	91.4	89.4	88.8	90.0	91.7	92.7	90.2	91.0	92.6	92.4	93.4	88.8	93.7	95.5	92.5	88.9	
		3 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	65.9	69.6	74.3	81.1	84.3	86.9	85.2	86.0	87.2	89.5	91.9	88.5	89.0	90.5	91.4	89.0	90.3	89.1	94.4	91.0	85.8	
		4 杖歩行の介助ができる	66.5	73.0	78.5	81.9	85.7	88.7	89.5	88.2	90.1	88.0	93.5	89.4	93.5	91.9	87.9	91.4	93.1	93.5	97.8	89.5	87.6	
	5.状況の変化に 応じた対応	5 体位変換ができる	68.3	73.7	81.2	83.4	88.6	89.2	91.6	90.2	91.6	92.3	94.2	92.5	94.6	94.5	94.3	96.7	92.5	95.3	94.4	96.5	89.8	
		1 咳やむせごみに対応ができる	66.3	71.7	80.5	84.6	86.2	88.6	91.5	90.7	92.6	93.1	92.7	93.1	94.1	95.1	91.9	95.7	98.3	95.5	95.9	96.9	89.8	
		2 便・尿の異状に対応ができる	50.3	62.7	74.1	74.2	79.9	82.0	85.1	86.3	91.4	89.7	89.0	90.9	91.7	90.5	89.2	91.4	95.5	90.2	93.2	92.2	84.6	
	Ⅱ.利用者視点で の評価	1.利用者家族と のコミュニケー	3 皮膚の異常に対応ができる	49.0	59.7	72.3	77.0	77.9	82.0	83.8	86.5	91.7	87.7	87.7	89.5	91.7	90.2	88.6	90.4	97.5	89.3	95.9	90.7	83.9
			4 感染症の対応ができる	44.0	50.4	56.9	64.8	68.8	73.8	76.0	77.9	79.9	80.7	82.4	80.7	86.1	85.6	83.6	86.6	87.5	87.4	89.2	81.4	76.2
			1 相談・苦情対応ができる	40.7	45.0	56.6	65.5	67.0	75.5	72.0	73.9	77.5	77.4	83.4	85.7	81.8	86.2	85.0	89.8	89.2	88.4	90.8	86.2	75.9
2.介護過程の展 開		2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる	67.8	68.1	76.3	78.1	84.2	85.5	85.3	88.6	88.4	90.9	91.5	91.8	92.7	93.8	90.3	92.4	94.2	94.7	94.7	90.2	87.0	
		1 利用者に関する情報を収集できる	75.3	81.8	76.7	84.6	87.1	88.4	88.1	90.9	92.0	92.2	97.1	95.5	92.6	92.4	92.1	96.0	97.1	92.7	93.7	92.2	89.9	
		2 個別介護計画を立案できる	40.7	49.1	48.7	58.3	58.1	63.7	65.2	67.8	73.4	71.1	79.7	79.6	80.9	80.6	80.6	88.6	83.3	82.3	87.3	75.7	70.7	
3.感染症対策・ 衛生管理		3 個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	48.1	61.5	59.3	64.6	67.6	73.4	72.4	77.5	80.7	75.8	83.8	84.6	86.0	83.9	85.1	90.6	85.3	84.4	87.3	85.2	76.9	
		4 個別介護計画の評価ができる	45.7	55.6	46.9	59.5	60.4	69.9	68.3	74.8	74.1	71.6	81.3	80.7	80.2	80.8	83.1	83.9	84.3	81.3	84.1	80.0	72.3	
		2 感染症予防対策ができる	65.8	66.7	74.3	76.7	81.9	87.0	83.4	87.9	90.1	88.1	92.4	89.8	92.0	89.6	89.7	90.9	92.6	93.8	97.3	88.7	85.9	
4.事故発生防止		1 感染症発生時に対応できる	51.9	54.5	63.1	75.8	75.2	85.6	80.7	85.0	88.1	87.5	90.1	88.7	88.3	88.1	87.9	89.9	92.1	90.5	95.2	86.0	82.2	
		1 ヒヤリハットの視点を持っている	80.5	83.2	84.9	86.5	88.0	91.3	92.6	92.7	92.0	93.9	92.2	95.5	91.5	92.0	92.9	93.3	97.1	94.8	95.3	91.4	91.1	
		2 事故発生時の対応ができる	65.4	67.0	77.2	81.6	84.5	87.2	88.5	90.0	91.3	91.5	93.8	95.5	93.4	92.5	91.7	96.0	92.2	93.8	90.6	92.2	87.8	
		3 事故報告書を作成できる	71.3	64.2	79.3	82.9	83.5	89.3	88.4	87.2	89.5	91.0	92.9	88.3	91.1	91.5	88.7	92.6	87.4	91.7	88.9	90.4	86.5	
		5.身体拘束廃止	1 身体拘束廃止に向けた対応ができる	48.1	61.7	62.0	69.5	75.5	79.7	77.7	80.1	85.6	80.4	87.8	85.3	82.7	85.7	87.1	89.2	92.2	91.6	93.4	85.2	80.0
6.終末期ケア		1 身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる	26.9	28.6	33.5	42.5	44.1	51.9	54.3	50.2	62.5	58.2	66.7	67.4	66.0	69.1	67.2	70.9	75.5	76.6	78.7	76.1	58.3	
		1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる	40.5	51.9	54.8	62.1	62.7	67.2	70.9	68.5	70.8	74.1	76.3	76.8	73.8	78.4	78.5	85.0	82.2	84.2	91.7	82.7	71.7	
		2 終末期に医療機関または医療職との連携ができる	29.1	39.8	52.9	56.3	57.0	57.5	67.3	60.1	66.2	67.4	72.2	73.3	74.9	74.2	72.1	76.9	78.8	77.9	85.0	78.2	65.9	
Ⅲ.地域包括ケア システム&リー ダーシップ		1.地域包括ケア システム	1 地域内の社会資源との情報共有	35.7	32.1	26.1	43.0	42.1	49.3	45.6	56.1	48.4	55.6	59.6	62.8	59.3	62.5	62.8	72.6	61.7	62.5	72.7	62.1	53.6
			2 地域内の社会資源との業務協力	42.9	25.0	21.7	38.5	37.9	42.8	38.9	45.8	38.0	49.4	52.9	57.1	52.5	57.5	70.2	64.4	58.3	66.7	65.2	49.1	
			3 地域内の関係職種との交流	42.9	28.6	26.1	48.7	39.7	48.1	45.6	51.0	45.9	54.4	50.0	59.6	58.0	64.3	63.5	73.8	55.2	59.6	78.8	69.7	53.2
	4 地域包括ケアの管理業務		14.3	7.1	10.9	17.9	19.9	30.9	17.5	26.0	28.6	36.6	26.7	34.6	38.9	43.3	40.3	59.5	43.1	32.6	57.6	45.5	31.6	
	2.リーダーシッ プ	1 現場で適切な技術指導ができる	50.0	42.9	52.2	66.7	66.0	74.7	71.3	75.6	78.9	81.6	80.4	85.3	87.1	80.7	85.4	91.7	90.0	83.3	91.4	82.1	75.9	
		2 部下の業務支援を適切に行っている	35.7	53.6	60.9	67.9	61.8	72.2	72.2	73.7	76.2	76.7	76.8	80.1	83.4	75.9	85.4	92.9	91.7	87.5	91.4	80.6	74.8	
		3 評価者として適切に評価できる	42.9	42.9	42.2	48.1	47.4	65.8	57.5	64.5	63.2	64.9	69.6	72.9	76.7	71.3	78.8	91.7	86.7	78.7	94.7	94.4	66.7	
		平均	58.5	79.3	84.0	86.6	89.7	91.5	90.9	89.8	91.6	92.4	94.3	92.4	93.8	94.4	93.4	94.8	93.9	94.9	96.4	94.4		

認知症の方がいつもと違う行動を行った場合の対応

「認知症の方がいつもと違う行動を行った場合の対応」については、介護職員としての経験年数5年～10年の介護職員について、できていると評価された介護職員は8割未満となっており、経験年数6年～10年をもってしても2割以上の介護職員が対応できていないとなっている。4年～5年の介護職員については3割以上、2年～3年の介護職員については4割以上と、半数近くの介護職員が対応できていないとなっている。

要介護者における認知症高齢者割合が今後も益々高まっていくことを鑑みれば、新人職員に対する認知症ケアに関するOJTの実施はもとより、2年～5年の介護職員に対する認知症ケアに関する介護技術の評価とOJTの実施、特に4～5年目の介護職員に対する認知症ケアに関する介護技術の評価とOJTを重点的に行うことで、事業所としてより効果的・効率的なOJTの実施が推進されることになるといえる。

相談・苦情の対応

「相談・苦情の対応」については、「認知症の方がいつもと違う行動を行った場合の対応」と同一傾向にあり、介護職員としての経験年数6年～10年の介護職員について、できていると評価された介護職員は8割未満となっており、経験年数5年～10年をもってしても2割以上の介護職員が対応できていないとなっている。「相談・苦情の対応」についてはその要因分析力と課題解決力、多職種連携による対応力など、ケアの展開には不可欠な対応力が求められることから、中堅職員、特に4～5年目の介護職員に対する介護技術の評価とOJTを重点的に行うことが必要であるといえる。

介護過程の展開

「介護過程の展開」、いわゆる個別ケアへの対応については、「利用者に関する情報収集」まではほとんどできているものの、「個別介護計画の立案」、「計画に基づく支援」、「モニタリング」などについては、経験年数6年～10年の介護職員について、できていると評価された介護職員は約7割程度にとどまっており、特に経験年数8年未満の介護職員については3割以上の介護職員が対応できていない。根拠に基づく個別ケアへの対応については介護の専門性の中核をなす実践スキルといえ、チームケアとして実体化されるところである。事業所の提供サービスの質を左右するものであり、中長期的に従事する介護職員には不可欠な対応力として、6～10年目の介護職員に対する介護技術の評価とOJTを重点的に行うことが必要であるといえる。

終末期ケア

「終末期ケア」を必要とする利用者への対応については、認知的側面の対応力も求められる中、利用者の尊厳への配慮は一層重要とされる。一方で対応の機会は限られることから、経験年数10年以上のいわゆるベテランの介護職員についても、できていると評価された介護職員は約7割程度に留まっており、経験年数6年～10年の介護職員と比較しても、できるようになる割合の変化が少ない傾向にある。ただいつ何時、「終末期ケア」の対応を行わなければならない機会に直面するかわからない中で、実践の場でできるだけ多くの中堅介護職員に経験であり学習する機会を積極的に設けていくことが重要となる。OJTについては、特に6～10年目の介護職員に対して、ある程度長い期間を設定し、経験であり学習する機会を積極的に設け、介護技術の評価とOJTを重点的に行うことが必要であるといえる。

地域包括ケアシステムへの取組

地域包括ケアシステムへの取組については、残念ながら経験年数10年以上のいわゆるベテランの介護職員についても、できていると評価された介護職員は約5割程度にとどまっており、介護職員の半数以上が地域包括ケアシステムへの取組ができていない、実施していない、との実態といえる。国の方針としても地域における社会資源を更に活用し、地域共生社会の実現にむけて、地域包括ケアシステムの構築推進、深化が期待されているところであるが、その担い手として大きな期待がされる介護職員について、できる職員が半数以下という現実是非常に危惧するところである。地域包括ケアシステムへの取組については、終末期ケアとは違い、経験年数を問わずに関わりを持ち、OJTの機会を作ることができるものであり、常日頃から意識して実施することが望ましいと考える。

一方で取組として実体化しにくい、また基盤がない現実を早期に打破するためには、経験年数10年以上、いわゆるベテランの介護職員に対する地域包括ケアシステムへの取組に関する評価とOJTについて重点的に実施することが必要となり、効果が得られやすいともいえる。

(2) 期首評価票データの分析（認定者群・未認定者群の比較）

次に、期首評価票データを2019年12月までにレベル認定となった期首評価票データと、評価を開始してから1年以上経過し、結果レベル認定に至らなかった期首評価票データの2群に分けてデータ比較分析を行った。

なお、この2群の位置づけについて、2019年12月までにレベル認定となった期首評価票データ群を「認定者群」＝レベル認定を取得できる事業所に所属する介護職員、いわゆる評価とOJTが一体的に実施され、より効果的・効率的なOJTが実施されている事業所群と、レベル認定に至らなかった期首評価票データ群を「未認定者群」＝レベル認定が取得できない事業所に所属する介護職員、いわゆる評価とOJTが一体的に実施されず、効果的・効率的なOJTが実施されていない事業所群の2群としている。

「認定者群」における経験年数ごとの小項目単位での評価結果「○（できる）」の割合は以下の通りである。

<認定者群>

経験年数ごと介護技術項目（小項目）「○（できる）」割合一覧表（n=4,192件）

90%以上： 80%台： 70%台： 60%台： 50%台： 50%未満：

評価項目			経験年数																				平均	
大項目	中項目	小項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		
Ⅰ. 基本介護技術の評価	1.入浴介助	1 入浴前の確認ができる	80.7	89.0	88.8	92.1	91.5	92.5	93.7	90.9	96.4	92.9	96.3	94.2	95.4	93.3	94.3	97.3	95.7	98.5	100.0	96.8	93.5	
		2 衣服の着脱ができる	81.5	85.4	90.5	91.8	89.8	90.2	94.1	90.9	93.3	94.4	95.1	93.2	95.4	93.9	93.1	94.6	97.1	97.0	97.6	96.8	92.8	
		3 洗拭ができる	77.3	82.5	88.4	90.8	89.8	91.3	92.5	87.4	91.0	92.9	95.1	89.8	92.0	95.0	92.5	95.5	91.4	92.5	97.6	96.8	91.1	
		4 清拭ができる	54.5	70.9	76.4	84.0	82.3	88.8	87.8	83.0	84.3	89.8	93.3	91.2	92.5	97.2	90.8	91.0	94.2	95.5	97.6	95.2	87.0	
	2.食事介助	1 食事前の準備を行うことができる	83.0	85.8	87.3	90.4	92.2	92.9	93.7	89.5	92.4	94.1	97.0	91.7	94.8	95.5	91.4	96.4	95.7	97.0	100.0	93.5	92.7	
		2 食事介助ができる	73.3	80.1	86.7	86.6	86.7	90.2	92.1	87.7	87.9	89.5	91.5	89.3	91.9	92.7	88.5	93.7	87.1	92.4	97.6	95.2	89.0	
		3 口腔ケアができる	71.9	77.6	83.6	84.2	89.1	87.4	87.0	87.7	91.0	88.3	94.5	90.7	94.2	94.4	90.2	95.5	90.0	97.0	97.6	95.2	89.4	
	3.排泄介助	1 排泄の準備を行うことができる	90.3	89.8	93.2	93.5	94.2	95.2	94.1	94.8	95.5	95.7	97.6	94.6	96.6	97.2	96.0	97.3	94.3	98.5	100.0	96.8	95.3	
		2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	78.1	76.4	85.7	88.7	87.0	89.7	92.5	88.5	91.5	91.7	93.3	88.3	90.2	94.4	92.4	95.5	90.0	92.4	97.6	96.8	90.0	
		3 おむつ交換を行うことができる	70.0	79.1	84.6	91.0	89.0	90.5	92.1	89.5	91.9	91.6	95.1	89.7	95.4	95.0	90.8	96.4	90.0	95.5	100.0	98.4	90.8	
	4.移乗・移動、体位変換	1 起居の介助ができる	79.3	80.9	90.0	89.0	90.1	90.9	95.4	89.5	91.9	93.8	96.3	93.6	94.8	96.1	94.2	94.6	97.1	97.0	100.0	98.4	92.7	
		2 一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	75.2	76.7	83.6	85.3	87.0	88.6	90.4	86.9	87.4	89.8	93.2	86.8	90.8	90.4	88.4	91.0	82.9	92.4	95.2	91.9	87.7	
		3 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	68.1	69.9	77.5	81.4	84.6	84.6	84.9	84.6	82.5	86.4	92.0	85.3	89.1	89.4	89.0	86.5	85.7	87.9	95.2	91.9	84.8	
		4 杖歩行の介助ができる	67.9	73.0	78.4	83.6	83.8	87.6	92.9	87.4	89.6	87.9	93.8	87.7	94.2	92.0	84.9	91.9	89.6	90.6	97.6	90.3	87.2	
		5 体位変換ができる	68.4	76.8	82.4	84.6	90.3	87.8	91.6	90.4	89.2	91.6	94.5	89.2	95.3	93.3	90.8	96.4	91.4	95.5	92.9	96.8	89.5	
	5.状況の変化に応じた対応	1 咳やむせごみに対応ができる	68.2	66.9	83.9	87.6	89.7	90.4	92.7	90.6	90.6	91.8	92.7	91.6	94.6	94.6	88.4	94.8	98.3	94.5	97.0	98.0	89.9	
		2 便・尿の異常に対応ができる	58.2	62.5	79.2	78.6	85.0	84.8	86.5	85.3	91.2	90.1	89.8	89.9	89.2	92.5	85.7	92.8	94.9	90.9	97.0	98.0	86.1	
	Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	1 利用者のニーズに関する情報を収集できる	58.2	59.6	78.6	82.3	81.2	84.8	85.4	85.2	91.2	87.6	91.2	88.1	93.1	92.6	87.1	91.8	98.3	89.1	97.0	96.1	85.9
			2 認知症の方がつつと違う行動を行った場合に対応ができる	47.7	44.4	58.3	70.3	70.1	73.6	77.0	77.5	80.0	78.9	86.1	76.5	86.2	88.5	80.3	84.5	86.4	83.6	97.0	84.3	76.6
2.介護過程の展開		1 相談・苦情対応ができる	50.0	44.4	69.8	77.8	68.2	79.0	80.6	71.8	80.2	72.6	81.3	89.6	75.5	87.7	83.5	89.3	94.1	85.1	100.0	91.1	78.6	
		2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる	71.2	68.3	77.5	83.9	82.8	85.6	91.6	87.3	92.4	90.6	93.4	91.2	92.2	93.4	88.3	89.7	93.2	91.2	100.0	96.2	88.0	
		3 利用者に関する情報を収集できる	77.8	88.0	81.0	85.7	86.2	84.6	86.2	92.6	89.6	89.6	97.9	95.7	94.5	92.0	88.1	97.4	96.1	89.4	100.0	97.8	90.5	
3.感染症対策・衛生管理		2 個別介護計画を立案できる	38.9	60.0	55.6	64.4	60.6	68.0	65.1	66.1	79.0	75.0	76.8	86.1	81.5	78.6	78.0	85.5	78.4	83.0	100.0	80.0	73.0	
		3 個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	61.1	68.0	66.7	71.4	68.2	76.9	78.0	77.1	82.5	78.0	86.3	88.7	87.2	82.3	83.5	88.2	80.4	83.0	96.0	84.4	79.4	
		4 個別介護計画の評価ができる	55.6	72.0	54.0	69.2	63.6	74.0	73.4	71.6	75.4	73.2	84.2	84.2	79.8	79.6	81.7	80.3	78.4	76.6	100.0	94.4	75.6	
3.感染症対策・衛生管理		1 感染症予防対策ができる	69.6	62.6	74.6	82.4	84.5	86.7	84.7	84.5	90.7	87.3	94.9	88.8	89.9	92.1	88.3	92.9	93.2	93.0	93.8	96.2	86.5	
		2 感染症発生時に対応できる	55.6	59.3	66.7	83.2	78.2	88.7	85.3	87.3	91.3	89.1	91.8	89.6	88.2	89.5	85.2	90.8	92.0	93.6	96.2	93.3	84.7	
		4.事故発生防止	1 ヒヤリハットの視点を持っている	77.8	92.6	82.5	89.8	91.8	91.5	95.4	90.0	96.1	94.5	97.9	97.4	94.5	91.2	87.2	92.1	98.0	93.6	100.0	97.8	92.6
			2 事故発生時の対応ができる	66.7	74.1	84.1	87.0	85.5	90.6	89.9	88.2	89.8	91.5	95.9	97.4	94.5	93.9	87.2	94.7	96.1	91.5	96.2	95.6	89.5
5.身体拘束廃止		3 事故報告書を作成できる	61.1	68.0	84.1	81.7	86.4	86.7	89.0	84.3	89.7	89.0	95.7	87.8	86.2	90.3	87.2	92.1	90.2	87.2	96.0	95.6	86.4	
		1 身体拘束廃止に向けた対応ができる	58.8	56.0	63.9	74.3	80.7	83.7	75.7	79.4	87.0	78.4	88.3	87.0	79.6	85.7	82.2	92.1	96.1	93.5	100.0	88.9	81.6	
6.終末期ケア		2 身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる	25.0	28.0	44.3	47.1	51.9	62.4	58.7	48.1	72.5	56.3	68.8	71.7	64.2	71.4	64.8	68.4	84.3	73.9	92.0	79.5	61.7	
		1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる	64.7	56.0	65.0	68.6	73.1	70.7	70.8	70.2	78.5	79.1	79.6	80.7	74.5	83.8	75.0	85.1	88.0	78.3	91.7	86.7	76.0	
Ⅲ.地域包括ケアシステムとリーダーシップ		1.地域包括ケアシステム	2 終末期に医療機関または医療職との連携ができる	52.9	36.0	62.3	65.0	68.5	59.2	69.8	62.5	71.1	71.2	73.6	77.0	76.4	77.5	72.9	78.7	82.0	73.9	87.5	82.2	70.0
			1 地域内の社会資源との情報共有	0.0	20.0	25.0	40.0	60.0	56.3	55.3	58.5	63.0	65.3	58.8	69.8	63.8	65.5	60.0	75.0	71.4	58.8	73.3	75.0	55.7
			2 地域内の社会資源との業務協力	0.0	0.0	25.0	41.7	57.5	46.9	50.0	51.2	46.7	55.6	54.9	58.7	58.0	63.8	50.0	83.3	67.9	52.9	66.7	66.7	49.9
	3 地域内の関係職種との交流		0.0	40.0	37.5	50.0	50.0	53.1	50.0	58.5	60.9	56.9	54.9	65.1	63.8	65.5	62.5	80.6	48.1	43.8	86.7	70.8	54.9	
	2.リーダーシップ	4 地域包括ケアの管理業務	0.0	0.0	12.5	20.8	27.5	34.7	23.7	35.0	38.6	45.8	36.0	42.9	43.5	50.0	40.0	72.2	51.9	41.2	60.0	58.3	36.7	
		1 現場で適切な技術指導ができる	0.0	20.0	50.0	80.0	72.5	77.6	73.7	70.7	76.1	88.9	80.8	87.3	85.5	84.2	87.2	91.7	92.9	76.5	100.0	79.2	73.7	
		2 部下の業務支援を適切に行っている	0.0	20.0	75.0	72.0	77.5	75.5	65.8	73.2	84.8	84.9	73.1	79.4	84.1	71.9	87.5	94.4	92.9	88.2	100.0	87.5	74.4	
		3 評価者として適切に評価できる	0.0	20.0	50.0	56.0	60.0	73.5	60.5	63.4	67.4	76.4	66.0	79.0	73.9	82.1	82.1	88.9	89.3	70.6	100.0	79.2	65.9	
	平均			54.6	79.6	85.1	87.8	88.5	89.9	91.7	88.6	90.4	91.4	94.6	90.4	93.5	94.0	91.1	94.2	91.5	94.6	97.8	95.4	

第2章：2. 期首評価票データ分析結果

「未定者群」における経験年数ごとの小項目単位での評価結果「○(できる)」の割合は以下の通りである。

＜未認定者群＞

経験年数ごと介護技術項目（中項目）「○（できる）」割合一覧表（n=4,957 件）

90%以上： 80%台： 70%台： 60%台： 50%台： 50%未満：

大項目	中項目	評価項目	経験年数																				平均
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
Ⅰ.基本介護技術 の評価	1.入浴介助	1 入浴前の確認ができる	87.3	86.5	88.6	92.1	96.2	94.8	92.4	92.3	92.8	94.5	94.4	96.3	96.7	97.3	96.7	98.0	93.8	100.0	98.0	95.3	94.2
		2 衣服の着脱ができる	85.1	86.8	90.8	86.7	94.5	94.2	93.9	93.0	95.2	94.8	95.4	96.7	96.2	94.6	95.3	98.0	100.0	95.2	95.9	96.5	93.9
		3 洗体ができる	77.4	82.6	87.5	86.3	93.7	93.0	92.0	92.3	93.3	94.5	93.9	92.0	95.7	96.6	95.7	96.0	96.9	95.2	98.0	97.7	92.5
		4 消拭ができる	56.7	67.4	73.6	79.9	86.5	91.7	87.6	88.2	91.3	92.0	90.4	93.9	93.4	91.8	94.7	96.0	98.4	95.1	97.9	91.8	87.9
	2.食事介助	1 食事前の準備を行うことができる	83.9	86.4	89.2	89.1	93.2	93.0	90.0	91.9	92.3	94.2	95.9	94.4	95.1	95.2	96.7	92.0	95.3	96.8	95.8	97.6	92.9
		2 食事介助ができる	76.3	81.0	83.8	85.1	90.7	93.3	90.3	90.4	88.5	91.4	93.4	94.8	93.5	93.2	94.3	96.0	93.8	93.5	89.6	89.4	90.1
		3 口腔ケアができる	73.3	77.6	83.0	85.6	86.6	92.7	88.5	88.2	92.8	93.1	95.4	93.0	91.8	92.4	91.9	97.0	96.9	86.9	89.6	90.6	89.4
		1 排泄の準備を行うことができる	89.1	88.6	91.8	92.7	95.0	95.1	94.6	96.0	95.2	97.2	97.4	96.2	96.2	98.0	95.7	97.0	98.4	96.8	93.9	97.6	95.1
	3.排泄介助	2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	75.7	77.0	80.1	86.1	91.7	92.7	88.8	90.0	91.8	91.9	93.4	93.9	95.7	93.9	94.7	93.0	98.4	96.8	95.9	88.1	90.5
		3 おむつ交換を行うことができる	73.8	79.7	81.5	86.3	91.6	93.3	91.5	89.3	94.2	93.0	92.8	95.3	94.0	97.3	97.1	96.0	96.9	93.4	91.5	96.4	91.3
		1 起居の介助ができる	81.5	84.3	87.0	87.8	92.7	95.4	91.1	95.2	96.1	95.3	97.4	96.2	94.6	98.0	98.1	98.0	98.4	100.0	97.9	96.4	94.1
	4.移乗・移動・ 体位変換	2 一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	75.0	74.3	80.0	82.9	88.4	93.6	88.4	90.4	92.8	93.4	92.3	93.4	91.2	95.2	95.7	96.0	95.3	95.1	95.7	92.9	90.1
		3 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	64.3	69.4	71.9	80.9	84.1	88.7	85.4	87.1	92.3	92.2	91.8	91.5	90.7	91.8	93.4	91.9	95.3	90.3	93.6	90.4	86.9
		4 杖歩行の介助ができる	65.5	73.0	78.6	80.4	87.1	89.5	86.4	88.9	90.6	88.1	93.2	91.1	92.9	91.8	90.4	90.9	96.9	96.7	97.9	88.9	87.9
		5 体位変換ができる	68.3	71.4	80.3	82.3	87.4	90.2	91.5	90.1	94.2	92.8	93.9	95.8	94.0	95.9	97.1	97.0	93.8	95.2	95.7	96.3	90.2
	5.状況の変化に 応じた対応	1 咳やむせこみに対応ができる	65.3	74.7	78.5	82.4	83.9	87.5	90.5	90.8	94.4	94.0	92.8	94.5	93.7	95.6	94.7	96.7	98.4	96.5	95.1	96.2	89.8
		2 便・尿の異常に対応ができる	46.0	62.8	71.1	70.9	76.3	80.3	83.8	87.0	91.6	89.3	88.3	91.8	93.6	88.3	92.0	90.0	89.5	90.2	88.5	83.6	
		3 皮膚の異常に対応ができる	43.9	59.7	68.5	73.1	75.7	80.2	82.4	87.4	92.1	87.7	85.0	90.7	90.8	87.6	89.8	88.9	96.7	89.5	95.1	87.2	82.6
		4 認知症の方がいつちと違う行動を行った場合に対応できる	41.9	54.2	56.0	60.8	68.0	73.9	75.1	78.2	79.8	82.1	79.6	84.6	86.1	82.5	86.2	88.9	88.5	91.1	82.9	79.5	76.0
Ⅱ.利用者視点で の評価	1.利用者家族と のコミュニケーション	1 相談・苦情対応ができる	38.1	45.2	50.4	57.2	66.4	73.7	66.3	75.1	75.3	80.4	84.8	82.8	86.5	84.7	86.0	90.3	84.3	91.7	84.6	83.1	74.3
		2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる	66.0	67.9	75.6	73.8	85.1	85.5	79.9	89.5	84.5	91.2	90.1	92.4	93.1	94.1	91.9	95.5	95.2	98.2	90.7	86.3	86.3
		1 利用者に関する情報を収集できる	74.6	80.0	74.6	83.9	87.4	90.2	89.3	90.0	94.0	93.9	96.6	95.4	91.2	92.8	94.9	94.5	98.1	95.9	89.5	88.6	89.8
		2 個別介護計画を立案できる	41.3	45.8	45.3	54.2	57.0	61.7	65.2	68.8	68.7	68.6	81.5	74.7	80.5	82.7	82.4	91.8	88.2	81.6	78.9	72.9	69.6
	2.介護過程の展 開	3 個別介護計画に基づく支援の実施・モニタリングができる	44.4	59.5	55.7	60.0	67.4	71.6	68.6	77.8	79.1	74.4	82.2	81.5	85.2	85.6	86.2	93.2	90.2	85.7	81.6	85.7	75.8
		4 個別介護計画の評価ができる	42.9	50.6	43.4	52.9	58.9	67.9	64.8	76.7	73.0	70.5	79.5	78.0	80.5	82.0	84.2	87.7	90.2	85.7	73.7	77.1	71.0
		3 感染症予防対策ができる	63.7	69.2	74.1	72.4	80.2	87.2	82.3	90.4	89.6	88.6	90.4	90.8	93.6	86.9	90.9	88.6	91.9	94.6	100.0	83.8	85.5
		2 感染症発生時に対応できる	50.8	52.9	61.4	70.9	73.8	84.1	77.6	83.8	85.3	86.5	89.0	88.1	88.4	86.6	89.8	88.9	92.2	87.5	94.6	81.2	80.7
	4.事故発生防止	1 ヒヤリハットの視点を持っている	81.3	80.2	86.0	84.3	86.2	91.2	90.7	94.2	88.6	93.5	88.4	94.1	89.3	92.9	96.9	94.5	96.2	95.9	92.1	87.3	90.2
		2 事故発生時の対応ができる	65.1	64.7	73.9	78.0	84.1	85.6	87.6	91.1	92.6	91.6	92.4	94.1	92.6	91.1	94.9	97.3	88.5	95.9	86.8	90.1	86.9
		3 事故報告書を作成できる	74.2	63.1	76.9	83.8	82.2	90.7	88.1	88.9	89.3	92.3	91.0	88.7	94.6	92.8	89.8	93.2	84.6	95.9	84.2	87.1	86.6
		1 身体拘束廃止に向けた対応ができる	45.2	63.4	61.1	66.2	73.0	77.8	79.0	80.4	84.4	81.7	87.4	84.0	85.0	85.7	90.4	86.1	88.2	89.8	88.9	82.9	79.0
	5.身体拘束廃止	2 身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる	27.4	28.8	28.3	39.5	40.4	46.9	51.3	51.4	54.2	59.4	65.2	64.2	67.4	66.7	68.9	73.6	66.7	79.2	69.4	73.9	56.1
		1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる	33.9	50.6	50.0	57.8	57.7	65.5	71.1	67.6	64.3	70.9	74.1	73.8	73.3	72.9	81.0	84.9	76.0	89.8	91.7	80.0	69.3
		2 終末期に医療機関または医療職との連携ができる	22.6	41.0	48.4	50.7	51.5	56.7	65.6	58.8	62.0	64.9	71.3	70.3	73.8	70.8	71.5	75.0	75.5	81.6	83.3	75.4	63.5
		1 地域内の社会資源との情報共有	38.5	34.8	26.3	44.4	35.7	46.2	40.8	55.3	39.5	51.5	60.0	58.1	55.9	60.5	63.8	70.8	53.1	64.5	72.2	54.8	51.3
Ⅲ.地域包括ケア システム&リー ダーシップ	1.地域包括ケア システム	2 地域内の社会資源との業務協力	46.2	30.4	21.1	37.0	36.0	40.8	33.3	43.9	32.9	46.7	51.8	55.9	48.4	53.5	59.5	60.4	61.3	61.3	66.7	64.3	47.3
		3 地域内の関係職種との交流	46.2	26.1	23.7	48.1	36.0	45.7	43.4	48.2	36.8	53.3	47.1	55.9	53.8	63.5	63.8	68.8	61.3	67.7	72.2	69.0	51.5
		4 地域包括ケアの管理業務	15.4	8.7	10.5	16.7	17.1	29.1	14.5	22.8	22.7	32.5	21.2	29.0	35.5	38.8	40.4	50.0	35.5	27.6	55.6	38.1	28.1
		1 現場で適切な技術指導ができる	53.8	47.8	52.6	60.7	63.7	73.4	70.1	77.4	80.5	78.4	80.2	83.9	88.3	78.4	84.7	91.7	87.5	87.1	84.2	83.7	75.4
	2.リーダーシッ プ	2 部下の業務支援を適切に行っている	38.5	60.9	57.9	66.1	56.3	70.6	75.3	73.9	71.3	73.1	79.1	80.6	83.0	78.4	84.7	91.7	90.6	87.1	84.2	76.7	74.0
		3 評価者として適切に評価できる	46.2	52.2	40.5	44.6	42.9	62.3	56.0	64.9	60.8	59.9	71.8	68.8	78.7	64.4	77.8	93.8	84.4	83.3	89.5	71.4	65.7
		平均	58.2	79.1	83.2	85.6	90.6	92.8	90.2	90.9	92.9	93.2	94.1	94.3	94.1	94.9	95.2	95.5	96.6	95.1	95.1	93.7	

第2章：2. 期首評価票データ分析結果

「認定者群」における中項目単位での介護技術項目「○（できる）」割合一覧表は以下の通りである。

＜認定者群＞

経験年数ごと介護技術項目（中項目）「○（できる）」割合一覧表（n=4,192 件）



評価項目		経験年数																				平均
大項目	中項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
Ⅰ.基本介護技術 の評価	1.入浴介助	73.5	81.9	86.0	89.7	88.4	90.6	92.1	88.0	91.3	92.5	95.0	92.1	93.8	94.8	92.6	94.6	94.5	95.9	98.2	96.4	91
	2.食事介助	76.0	81.2	85.8	87.1	89.3	90.2	90.9	88.3	90.4	90.6	94.2	90.6	93.6	94.2	90.0	95.2	91.0	95.5	98.4	94.4	90.4
	3.排泄介助	79.4	81.8	87.8	91.0	90.1	91.8	92.9	91.0	93.0	93.0	95.3	90.9	94.1	95.5	93.1	96.4	91.4	95.5	99.2	97.3	92.0
	4.移乗・移動・体位変換	71.7	75.5	82.5	84.8	87.1	87.9	91.0	87.6	88.1	89.9	94.0	88.5	92.9	92.2	89.5	92.1	89.1	92.4	96.2	93.9	88.3
	5.状況の変化に応じた対応	58.1	58.4	75.0	79.8	81.5	83.4	85.4	84.7	88.3	87.1	90.0	86.6	90.8	92.1	85.4	91.1	94.5	89.5	97.0	94.1	84.6
Ⅱ.利用者視点で の評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	68.5	64.7	73.2	81.3	77.2	82.8	86.8	80.9	88.4	84.0	88.2	88.8	84.9	91.8	86.2	89.3	92.4	88.6	100.0	94.3	84.6
	2.介護過程の展開	58.3	72.0	64.3	72.9	69.5	76.2	75.7	76.6	81.5	79.0	86.3	88.7	85.8	83.2	82.8	87.8	83.3	83.0	99.0	86.7	79.6
	3.感染症対策・衛生管理	67.9	61.5	72.5	81.1	81.3	85.9	83.6	83.3	90.7	86.9	93.1	87.1	88.8	92.1	86.9	90.8	91.5	93.0	93.8	94.3	85.2
	4.事故発生防止	68.5	77.2	83.6	86.4	87.9	89.6	91.4	87.6	91.6	91.7	96.6	94.2	91.7	91.8	87.2	93.0	94.8	90.8	96.8	96.3	89.4
	5.身体拘束廃止	44.1	42.0	54.8	61.0	66.5	73.6	67.3	64.3	67.3	67.9	78.2	79.1	71.8	77.9	73.4	80.3	90.2	83.7	96.0	84.4	71.8
Ⅲ.地域包括ケア システム&リー ダースhip	6.終末期ケア	58.8	46.0	63.9	67.2	70.8	65.5	70.3	66.3	74.8	75.2	76.3	78.9	75.5	80.6	74.1	82.0	85.0	76.1	89.6	84.4	73.1
	1.地域包括ケアシステム	0.0	15.0	25.0	40.0	48.8	47.4	44.7	51.2	53.3	55.9	51.1	59.1	57.2	61.6	53.1	77.8	60.7	48.5	71.7	67.7	49.5
	2.リーダーシップ	0.0	13.3	58.3	69.3	70.0	75.5	66.7	69.1	76.1	83.3	73.1	82.0	81.2	79.5	85.8	91.7	91.7	78.8	100.0	81.9	71.1

また、「未認定者群」における中項目単位での介護技術項目「○（できる）」割合一覧表は以下の通りである。

＜未認定者群＞

経験年数ごと介護技術項目（中項目）「○（できる）」割合一覧表（n=4,957 件）



評価項目		経験年数																				平均
大項目	中項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
Ⅰ.基本介護技術 の評価	1.入浴介助	76.5	80.7	85.0	86.1	92.8	93.4	91.4	91.5	93.1	94.0	93.5	94.7	95.5	95.1	95.6	97.0	97.3	96.4	97.4	95.3	92.7
	2.食事介助	77.8	81.7	85.4	86.5	90.2	93.0	89.6	90.2	91.2	92.9	94.9	94.1	93.5	93.7	94.3	95.0	95.3	92.5	91.7	92.5	90.8
	3.排泄介助	79.6	81.8	84.5	88.3	92.8	93.7	91.7	91.8	93.8	94.1	94.4	95.1	95.1	96.4	95.9	95.3	97.9	95.7	93.9	94.1	92.3
	4.移乗・移動・体位変換	79.0	74.4	79.6	82.6	87.9	91.5	88.6	90.4	93.2	92.4	93.7	93.6	92.6	94.6	95.0	94.8	95.9	95.3	96.3	93.1	89.8
	5.状況の変化に応じた対応	49.5	62.7	68.6	71.9	76.0	80.5	83.0	85.9	89.6	88.3	86.5	90.4	91.0	88.4	90.7	91.1	95.9	91.7	90.9	87.9	83.0
Ⅱ.利用者視点で の評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	60.1	62.4	70.6	66.3	77.5	80.1	72.5	82.8	79.9	86.2	87.3	87.8	89.9	89.3	88.4	93.2	89.5	94.7	87.2	83.8	81.5
	2.介護過程の展開	50.8	59.7	55.3	62.7	67.7	72.9	71.9	78.4	79.0	77.1	84.9	82.5	84.4	85.3	86.9	91.8	91.8	87.2	80.9	81.1	76.6
	3.感染症対策、衛生管理	59.6	64.5	70.4	69.9	77.1	84.9	78.5	87.3	86.8	86.5	88.5	88.3	90.7	85.1	89.8	88.6	91.9	91.1	97.6	82.5	83.0
	4.事故発生防止	72.9	69.6	78.6	81.8	84.2	88.9	88.8	91.4	90.2	92.1	90.2	92.3	92.1	92.3	93.9	95.9	89.7	95.9	87.7	88.3	87.8
	5.身体拘束廃止	36.3	45.7	45.4	52.9	56.8	63.0	65.3	66.7	69.4	70.6	76.4	73.4	76.5	76.3	80.3	79.9	77.5	84.7	79.2	77.9	67.8
	6.終末期ケア	28.2	45.8	49.2	54.2	54.6	61.4	68.4	63.3	63.3	68.1	72.7	72.1	73.6	71.5	76.5	80.1	76.0	85.7	87.5	77.7	66.5
Ⅲ.地域包括ケア システムとリー	1.地域包括ケアシステム	36.3	25.0	20.4	36.6	30.4	41.2	32.1	32.5	32.9	46.1	45.0	49.7	48.4	54.4	57.1	62.5	53.9	56.5	66.7	56.5	44.8
	2.リーダーシップ	46.2	53.6	50.9	57.1	54.6	69.0	67.5	72.0	71.3	70.5	77.1	77.8	83.3	73.5	82.5	92.4	87.5	86.0	86.0	77.1	71.8

第2章：2．期首評価票データ分析結果

ここで、2つの群、「認定者群」と「未認定者群」の2つの母集団について、中項目単位での介護技術項目「○(できる)」割合に統計学的に違いがあるかどうか検証するため、「統計的検定」を行うこととした。

なお、今回の統計的検定にあたり、母集団やサンプルサイズの以下の条件から、検定方法について「ウエルチのt検定」を採用した。

＜条件＞

- ・2群は異なる集団である（対応のないデータ）
- ・2群の母集団が正規分布であるかどうかわからない
- ・サンプルサイズ（2群計）が30～500である
- ・母集団において2群の標準偏差が異なるといえる

「ウエルチのt検定」の判定方法

標本調査の対応のないデータから統計量「T値」を算出し、「T値」が統計学によって定められた「棄却限界値」より大きければ母集団において2群の母平均は異なる、つまり「有意な差がある」と判断する。

＜標本調査の結果＞

2 群	サンプルサイズ	標本平均	標本標準偏差
A	n_1	X_1	s_1
B	n_2	X_2	s_2

【有意差判定方法】

検定統計量T

$$T \text{ 値} = \frac{X_1 - X_2}{\sqrt{\frac{s_1^2}{n_1} + \frac{s_2^2}{n_2}}}$$

棄却限界値

自由度 f を次式によって求める。

$$f = \left(\frac{s_1^2}{n_1} + \frac{s_2^2}{n_2} \right)^2 \div \left(\frac{s_1^4}{n_1^2 (n_1 - 1)} + \frac{s_2^4}{n_2^2 (n_2 - 1)} \right)$$

求められた自由度から棄却限界値を算定する

f	棄却限界値
10	2.23
20	2.09
30	2.04
40	2.02
50	2.01
60	2.00
70	1.99
80	1.99

f	棄却限界値
90	1.99
100	1.98
200	1.97
300	1.97
400	1.97
500	1.96
1,000	1.96

T値 $\geq$ 棄却限界値 「2 群の母平均は異なる」はいえる

T値 $<$ 棄却限界値 「2 群の母平均は異なる」はいえない

これら統計的検定の方法を使い、各設問ごとの、サンプルサイズ、標本平均、標本標準偏差、「検定統計量 T」並びに「棄却限界値」は以下の表の通りとなり、

T値 $\geq$ 棄却限界値 「差がある」

T値 $<$ 棄却限界値 「差がない」

とした。

第2章：2. 期首評価票データ分析結果

検定における結果は以下の通りである。

認定者群・未認定者群における t 検定結果一覧表 (1/3)

評価項目			経験年数																				
大項目	中項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
Ⅰ.入浴介助	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67	42	62	
		標本平均	73.5	81.9	86.0	89.7	88.4	90.6	92.1	88.0	93.1	92.5	95.0	92.1	93.8	94.8	92.6	94.6	94.5	95.9	98.2	96.4	
		標本標準偏差	30.2	26.6	23.9	21.1	24.0	21.3	19.3	24.2	19.1	18.4	14.4	20.2	15.9	14.4	18.2	16.2	17.0	12.7	8.4	11.7	
	未認定者	サンプルサイズ	370	334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86	
		標本平均	76.5	80.7	85.0	86.1	92.8	93.4	91.4	91.5	93.1	94.0	93.5	94.7	95.5	95.1	95.6	97.0	97.3	96.4	97.4	95.3	
		標本標準偏差	29.2	28.0	24.6	25.7	17.9	16.6	20.4	22.0	18.8	17.6	16.5	17.1	14.9	17.2	14.9	10.2	9.0	11.7	9.1	16.8	
	T値		1.25	0.55	0.54	1.89	2.66	1.75	0.34	1.66	1.03	1.05	0.89	1.44	1.04	0.13	1.73	1.30	1.18	0.22	0.42	0.43	
	自由度		569	543	641	618	518	465	498	468	429	669	358	401	351	285	332	187	107	127	88	146	
	棄却限界値		1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	1.98	1.99	1.98	
	T値-棄却限界値		-0.71	-1.41	-1.42	-0.07	0.70	-0.22	-1.63	-0.31	-0.94	-0.91	-1.08	-0.53	-0.93	-1.84	-0.24	-0.68	-0.80	-1.76	-1.57	-1.55	
	2群差異		差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	
	Ⅱ.食事介助	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67	42	62
			標本平均	76.0	81.2	85.8	87.1	89.3	90.2	90.9	88.3	90.4	90.6	94.2	90.6	93.6	94.2	90.0	95.2	91.0	95.5	98.4	94.6
標本標準偏差			32.5	29.6	26.7	25.7	23.3	22.4	22.5	26.5	23.6	22.5	18.8	23.7	17.3	17.2	21.8	17.2	22.5	12.8	10.2	17.1	
未認定者		サンプルサイズ	370	334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86	
		標本平均	77.8	81.7	85.4	86.5	90.2	93.0	89.6	90.2	91.2	92.9	94.9	94.1	93.5	93.7	94.3	95.0	95.3	92.5	91.7	92.5	
		標本標準偏差	32.7	28.9	27.2	27.3	22.8	19.3	24.3	23.4	22.7	18.7	16.0	17.9	19.8	19.6	16.8	14.4	16.5	17.4	22.0	20.0	
T値		0.69	0.21	0.22	0.30	0.48	1.60	0.62	0.84	0.34	1.44	0.39	1.70	0.08	0.28	2.12	0.09	1.29	1.10	1.92	0.68		
自由度		582	520	637	618	624	500	499	462	430	631	321	381	354	293	321	208	126	112	70	142		
棄却限界値		1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	2.00	1.98		
T値-棄却限界値		-1.27	-1.75	-1.74	-1.66	-1.48	-0.36	-1.35	-1.13	-1.63	-0.52	-1.58	-0.27	-1.89	-1.69	0.15	-1.88	-0.69	-0.88	-0.08	-1.30		
2群差異		差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない		
Ⅲ.基本介護技術 の評価		認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67	42	62
			標本平均	79.4	81.8	87.8	91.0	90.1	91.8	92.9	91.0	93.0	93.0	95.3	90.9	94.1	95.5	93.1	96.4	91.4	95.5	99.2	97.3
	標本標準偏差		29.7	28.8	25.2	23.1	23.0	20.4	20.2	23.0	18.8	20.6	16.0	22.9	18.1	16.3	19.0	13.7	24.4	14.1	5.1	12.4	
	未認定者	サンプルサイズ	370	334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86	
		標本平均	79.6	81.8	84.5	88.3	92.8	93.7	91.7	91.8	93.8	94.1	94.4	95.1	95.1	96.4	95.9	95.3	97.9	95.7	93.9	94.1	
		標本標準偏差	30.7	29.3	27.5	24.3	18.8	18.9	20.5	21.6	19.8	16.1	17.4	17.8	18.9	14.1	15.7	14.2	10.0	15.2	18.7	17.8	
	T値		0.08	0.00	1.66	1.42	1.66	1.13	0.67	0.41	0.42	0.78	0.53	2.12	0.54	0.50	1.55	0.55	2.05	0.09	1.92	1.28	
	自由度		591	533	657	618	555	521	496	475	424	610	355	387	356	323	335	205	93	124	56	146	
	棄却限界値		1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.99	1.98	2.01	1.98	
	T値-棄却限界値		-1.88	-1.96	-0.30	-0.54	-0.30	-0.83	-1.30	-1.56	-1.55	-1.18	-1.44	0.15	-1.43	-1.47	-0.42	-1.42	0.06	-1.89	-0.09	-0.70	
	2群差異		差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	
	Ⅳ.移乗・移動・ 体位変換	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67	42	62
			標本平均	71.7	75.5	82.5	84.8	87.1	87.9	91.0	87.6	88.1	89.9	94.0	88.5	92.9	92.2	89.5	92.1	89.1	92.4	96.2	93.9
標本標準偏差			31.9	31.3	27.9	26.5	24.9	24.0	20.9	25.5	24.0	21.4	16.9	24.8	18.2	19.7	21.1	17.5	23.3	19.0	10.0	16.3	
未認定者		サンプルサイズ	370	334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86	
		標本平均	71.0	74.4	79.6	82.6	87.9	91.5	88.6	90.4	93.2	92.4	93.7	93.6	92.6	94.6	95.0	94.8	95.9	95.3	96.3	93.1	
		標本標準偏差	32.9	32.0	30.0	28.9	22.7	18.4	22.7	21.0	18.8	18.9	16.8	17.7	17.7	17.5	14.4	14.6	11.3	12.7	13.3	18.9	
T値		0.27	0.41	1.31	1.02	0.46	2.00	1.25	1.32	0.49	1.62	0.15	2.41	0.14	1.14	1.90	1.24	2.20	1.03	0.02	0.27		
自由度		590	535	653	620	598	461	499	444	417	648	346	369	354	322	296	208	101	116	88	141		
棄却限界値		1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	1.99	1.98		
T値-棄却限界値		-1.69	-1.55	-0.65	-0.94	-1.50	0.03	-0.72	-0.65	0.52	-0.34	-1.82	0.44	-1.83	-0.83	0.93	-0.73	0.22	-0.95	-1.97	-1.71		
2群差異		差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない		
Ⅴ.状況の変化に 応じた対応		認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67	42	62
			標本平均	58.1	58.4	75.0	79.8	81.5	83.4	85.4	84.7	88.3	87.1	90.0	86.6	90.8	92.1	85.4	91.0	94.5	89.5	97.0	94.1
	標本標準偏差		38.3	36.5	31.6	30.4	27.8	27.4	25.4	26.5	21.7	24.0	22.5	27.3	20.8	19.3	27.0	21.6	14.6	22.7	13.4	12.7	
	未認定者	サンプルサイズ	370	334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86	
		標本平均	49.5	62.7	68.6	71.9	76.0	80.5	83.0	85.9	89.6	88.3	86.5	90.4	91.0	88.4	90.7	91.1	95.9	91.7	90.9	87.9	
		標本標準偏差	38.9	36.5	34.0	34.3	32.2	30.3	29.2	25.8	22.5	22.8	24.9	23.0	20.7	22.5	22.0	22.1	11.3	21.6	21.2	24.9	
	T値		2.79	1.39	2.54	3.03	2.41	1.21	0.99	0.50	0.60	0.67	1.40	1.55	0.11	1.54	2.09	0.04	0.63	0.54	1.67	2.00	
	自由度		585	528	655	621	674	567	498	482	426	668	356	401	355	289	332	206	128	127	82	133	
	棄却限界値		1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	1.98	1.98	
	T値-棄却限界値		0.83	-0.57	0.58	1.07	0.45	-0.75	-0.98	-1.47	-1.37	-1.29	-0.57	-0.42	-1.86	-0.43	0.12	-1.93	-1.35	-1.44	-0.32	0.02	
	2群差異		差がある	差がない	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	

第2章：2. 期首評価票データ分析結果

認定者群・未認定者群における t 検定結果一覧表 (2/3)

評価項目			経験年数																			
大項目	中項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1.利用者家族とのコミュニケーション	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67	42	62
		標本平均	68.5	64.7	73.2	81.3	77.2	82.8	86.8	80.9	88.4	84.0	88.2	88.8	84.9	91.8	86.2	89.3	92.4	88.6	100.0	94.3
		標本標準偏差	45.0	45.5	41.4	35.8	37.9	34.7	29.6	34.2	26.6	30.5	27.9	28.6	26.9	23.3	31.9	27.0	24.0	26.5	0.0	21.0
		サンプルサイズ	370	334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86
		標本平均	60.1	62.4	70.6	66.3	77.5	80.1	72.5	82.8	79.9	86.2	87.3	87.8	89.9	89.3	88.4	93.2	89.5	94.7	87.2	83.8
		標本標準偏差	45.9	45.3	40.6	42.0	35.9	34.7	39.7	31.7	36.3	29.4	28.4	28.0	26.3	26.7	28.2	20.2	24.0	18.0	28.7	33.3
	未認定者	T 値	2.31	0.60	0.83	4.81	0.10	0.92	4.60	0.65	2.74	0.96	0.32	0.36	1.80	0.87	0.72	1.19	0.69	1.55	3.12	2.37
		自由度	586	527	625	620	612	544	481	472	380	670	349	417	354	292	348	202	131	117	48	144
		棄却限界値	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	2.02	1.98
		T値-棄却限界値	0.35	-1.36	-1.13	2.85	-1.86	-1.04	2.63	-1.32	0.77	-1.00	-1.65	-1.61	-0.17	-1.10	-1.25	-0.78	-1.29	-0.43	1.10	0.39
		2群差異	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある
		2.介護過程の展開	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67
標本平均	58.3			72.0	64.3	72.9	69.5	76.2	75.7	76.6	81.5	79.0	86.3	88.7	85.8	83.2	82.8	87.8	83.3	83.0	99.0	86.7
標本標準偏差	40.0			29.4	39.3	35.4	36.7	34.0	34.3	33.1	30.8	33.1	26.1	26.4	28.0	29.1	31.5	25.5	30.4	31.4	4.9	27.2
サンプルサイズ	370			334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86
標本平均	50.8			59.7	55.3	62.7	67.7	72.9	71.9	78.4	79.0	77.1	84.9	82.5	84.4	85.3	86.9	91.8	91.8	87.2	80.9	81.1
標本標準偏差	39.3			40.2	39.7	38.6	36.8	35.5	35.8	33.3	31.0	33.0	29.5	30.1	28.2	29.6	27.4	21.5	22.3	26.3	33.2	32.3
未認定者	T 値		2.37	4.25	2.94	3.41	0.65	1.15	1.21	0.61	0.84	0.74	0.47	2.26	0.47	0.64	1.36	1.22	1.85	0.84	3.77	1.14
	自由度		574	578	635	620	633	555	498	488	428	676	358	414	355	310	346	208	126	126	50	142
	棄却限界値		1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	2.01	1.98
	T値-棄却限界値		0.41	2.29	0.98	1.45	-1.31	-0.81	-0.76	-1.36	-1.13	-1.22	-1.50	0.29	-1.50	-1.33	-0.61	-0.75	-0.13	-1.14	1.76	-0.84
	2群差異		差がある	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない
	3.感染症対策・衛生管理		認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67
標本平均		67.9		61.5	72.5	81.1	81.3	85.9	83.6	83.3	90.7	86.9	93.1	87.1	88.8	91.1	86.9	90.8	91.5	93.0	93.8	94.3
標本標準偏差		45.7		47.7	42.8	36.9	36.5	32.5	34.2	35.3	25.3	29.8	22.8	31.8	26.6	23.7	31.1	26.1	26.3	23.8	24.2	18.6
サンプルサイズ		370		334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86
標本平均		59.6		64.5	70.4	69.9	77.1	84.9	78.5	87.3	86.8	86.5	88.5	88.3	90.7	85.1	89.8	88.6	91.9	91.1	97.6	82.5
標本標準偏差		46.6		44.6	42.7	43.4	37.6	32.9	38.1	29.5	31.7	31.8	29.4	29.2	25.3	32.6	28.0	29.9	24.1	25.2	10.8	34.6
未認定者		T 値	2.25	0.76	0.64	3.47	1.47	0.37	1.59	1.35	1.40	0.16	1.67	0.42	0.71	1.85	0.95	0.56	0.09	0.44	0.94	2.68
		自由度	586	507	630	620	641	547	499	447	397	684	357	412	352	260	352	198	132	128	55	136
		棄却限界値	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	1.98	2.01	1.98
		T値-棄却限界値	0.29	-1.20	-1.32	1.51	-0.49	-1.59	-0.38	-0.62	-0.57	-1.80	-0.30	-1.55	-1.26	-0.12	-1.02	-1.42	-1.89	-1.54	-1.07	0.70
		2群差異	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある
		4.事故発生防止	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67
標本平均	68.5			77.2	83.6	86.4	87.9	89.6	91.4	87.6	91.6	91.7	96.6	94.2	91.7	91.8	87.2	93.0	94.8	90.8	96.8	96.3
標本標準偏差	37.9			29.1	26.5	27.2	24.9	25.6	21.8	26.9	19.6	22.1	13.9	16.0	20.9	22.3	26.7	22.5	17.9	24.5	11.3	10.5
サンプルサイズ	370			334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86
標本平均	72.9			69.6	78.6	81.8	84.2	88.9	88.8	91.4	90.2	92.1	90.2	92.3	92.1	92.3	93.9	95.0	89.7	95.9	87.7	88.3
標本標準偏差	36.3			36.6	32.3	32.5	28.7	25.7	25.2	22.2	22.9	20.1	24.4	21.1	20.3	21.8	17.9	18.0	22.2	12.8	27.0	27.5
未認定者	T 値		1.48	2.78	2.25	1.95	1.80	0.34	1.25	1.72	0.67	0.24	3.11	1.03	0.20	0.18	2.86	0.71	1.43	1.51	2.15	2.47
	自由度		567	575	680	619	673	544	498	444	410	656	320	397	353	314	292	206	121	101	67	116
	棄却限界値		1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	2.00	1.98
	T値-棄却限界値		-0.48	0.82	0.29	-0.01	-0.16	-1.62	-0.72	-0.25	-1.30	-1.72	1.14	-0.94	-1.77	-1.79	0.89	-1.26	-0.55	-0.47	0.15	0.49
	2群差異		差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある
	5.身体拘束廃止		認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67
標本平均		44.1		42.0	54.8	61.0	66.5	73.6	67.3	64.0	79.3	67.9	78.2	79.1	71.8	77.9	73.4	80.3	90.2	83.7	96.0	84.4
標本標準偏差		41.6		39.2	43.7	41.4	37.7	36.7	41.6	38.5	33.7	39.9	33.9	34.3	40.4	35.2	36.4	31.5	22.2	27.7	13.6	29.5
サンプルサイズ		370		334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86
標本平均		36.3		45.7	45.4	52.9	56.8	63.0	65.3	66.7	69.4	70.6	76.6	74.3	76.5	76.3	80.3	79.9	77.5	84.7	79.2	77.9
標本標準偏差		42.3		38.4	40.7	42.2	40.4	39.0	38.5	38.8	35.2	36.9	34.4	37.3	36.1	34.7	32.8	35.3	33.3	28.9	34.1	37.5
未認定者		T 値	2.33	1.14	2.88	2.40	3.25	3.36	0.56	0.76	2.98	0.92	0.45	1.37	1.18	0.40	1.94	0.09	2.58	0.20	3.17	1.20
		自由度	585	522	606	614	654	559	485	488	425	661	349	417	346	313	352	200	108	125	65	145
		棄却限界値	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	2.00	1.98
		T値-棄却限界値	0.37	-0.82	0.92	0.44	1.29	1.40	-1.41	-1.21	1.01	-1.04	-1.52	-0.60	-0.79	-1.57	-0.03	-1.88	0.60	-1.78	1.17	-0.78
		2群差異	差がある	差がない	差がある	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がない
		6.終末期ケア	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67
標本平均	58.8			46.0	63.9	67.2	70.8	65.5	70.3	66.3	74.8	75.2	76.3	78.9	75.5	80.6	74.1	82.0	85.0	76.1	89.6	84.4
標本標準偏差	46.1			42.2	42.6	44.0	41.5	42.8	42.2	43.5	39.7	39.3	39.2	37.4	39.6	35.0	40.5	35.3	33.5	40.0	28.8	34.7
サンプルサイズ	370			334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86
標本平均	28.2			45.8	49.2	54.2	54.6	61.4	68.4	63.3	63.3	68.1	72.7	72.1	73.6	71.5	76.5	80.1	76.0	81.7	87.5	77.7
標本標準偏差	40.8			44.0	46.3	44.8	45.3	44.9	40.8	44.2	44.2	42.4	41.7	42.7	41.0	43.3	38.4	36.8	40.3	31.9	29.8	39.3
未認定者	T 値		8.70	0.06	4.32	3.63	4.90	1.12	0.50	0.78	2.84	2.26	0.85	1.76	0.43	2.06	0.59	0.37	1.40	1.52	0.34	1.11
	自由度		536	540	657	614	659	556	491	489	418	685	354	414	356	279	361	205	123	124	88	140
	棄却限界値		1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	1.99	1.98
	T値-棄却限界値		6.94	1.90	2.36	1.67	2.94	-0.84	-1.47	-1.19	0.87	0.30	-1.12	-0.21	-1.54	0.09	-1.38	-1.60	-0.58	-0.46	-1.65	-0.87
	2群差異		差がある	差がない	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない					

第2章：2．期首評価票データ分析結果

認定者群・未認定者群における t 検定結果一覧表（3/3）

評価項目				経験年数																			
大項目	中項目			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅲ.地域包括ケアシステム＆リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67	42	62
			標本平均	0.0	15.0	25.0	40.0	48.8	47.4	44.7	51.2	53.3	55.9	51.5	59.1	57.2	61.6	53.1	77.8	60.7	48.5	71.7	67.7
			標本標準偏差	0.0	20.0	37.5	43.0	41.8	43.5	40.6	43.5	41.2	42.4	42.1	38.9	42.4	41.6	42.3	34.7	40.9	41.5	38.6	41.1
		未認定者	サンプルサイズ	370	334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86
			標本平均	36.5	25.0	20.4	36.6	30.4	41.2	33.1	42.5	32.9	46.1	45.0	49.7	48.4	54.4	57.1	62.5	53.9	56.5	66.7	56.5
			標本標準偏差	38.7	34.6	34.3	38.4	39.6	44.2	37.4	39.7	38.9	43.1	38.9	40.2	41.9	41.8	41.2	42.7	42.9	39.1	41.7	41.2
		T 値		18.14	4.38	1.65	1.04	5.85	1.71	3.32	2.32	5.28	3.02	1.50	2.43	1.99	1.57	0.93	2.83	0.94	1.12	0.59	1.63
		自由度		369	550	599	588	611	548	484	469	430	679	336	418	354	311	366	191	130	127	88	132
		棄却限界値		1.97	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	1.98	1.99	1.98
		T値-棄却限界値		16.17	2.42	-0.31	-0.92	3.89	-0.25	1.35	0.35	3.31	1.06	-0.47	0.46	0.02	-0.40	-1.04	0.85	-1.04	-0.86	-1.40	-0.35
		2群差異		差がある	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がある	差がある	差がある	差がない	差がある	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない
	2.リーダーシップ	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67	42	62
			標本平均	0.0	13.3	58.3	69.3	70.0	75.5	66.7	69.1	76.1	83.3	73.1	82.0	81.2	79.5	85.8	91.7	91.7	78.4	100.0	81.9
			標本標準偏差	0.0	16.3	43.3	37.6	40.7	39.7	41.9	40.6	31.6	31.0	37.6	32.4	31.3	34.6	29.7	25.3	19.2	32.2	0.0	36.0
		未認定者	サンプルサイズ	370	334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86
			標本平均	46.2	53.6	50.9	57.1	54.6	69.0	67.5	72.0	71.3	70.5	77.1	77.8	83.3	73.5	82.5	92.4	87.5	86.0	86.0	77.1
			標本標準偏差	46.3	46.9	41.7	40.2	41.6	40.4	38.4	38.1	38.7	37.5	36.0	35.0	30.7	38.0	32.1	21.8	29.8	29.1	33.0	36.7
		T 値		19.18	14.56	2.27	3.91	4.89	1.96	0.24	0.83	1.39	4.93	1.04	1.29	0.66	1.49	1.06	0.21	0.95	1.41	2.98	0.80
		自由度		369	436	618	619	639	548	483	475	402	682	342	417	354	299	378	209	106	127	48	133
		棄却限界値		1.97	1.97	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	2.02	1.98
		T値-棄却限界値		17.21	12.59	0.31	1.95	2.93	0.00	-1.73	-1.14	-0.58	2.97	-0.93	-0.68	-1.31	-0.48	-0.91	-1.76	-1.03	-0.57	0.96	-1.18
		2群差異		差がある	差がある	差がある	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない

また、これらの認定者群と未認定者群における「○（できる）」割合の差と検定結果を一覧にまとめると以下の通りとなる。なお、認定者群と未認定者群における割合の差において 8.0%以上の差があるものについては 網掛けをしている。

「○（できる）」割合・検定結果一覧表（1/2）

90%以上： 80%台： 70%台： 60%台： 50%台： 50%未満：

評価項目			経験年数																			
大項目	中項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅰ.基本介護技術 の評価	1.入浴介助	認定者	73.5	81.9	86.0	89.7	88.4	90.6	92.1	88.0	91.3	92.5	95.0	92.1	93.8	94.8	92.6	94.6	94.5	95.9	98.2	96.4
		未認定者	76.5	80.7	85.0	86.1	92.8	93.4	91.4	91.5	93.1	94.0	93.5	94.7	95.5	95.1	95.6	97.0	97.3	96.4	97.4	95.3
		単純差	-3.0	1.3	1.0	3.5	-4.4	-2.8	0.6	-3.4	-1.9	-1.4	1.4	-2.6	-1.7	-0.2	-3.0	-2.4	-2.7	-0.5	0.8	1.0
		2群差異	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
	2.食事介助	認定者	76.0	81.2	85.8	87.1	89.3	90.2	90.9	88.3	90.4	90.6	94.2	90.6	93.6	94.2	90.0	95.2	91.0	95.5	98.4	94.6
		未認定者	77.8	81.7	85.4	86.5	90.2	93.0	89.6	90.2	91.2	92.9	94.9	94.1	93.5	93.7	94.3	95.0	95.3	92.5	91.7	92.5
		単純差	-1.8	-0.5	0.5	0.6	-0.9	-2.8	1.3	-1.9	-0.8	-2.3	-0.7	-3.5	0.2	0.6	-4.3	0.2	-4.4	3.0	6.7	2.1
		2群差異	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
	3.排泄介助	認定者	79.4	81.8	87.8	91.0	90.1	91.8	92.9	91.0	93.0	93.0	95.3	90.9	94.1	95.5	93.1	96.4	91.4	95.5	99.2	97.3
		未認定者	79.6	81.8	84.5	88.3	92.8	93.7	91.7	91.8	93.8	94.1	94.4	95.1	95.1	96.4	95.9	95.3	97.9	95.7	93.9	94.1
		単純差	-0.2	0.0	3.3	2.7	-2.7	-1.9	1.2	-0.8	-0.8	-1.1	0.9	-4.3	-1.0	-0.8	-2.8	1.1	-6.5	-0.2	5.3	3.2
		2群差異	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない
	4.移乗・移動・ 体位変換	認定者	71.7	75.5	82.5	84.8	87.1	87.9	91.0	87.6	88.1	89.9	94.0	88.5	92.9	92.2	89.5	92.1	89.1	92.4	96.2	93.9
		未認定者	71.0	74.4	79.6	82.6	87.9	91.5	88.6	90.4	93.2	92.4	93.7	93.6	92.6	94.6	95.0	94.8	95.9	95.3	96.3	93.1
		単純差	0.7	1.1	2.9	2.3	-0.8	-3.6	2.4	-2.8	-5.1	-2.5	0.3	-5.1	0.3	-2.4	-5.5	-2.7	-6.9	-2.9	-0.1	0.8
		2群差異	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない
	5.状況の変化に 応じた対応	認定者	58.1	58.4	75.0	79.8	81.5	83.4	85.4	84.7	88.3	87.1	90.0	86.6	90.8	92.1	85.4	91.0	94.5	89.5	97.0	94.1
		未認定者	49.5	62.7	68.6	71.9	76.0	80.5	83.0	85.9	89.6	88.3	86.5	90.4	91.0	88.4	90.7	91.1	95.9	91.7	90.9	87.9
		単純差	8.6	-4.3	6.4	7.9	5.5	2.9	2.4	-1.2	-1.3	-1.2	3.5	-3.8	-0.2	3.6	-5.3	-0.1	-1.4	-2.1	6.1	6.2
		2群差異	差がある	差がない	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある

第2章：2. 期首評価票データ分析結果

「〇（できる）」割合・検定結果一覧表（2/2）

90%以上： 80%台： 70%台： 60%台： 50%台： 50%未満：

評価項目			経験年数																			
大項目	中項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	認定者	68.5	64.7	73.2	81.3	77.2	82.8	86.8	80.9	88.4	84.0	88.2	88.8	84.9	91.8	86.2	89.3	92.4	88.6	100.0	94.3
		未認定者	60.1	62.4	70.6	66.3	77.5	80.1	72.5	82.8	79.9	86.2	87.3	87.8	89.9	89.3	88.4	93.2	89.5	94.7	87.2	83.8
		単純差	8.4	2.3	2.6	15.0	-0.3	2.7	14.3	-1.9	8.4	-2.2	0.9	1.0	-5.1	2.4	-2.2	-3.9	2.9	-6.1	12.8	10.6
		2群差異	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある
	2.介護過程の展開	認定者	58.3	72.0	64.3	72.9	69.5	76.2	75.7	76.6	81.5	79.0	86.3	88.7	85.8	83.2	82.8	87.8	83.3	83.0	99.0	86.7
		未認定者	50.8	59.7	55.3	62.7	67.7	72.9	71.9	78.4	79.0	77.1	84.9	82.5	84.4	85.3	86.9	91.8	91.8	87.2	80.9	81.1
		単純差	7.5	12.3	8.9	10.1	1.8	3.3	3.8	-1.8	2.5	1.9	1.4	6.2	1.4	-2.1	-4.2	-4.0	-8.5	-4.3	18.1	5.6
		2群差異	差がある	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない
	3.感染症対策・衛生管理	認定者	67.9	61.5	72.5	81.1	81.3	85.9	83.6	83.3	90.7	86.9	93.1	87.1	88.8	91.1	86.9	90.8	91.5	93.0	93.8	94.3
		未認定者	59.6	64.5	70.4	69.9	77.1	84.9	78.5	87.3	86.8	86.5	88.5	88.3	90.7	85.1	89.8	88.6	91.9	91.1	97.6	82.5
		単純差	8.3	-3.0	2.1	11.2	4.2	1.0	5.1	-4.0	3.9	0.4	4.6	-1.3	-1.9	6.0	-2.9	2.2	-0.4	1.9	-3.8	11.8
		2群差異	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある
	4.事故発生防止	認定者	68.5	77.2	83.6	86.4	87.9	89.6	91.4	87.6	91.6	91.7	96.6	94.2	91.7	91.8	87.2	93.0	94.8	90.8	96.8	96.3
		未認定者	72.9	69.6	78.6	81.8	84.2	88.9	88.8	91.4	90.2	92.1	90.2	92.3	92.1	92.3	93.9	95.0	89.7	95.9	87.7	88.3
		単純差	-4.4	7.6	5.0	4.7	3.7	0.7	2.6	-3.8	1.4	-0.4	6.4	1.9	-0.4	-0.4	-6.8	-2.0	5.0	-5.1	9.1	8.0
		2群差異	差がない	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある
	5.身体拘束廃止	認定者	44.1	42.0	54.8	61.0	66.5	73.6	67.3	64.0	79.3	67.9	78.2	79.1	71.8	77.9	73.4	80.3	90.2	83.7	96.0	84.4
		未認定者	36.3	45.7	45.4	52.9	56.8	63.0	65.3	66.7	69.4	70.6	76.6	74.3	76.5	76.3	80.3	79.9	77.5	84.7	79.2	77.9
		単純差	7.8	-3.7	9.4	8.0	9.7	10.6	2.0	-2.6	9.9	-2.7	1.6	4.8	-4.8	1.5	-6.9	0.4	12.7	-1.0	16.8	6.6
		2群差異	差がある	差がない	差がある	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がない
	6.終末期ケア	認定者	58.8	46.0	63.9	67.2	70.8	65.5	70.3	66.3	74.8	75.2	76.3	78.9	75.5	80.6	74.1	82.0	85.0	76.1	89.6	84.4
		未認定者	28.2	45.8	49.2	54.2	54.6	61.4	68.4	63.3	63.3	68.1	72.7	72.1	73.6	71.5	76.5	80.1	76.0	85.7	87.5	77.7
		単純差	30.6	0.2	14.7	12.9	16.2	4.1	1.9	3.0	11.5	7.0	3.6	6.9	1.8	9.1	-2.4	1.9	9.0	-9.6	2.1	6.8
		2群差異	差がある	差がない	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
Ⅲ.地域包括ケアシステム&リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	認定者	—	—	25.0	40.0	48.8	47.4	44.7	51.2	53.3	55.9	51.5	59.1	57.2	61.6	53.1	77.8	60.7	48.5	71.7	67.7
		未認定者	36.5	25.0	20.4	36.6	30.4	41.2	33.1	42.5	32.9	46.1	45.0	49.7	48.4	54.4	57.1	62.5	53.9	56.5	66.7	56.5
		単純差	—	—	4.6	3.4	18.4	6.3	11.6	8.7	20.4	9.8	6.5	9.4	8.9	7.3	-4.0	15.3	6.8	-7.9	5.0	11.2
		2群差異	—	—	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がある	差がある	差がある	差がない	差がある	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない
	2.リーダーシップ	認定者	—	—	58.3	69.3	70.0	75.5	66.7	69.1	76.1	83.3	73.1	82.0	81.2	79.5	85.8	91.7	91.7	78.4	100.0	81.9
		未認定者	46.2	53.6	50.9	57.1	54.6	69.0	67.5	72.0	71.3	70.5	77.1	77.8	83.3	73.5	82.5	92.4	87.5	86.0	86.0	77.1
		単純差	—	—	7.5	12.2	15.4	6.5	-0.9	-2.9	4.7	12.9	-4.1	4.2	-2.2	6.0	3.3	-0.7	4.2	-7.6	14.0	4.8
		2群差異	—	—	差がある	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない

（3）認定者群・未認定者群の比較による OJT 効果の違い

これら「○（できる）」割合の差と検定結果を検定結果を踏まえると、認定者群と未認定者群において以下の通りの差があるといえる。

状況の変化に応じた対応

「状況の変化に応じた対応」、「便・尿の異常時の対応」、「皮膚の異常時の対応」、「認知症の方がいつもと違う行動を行った場合の対応」について、介護職員経験年数1年～5年の職員について「○（できる）」割合の差が出ている。このことは、認定者群と未認定者群を比較すると、介護職員経験として1年～5年の早い段階、特に経験年数が1年未満のいわゆる新人の介護職員に対し、状況の変化に応じた対応に対する OJT が実践され、介護技術として身につけている新人の介護職員が多いといえる。従って認定者群をレベル認定が取得できる事業所群とすると、介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、状況の変化に応じた対応の実践力について、取組がされていない事業所と比較すると、新人職員の段階から評価と OJT が一体的に実施され、早い段階で実践力が身につき、対応ができるようになっている事業所である、といえる。

利用者家族とのコミュニケーション

「利用者家族とのコミュニケーション」、その中でも「相談・苦情に対する対応」について、介護職員経験年数1年～10年にわたって「○（できる）」割合の差が出ている。このことは、相談・苦情が発生した場合の対応について、対応する介護職員に偏りがあり、対応力として学ぶ OJT が限られた介護職員に対して行われているか、あるいは OJT を通じて学ぶ機会をできるだけ均等に配分しているかの差が出ているといえる。したがって、介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、相談・苦情に対する対応の実践力について、取組がされていない事業所と比較すると、相談・苦情が発生した場合の対応について OJT を通じて学ぶ機会をできるだけ均等に配分し、より多くの介護職員について実践力が身につき、対応ができるようになっている事業所である、といえる。

介護過程の展開

「介護過程の展開」について、介護職員経験年数2年～4年にわたって「○（できる）」割合の差が出ている。全体として経験年数6年～10年の介護職員について、できていると評価された介護職員は約7割程度にとどまっており、特に経験年数8年未満の介護職員については3割以上の介護職員が対応できていないとなっている。介護過程の展開に関する対応力について、介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、介護職員経験年数2年～4年の早い段階から、介護過程の展開に関する対応力のOJTが実践されていることがわかる。取組がされていない事業所と比較すると、介護の専門職として、専門的知見であり経験、実践力が求められる介護過程の展開に関する対応力について重視し、重点的にOJTを実施している事業所である、といえる。

感染症対策・衛生管理

「感染症対策・衛生管理」について、介護職員経験年数1年と4年に「○（できる）」割合の差が出ている。感染症対策・衛生管理については昨今の新型コロナウイルスのような感染症が発生した際、新人職員であろうがベテランの職員であろうが感染症対策・衛生管理ができていなければならない。これは普段からスタンダードプリコーション、医療・介護を提供するすべての場所で適用される標準的感染予防措置策が事業所内で徹底的に実施されている必要がある、ということである。介護職員経験年数1年に「○（できる）」割合の差が出ているということは、介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、新人職員の段階から、スタンダードプリコーションの実施が徹底され、取組がされていない事業所と比較すると、新人職員に対するスタンダードプリコーション、感染症発生時の対応についてOJTが徹底的に実施されている事業所である、といえる。また、感染症対策・衛生管理については普段からの実施、継続性が重要である。このことについて、介護職員経験年数4年にて「○（できる）」割合の差が出ていることに注目したい。介護職員として経験年数を重ねると、こうした継続的实施事項について緩慢になることがあるが、介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、そうした気のゆるみが発生しないよう、介護キャリア段位を活用し、一定期間において評価・点検を行っていると考えられ、それがこの差にあらわれていると考えられる。

事故発生防止

事故発生防止について、特に事故発生時の対応について介護職員経験年数 2 年～3 年に「○（できる）」割合の差が出ている。このことは、状況の変化に応じた対応と同様に、経験年数が 1 年未満のいわゆる新人の介護職員に対し、事故発生時の対応に対する OJT が実践され、対応力を身につけている新人の介護職員が多いといえる。したがって認定者群をレベル認定が取得できる事業所群とすると、介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、事故発生時の対応の実践力について、取組がされていない事業所と比較すると、新人職員の段階から評価と OJT が一体的に実施され、早い段階で実践力が身につく、対応ができるようになっている事業所である、といえる。

身体拘束廃止

身体拘束廃止にむけた取組について、介護キャリア段位制度に取り組んでいない介護事業所等からはよく誤解を招くところであるが、介護キャリア段位制度における身体拘束廃止にむけた取組については、決して身体拘束を行っている事業所だけが廃止にむけた取組を行い、評価として「○（できる）」ようになる、というわけではない。というのも、スピーチロックやドラッグロック、認知症患者の徘徊を防ぐため、あるいは転倒防止のためにつける離床センサー（マット）の使用等、物理的な拘束はしておらず、一見、身体拘束にはあたらないと思われるもの、得てして自身では気づかないものが日頃の介護において多く潜んでいるからである。身体拘束廃止にむけた取組にあたっては、そうしたことをできるだけ見出しなくしていく仕組みを作り、日頃から意識すること、そのために身体拘束の定義を正しく理解し、新人職員、ベテラン職員関係なくそれを事業所内で共有していくことが重要であるといえる。

そうした中で介護職員経験年数 1 年～10 年にわたって「○（できる）」割合の差が出ている。このことは介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、身体拘束廃止にむけた取組について、介護キャリア段位に取組がされていない事業所と比較すると、新人職員からベテラン職員まで幅広く、身体拘束に関する最新情報などを入手し、身体拘束に関する定義を正しく理解、そして事業所内で共有できる仕組みが構築されている事業所である、といえる。

終末期ケア

終末期ケアを必要とする利用者への対応については、全体においても、経験年数 10 年以上のいわゆるベテランの介護職員について、できていると評価された介護職員は約 7 割程度に留まっており、終末期ケアの対応を行う機会、経験であり学習する機会があまりない中で、対応力を身につけていくことは容易ではないことは明らかである。そうした中で介護職員経験年数 1 年～10 年にわたって「○(できる)」割合の差が出ているということは、介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、終末期ケアの対応を行う機会において、できるだけ多くの中堅介護職員に経験であり学習する機会を積極的に設けている事業所である、といえる。終末期ケアについては利用者の身体的・精神的ケアをはじめとして、置かれた環境であり、家族に対する対応、精神的ケアも必要なことであることから、介護職員としての専門的な対応の中でも特に高度な技量を要するものである。したがってその対応ができる職員が早くからトレーニングを受けているということは介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、取り組んでいない事業所と比較すると、専門的知見と高度な技量を兼ねそろえた介護職員が多くいる、といえる。

地域包括ケアシステムの取組

今回の認定者群・未認定者群を比較し、「○(できる)」割合の差について、その差が有意であり、介護職員の経験年数においても新人職員から 10 年以上のベテラン職員まで、多くの差であり、大きな差がみられたのがこの地域包括ケアシステムへの取組であった。このことは、介護キャリア段位制度の取組を通じて、初めて地域包括ケアシステムへの取組について学習し、対応力向上にむけた取組がされている、といえる。

つまり、介護キャリア段位制度に取り組まない事業所については、介護職員に対して地域包括ケアシステムについて学習する機会、対応力向上にむけた OJT の実施が皆無に等しい、といえる。逆に言うと、介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、国の方針でもある、地域共生社会の実現にむけた地域包括ケアシステムの構築、地域における様々な社会資源を把握し、多職種連携をはかる必要が出てきた場合に、適宜調整を行い対応ができる、いわゆるコーディネート力が備わった介護職員がより多くいる事業所である、といえる。

リーダーシップ

介護職員のキャリアパスにおける重要な必要要素として、介護職員としてのリーダーシップが挙げられる。チームケアを行う中で、チームとしての対応力の違いは、リーダーが如何にリーダーシップを発揮し、個々の介護職員の連携を高め、様々な角度でのアセスメントであり状況といった情報を収集・集約し、チーム内に共有することができるか、また所属するチームについて客観的評価を行い、個々の介護職員に対して指導でありアドバイスができるか、そして何よりもチームを構成する介護職員や他職種を含めて積極的にコミュニケーションをとることができるか、というところに出てくるといえる。そうした中で介護職員経験年数3年～5年について「○（できる）」割合の差が出ているということは、介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、できるだけ早期に次世代リーダーを育てる気風がある、ひいては介護職員のキャリアパスについて構築がされている割合が高い、といえる。

認定者群、未認定者群の期首評価データ比較によって、認定者群事業所においては、入職後～5年目の間に、専門性を構築する上記の分野の経験と学習の機会を設けていることが伺える。換言すると、入職以降の5年を見据えた教育がシステム化されている事業所と、特段システム化されておらず、分野によって未経験のまま経過をたどる事業所、すなわちスキルアップのパスがなく教育システムがない事業所との違いが、数値として如実に示されている。

(4) 期首評価票データの分析 (2016年群・2019年群の比較)

次に、2016年に登録された期首評価票データと、3年経過後の2019年に登録された期首評価票データの2群に分けてデータ比較分析を行った。

「2016年」に登録された期首評価票における経験年数ごとの小項目単位での評価結果「○(できる)」の割合は以下の通りである。

<2016年>

経験年数ごと介護技術項目(小項目)「○(できる)」割合一覧表 (n=3,893件)

90%以上： 80%台： 70%台： 60%台： 50%台： 50%未満：

大項目	中項目	評価項目 小項目	経験年数																				平均
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
Ⅰ. 基本介護技術 の評価	1.入浴介助	1 入浴前の確認ができる	81.7	84.8	88.1	92.7	93.5	93.4	95.0	90.5	92.6	94.5	95.3	95.6	95.3	98.5	96.3	100.0	97.6	100.0	97.3	95.5	93.9
		2 衣服の着脱ができる	80.3	79.6	89.0	89.0	92.4	90.7	95.0	91.0	93.7	93.3	94.6	96.5	95.9	92.4	95.6	95.6	97.6	94.7	94.6	97.0	92.4
		3 洗体ができる	73.9	76.7	84.5	86.9	92.7	89.4	94.1	88.4	92.0	93.0	95.9	93.0	93.5	91.6	93.8	98.9	90.5	93.0	97.3	97.0	90.8
		4 清拭ができる	52.4	62.5	69.7	83.9	83.1	87.6	85.6	86.8	87.4	92.1	92.6	93.8	91.1	92.4	92.5	98.9	97.6	94.6	100.0	94.0	86.9
	2.食事介助	1 食事前の準備を行うことができる	76.5	81.0	85.4	89.0	90.1	92.9	93.0	91.5	90.2	93.9	94.6	92.9	94.1	93.9	93.8	96.7	97.6	98.2	94.6	97.0	91.9
		2 食事介助ができる	70.5	74.7	81.7	86.4	87.2	88.4	89.4	88.4	86.8	89.6	93.2	92.0	92.3	90.8	89.9	98.9	92.9	91.2	89.2	94.0	88.4
		3 口腔ケアができる	68.5	74.0	77.9	85.7	83.2	90.7	91.1	87.8	93.1	92.4	94.6	93.8	90.5	92.3	90.6	97.8	90.5	91.2	94.6	95.5	88.8
	3.排泄介助	1 排泄の準備を行うことができる	85.8	85.9	92.5	92.7	93.4	94.2	94.5	94.2	96.0	96.0	98.0	96.5	95.8	95.4	95.0	97.8	97.6	94.7	94.6	97.0	94.4
		2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	73.2	73.6	77.4	87.3	89.0	89.8	91.5	87.2	92.5	91.7	92.6	91.6	91.7	90.1	92.5	95.6	92.9	93.0	97.3	92.4	89.1
		3 おむつ交換を行うことができる	67.0	74.7	80.7	88.9	90.7	91.1	93.0	90.4	94.3	90.8	91.9	93.4	94.0	93.9	92.4	96.7	92.9	94.7	94.6	98.5	90.2
	4.移乗・移動・ 体位変換	1 起居の介助ができる	76.3	79.6	84.2	85.7	92.3	89.4	92.0	93.1	94.3	95.7	96.6	94.7	95.2	96.9	93.7	98.9	100.0	98.2	100.0	98.5	92.8
		2 歩行介助が必要な利用者の歩行への移乗ができる	70.8	66.8	76.0	82.4	86.3	88.1	89.6	85.7	87.4	91.2	90.5	90.3	88.0	90.8	90.5	94.4	85.7	91.2	94.4	95.5	86.8
		3 全介助が必要な利用者の歩行への移乗ができる	62.5	65.1	70.2	80.7	82.3	81.9	85.6	83.6	85.6	89.3	89.9	90.3	88.0	86.9	88.6	92.1	88.1	87.7	94.4	90.9	84.2
		4 杖歩行の介助ができる	64.5	67.4	76.0	80.0	82.6	88.1	88.4	88.2	87.3	88.7	94.5	91.6	93.4	90.8	86.8	93.3	82.9	92.6	97.2	89.2	86.2
	5.状況の変化に 応じた対応	5 体位変換ができる	64.3	69.4	77.1	87.7	88.1	86.3	94.0	92.1	93.1	92.4	92.6	92.4	93.4	94.7	93.1	96.7	90.5	98.2	94.4	96.9	89.4
		1 咳やむせこみに対応ができる	61.3	71.3	80.5	85.3	83.7	88.9	87.6	91.1	94.0	94.2	93.9	91.8	96.2	95.9	89.9	96.3	100.0	96.1	97.1	94.6	89.5
		2 便・尿の異常に対応ができる	48.7	62.2	76.3	77.6	78.1	84.1	83.7	87.0	91.3	89.6	86.4	90.2	95.5	86.9	89.1	93.9	97.2	92.2	91.2	94.5	84.8
		3 皮膚の異常に対応ができる	48.0	58.5	73.8	79.2	76.4	83.1	82.6	85.8	93.2	88.8	85.6	89.2	95.5	86.9	85.0	95.1	97.2	92.2	94.1	98.2	84.4
		4 認知症の方がいづれとも違う行動を行った場合に適切に対応できる	38.4	49.1	56.3	67.7	70.4	74.1	72.9	80.5	81.2	80.9	81.2	82.0	84.5	84.4	75.7	90.2	91.7	84.0	88.2	78.2	75.6
Ⅱ. 利用者視点で の評価	1.利用者家族と のコミュニケーション	1 相談・苦情対応ができる	34.7	41.2	58.0	63.0	65.5	68.7	75.2	76.5	72.5	79.6	83.0	85.4	82.3	86.7	83.1	92.8	83.3	85.7	83.9	90.7	74.6
		2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる	63.9	65.9	72.1	78.4	86.2	86.4	83.1	90.5	88.6	90.9	93.9	92.3	90.3	95.0	86.9	94.0	91.9	94.1	91.4	86.2	86.1
	2.介護過程の展 開	1 利用者に関する情報を収集できる	61.2	73.1	72.9	84.6	89.0	90.1	85.7	91.0	89.3	92.8	97.3	95.1	95.3	89.5	92.4	94.2	96.8	90.7	90.0	92.6	88.2
		2 個別介護計画を立案できる	32.7	47.0	48.3	55.2	56.5	64.6	66.7	67.7	68.8	71.6	79.5	79.8	82.9	78.8	80.7	88.4	86.7	86.0	83.3	81.5	70.3
		3 個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	38.8	52.2	53.4	64.1	64.2	77.1	72.2	75.9	76.7	79.8	84.8	83.4	89.9	81.7	86.6	87.0	86.7	88.4	90.0	83.3	75.8
		4 個別介護計画の評価ができる	36.7	45.5	44.4	54.3	57.7	74.8	68.4	72.9	70.8	73.1	82.1	81.5	80.8	76.9	84.7	85.5	80.0	86.0	80.0	85.2	71.1
	3.感染症対策・ 衛生管理	1 感染症予防対策ができる	59.4	65.3	70.4	75.3	79.3	87.8	83.8	86.4	88.0	89.1	90.9	89.3	91.6	89.3	90.4	88.0	91.9	92.0	93.9	86.2	84.4
		2 感染症発生時に対応できる	49.0	49.3	65.8	73.7	74.8	85.6	79.3	82.0	89.3	88.0	88.5	89.6	88.4	83.7	89.8	95.6	93.3	92.9	93.3	86.8	81.9
	4.事故発生防止	1 ヒヤリハットの視点を持っている	77.6	72.9	78.5	82.5	88.5	90.2	90.4	91.7	86.9	95.1	93.8	93.3	92.3	88.6	93.3	95.7	93.5	93.0	93.3	90.7	89.1
		2 事故発生時の対応ができる	59.2	56.5	71.7	82.5	84.8	88.6	88.9	88.6	89.3	92.4	92.0	91.5	96.2	91.4	93.2	94.2	87.1	93.0	86.7	90.7	85.9
		3 事故報告書を作成できる	63.3	59.1	71.8	83.6	82.3	90.0	88.8	86.4	87.0	92.8	91.9	91.5	94.6	88.6	89.0	97.1	83.9	95.3	90.0	90.7	85.9
	5.身体拘束廃止	1 身体拘束廃止に向けた対応ができる	44.0	50.0	59.5	65.0	75.5	79.4	75.0	80.9	82.8	86.0	84.5	86.6	83.6	87.6	88.0	89.9	80.6	90.5	93.3	81.5	78.2
		2 身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる	22.0	22.2	30.7	37.1	44.9	46.1	48.0	47.7	57.6	61.9	58.7	72.3	69.4	65.7	70.2	80.9	58.1	90.5	80.0	74.1	56.9
	6.終末期ケア	1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる	36.0	46.2	54.5	61.2	63.2	63.5	68.0	68.0	70.6	77.6	74.3	78.6	75.4	81.4	75.0	83.6	66.7	90.2	93.3	81.1	70.4
		2 終末期に医療機関または医療職との連携ができる	24.0	40.0	52.2	47.4	59.9	54.0	64.3	54.7	66.4	68.7	69.7	73.6	77.0	75.5	72.2	77.9	70.0	80.0	80.0	79.2	64.4
Ⅲ.地域包括ケア システム&リー ダーシップ	1.地域包括ケア システム	1 地域内の社会資源との情報共有	40.0	25.0	27.8	53.3	39.8	32.9	45.3	45.5	43.8	53.1	53.3	53.8	56.2	60.6	55.1	65.9	63.2	72.0	76.5	65.0	51.4
		2 地域内の社会資源との業務協力	20.0	25.0	27.8	47.7	35.6	35.7	42.9	39.0	32.8	47.6	51.7	48.1	48.3	54.9	51.3	61.0	73.7	72.0	76.5	70.0	48.1
		3 地域内の関係職種との交流	40.0	25.0	25.0	56.8	34.5	33.8	56.3	45.5	39.1	53.1	51.7	54.8	59.8	61.4	57.7	63.4	66.7	68.0	70.6	70.0	51.7
		4 地域包括ケアの管理業務	0.0	6.3	11.1	18.2	17.2	18.6	17.2	20.8	25.4	35.9	20.0	28.8	43.7	35.7	38.2	41.5	38.9	48.0	70.6	50.0	29.3
	2.リーダーシ ップ	1 現場で適切な技術指導ができる	40.0	25.0	55.6	66.7	62.9	69.3	75.4	77.9	77.9	80.6	78.7	82.7	86.5	74.0	83.5	87.8	73.7	92.0	83.3	80.0	72.7
		2 部下の業務支援を適切に行っている	40.0	37.5	50.0	68.9	58.0	68.0	72.3	76.6	78.8	77.8	72.1	77.9	82.0	74.0	82.3	90.2	89.5	92.0	83.3	80.0	72.6
		3 評価者として適切に評価できる	40.0	31.3	40.0	46.7	44.3	63.5	52.4	61.0	63.6	67.4	70.0	77.5	77.5	65.3	76.9	85.4	73.7	92.0	88.9	70.0	64.4
	平均	53.3	74.4	80.7	86.6	88.5	89.5	91.5	89.3	91.1	92.3	93.8	93.2	92.8	92.8	92.3	96.8	93.0	94.2	95.6	95.3		

第2章：2. 期首評価票データ分析結果

「2019年」に登録された期首評価票における経験年数ごとの小項目単位での評価結果「○（できる）」の割合は以下の通りである。

<2019年>

経験年数ごと介護技術項目（中項目）「○（できる）」割合一覧表（n=1,835件）

90%以上： 80%台： 70%台： 60%台： 50%台： 50%未満：

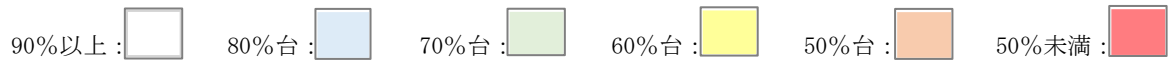
評価項目			経験年数																				平均
大項目	中項目	小項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
Ⅰ.基本介護技術 の評価	1.入浴介助	1 入浴前の確認ができる	87.6	89.5	89.3	88.1	93.2	95.7	92.5	91.3	93.3	96.8	100.0	93.8	98.4	98.4	97.5	100.0	96.6	93.8	100.0	97.4	94.6
		2 衣服の着脱ができる	90.0	94.7	88.5	82.6	93.2	94.2	91.8	96.2	92.1	96.7	94.8	93.8	98.4	98.4	96.2	97.4	96.6	96.9	100.0	100.0	94.6
		3 洗体ができる	80.8	88.4	85.0	90.8	91.7	92.8	92.5	98.1	89.9	97.6	96.6	89.1	98.4	93.7	96.2	97.4	96.6	96.9	100.0	100.0	93.6
		4 清拭ができる	61.3	72.6	74.1	78.1	82.9	89.9	84.1	85.3	86.2	93.4	94.7	87.5	95.1	93.5	96.2	92.3	89.7	93.5	100.0	92.1	87.1
	2.食事介助	1 食事前の準備を行うことができる	89.8	86.3	91.7	87.0	91.7	94.9	90.5	92.2	89.9	95.9	96.6	89.1	96.7	93.7	97.5	92.3	89.7	96.9	100.0	97.4	93.0
		2 食事介助ができる	82.9	85.1	85.1	81.5	88.4	94.2	85.0	89.3	88.8	95.9	91.4	87.3	95.1	95.2	94.9	87.2	89.7	93.8	90.5	92.1	89.7
		3 口腔ケアができる	78.8	86.2	86.0	81.1	85.5	90.6	86.4	89.3	87.6	91.1	98.2	93.8	98.4	92.1	97.5	84.6	92.9	93.8	90.5	86.8	89.6
	3.排泄介助	1 排泄の準備を行うことができる	90.8	96.8	91.6	89.8	93.2	97.1	93.2	94.2	93.3	96.7	96.5	93.8	96.7	100.0	94.9	89.7	93.1	96.9	100.0	97.4	94.8
		2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	81.7	90.5	84.0	84.3	90.4	93.5	85.7	89.1	92.1	97.5	98.2	89.1	96.7	96.8	98.7	92.3	89.7	90.6	95.2	94.7	91.5
		3 おむつ交換を行うことができる	75.0	82.8	78.3	84.3	84.2	91.3	88.4	92.1	93.2	95.0	96.5	93.8	96.7	98.4	98.7	92.1	89.7	96.9	90.5	94.7	90.6
	4.移乗・移動・ 体位変換	1 起居の介助ができる	84.2	83.0	89.3	88.0	90.4	93.5	93.2	93.2	93.1	98.4	96.5	93.7	93.4	96.8	96.2	97.4	100.0	93.8	95.2	97.3	93.3
		2 一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	82.5	86.2	89.3	83.3	87.7	89.1	83.7	89.2	92.0	95.1	91.2	87.3	95.1	93.7	94.9	84.6	89.7	96.9	90.5	94.6	89.8
		3 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	68.9	77.9	79.2	77.8	84.9	88.4	83.0	84.3	90.9	88.6	94.7	88.9	93.4	91.9	94.9	87.2	93.1	90.6	85.7	94.6	87.0
		4 杖歩行の介助ができる	69.0	82.2	80.9	76.0	83.4	88.2	84.8	85.3	90.8	91.0	89.5	83.9	95.0	87.1	96.1	89.2	96.6	90.6	95.2	100.0	87.7
		5 体位変換ができる	71.2	77.4	81.7	77.8	86.2	93.4	87.0	87.4	90.9	95.9	98.2	93.7	95.1	96.8	94.9	92.3	93.1	100.0	95.2	100.0	90.4
	5.状況の変化に 応じた対応	1 咳やむせごみに対応ができる	65.0	80.8	80.6	78.6	83.0	85.6	92.2	93.8	87.1	95.6	91.3	90.2	95.7	96.2	94.0	93.8	96.3	100.0	83.3	100.0	89.2
		2 便・尿の異常に対応ができる	50.0	71.2	75.0	70.0	80.0	86.7	86.3	87.8	88.6	92.3	91.3	92.2	93.6	90.6	94.0	90.6	96.3	100.0	88.9	87.9	85.7
		3 皮膚の異常に対応ができる	48.8	73.1	69.4	72.9	77.0	82.7	83.3	82.7	84.3	86.8	84.8	92.2	89.4	88.7	94.0	84.4	96.2	100.0	88.9	84.8	83.0
		4 認知症のふがいづれと通う行動を行った場合に対応できる	53.7	56.6	67.6	58.6	66.7	73.5	67.6	69.1	85.3	81.3	80.4	68.6	80.9	84.9	92.5	84.4	88.9	81.5	83.3	72.7	74.9
Ⅱ.利用者視点で の評価	1.利用者家族と のコミュニケーション	1 相談・苦情対応ができる	40.0	41.2	51.4	69.4	69.4	77.8	66.7	75.4	80.9	84.5	73.5	73.1	87.5	90.9	88.0	85.7	94.7	89.5	85.7	72.0	74.9
		2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる	66.7	71.7	77.8	70.4	75.0	80.6	76.5	86.9	91.4	91.2	89.1	90.2	93.3	98.1	92.3	93.5	88.9	92.3	100.0	81.8	85.4
	2.介護過程の展 開	1 利用者に関する情報を収集できる	80.0	64.7	80.0	82.4	81.6	90.5	89.5	91.2	91.5	93.1	87.9	92.3	93.8	91.2	96.0	90.5	100.0	100.0	100.0	88.0	89.2
		2 個別介護計画を立案できる	20.0	37.5	51.4	55.9	65.3	67.7	66.1	64.3	72.3	75.9	60.6	53.8	81.3	85.3	82.0	85.7	89.5	89.5	92.9	80.0	68.8
		3 個別介護計画に基づく支援の実施・モニタリングができる	40.0	62.5	74.3	61.8	75.5	74.2	71.9	78.6	76.6	82.8	63.6	73.1	90.6	94.1	90.0	95.2	94.7	89.5	85.7	88.0	78.1
	3.感染症対策・ 衛生管理	4 個別介護計画の評価ができる	20.0	56.3	60.0	58.8	67.3	72.6	66.7	75.0	76.6	82.8	63.6	69.2	87.5	91.2	82.0	85.7	94.7	89.5	85.7	88.0	73.7
		1 感染症予防対策ができる	69.8	75.5	69.0	78.9	79.8	81.6	82.5	89.3	88.7	90.3	84.4	90.2	95.6	85.2	95.4	93.5	96.3	85.2	94.7	97.0	86.1
	4.事故発生防止	2 感染症発生時に対応できる	60.0	50.0	61.8	72.2	81.6	88.9	80.7	86.0	80.9	94.9	82.4	96.2	93.8	90.9	90.0	85.7	94.7	100.0	85.7	84.0	83.0
		1 ヒヤリハットの視点を持っている	80.0	75.0	88.6	91.7	83.7	92.1	91.2	87.7	97.9	96.6	85.3	100.0	93.8	100.0	96.0	90.5	100.0	94.7	92.9	84.0	91.1
		2 事故発生時の対応ができる	60.0	68.8	82.9	72.2	79.6	93.7	86.0	87.7	93.6	93.2	85.3	80.8	96.9	94.1	96.0	95.2	94.7	94.7	78.6	96.0	86.5
	5.身体拘束廃止	3 事故報告書を作成できる	60.0	66.7	85.7	79.4	79.6	92.1	93.0	84.2	91.5	96.6	84.8	76.9	96.9	100.0	88.0	90.5	94.7	89.5	85.7	88.0	86.2
		1 身体拘束廃止に向けた対応ができる	40.0	50.0	80.0	70.6	72.3	79.0	77.2	80.4	85.1	93.2	75.0	80.8	100.0	94.1	88.0	90.5	100.0	94.7	92.9	92.0	81.8
	6.終末期ケア	2 身体拘束を行わずに得たい場合の手続きができる	20.0	25.0	41.2	47.1	55.3	62.3	49.1	55.6	63.0	67.2	58.1	66.7	83.9	71.9	69.4	61.9	78.9	73.7	71.4	64.0	59.3
		1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる	40.0	40.0	63.6	64.7	55.1	66.7	67.3	75.0	71.1	86.2	71.0	80.8	96.8	87.5	75.5	81.0	100.0	89.5	85.7	80.0	73.9
		2 終末期に医療機関または医療職との連携ができる	20.0	53.3	51.5	54.5	57.1	63.3	63.6	70.9	66.7	77.6	61.3	65.4	96.6	83.9	69.4	66.7	84.2	84.2	85.7	76.0	67.6
Ⅲ.地域包括ケア システム&リー ダーシップ	1.地域包括ケア システム	1 地域内の社会資源との情報共有	#DBV/GI	50.0	28.6	41.7	75.0	53.8	64.7	53.6	45.0	85.2	62.5	63.6	40.9	58.8	67.9	70.0	76.9	66.7	83.3	45.5	#DBV/GI
		2 地域内の社会資源との業務協力	0.0	25.0	14.3	41.7	68.8	38.5	47.1	39.3	45.0	77.8	62.5	72.7	45.5	52.9	64.3	60.0	84.6	66.7	66.7	54.5	51.4
		3 地域内の関係職種との交流	0.0	25.0	14.3	50.0	81.3	46.2	52.9	35.7	60.0	77.8	56.3	63.6	54.5	52.9	67.9	90.0	69.2	77.8	66.7	54.5	54.8
		4 地域包括ケアの管理業務	0.0	0.0	14.3	33.3	56.3	26.9	41.2	32.1	30.0	63.0	37.5	27.3	31.8	35.3	53.6	40.0	61.5	55.6	50.0	27.3	35.8
	2.リーダーシ ップ	1 現場で適切な技術指導ができる	0.0	0.0	42.9	66.7	93.8	66.7	76.5	75.9	81.0	92.6	75.0	72.7	95.5	100.0	85.7	90.0	100.0	100.0	83.3	90.9	74.4
		2 部下の業務支援を適切に行っている	0.0	25.0	28.6	58.3	87.5	70.4	76.5	75.9	81.0	77.8	68.8	90.9	81.8	94.1	67.9	90.0	92.3	88.9	83.3	81.8	71.0
		3 評価者として適切に評価できる	0.0	0.0	28.6	58.3	56.3	63.0	70.6	67.9	57.1	77.8	62.5	63.6	77.3	88.2	59.3	100.0	92.3	88.9	83.3	72.7	63.4
平均			#DBV/GI	85.3	84.9	83.4	88.5	92.4	88.1	90.4	90.9	95.0	95.6	90.5	96.2	95.1	96.3	91.7	93.1	94.8	95.2	95.9	

第2章：2. 期首評価票データ分析結果

中項目単位での 2016 年における介護技術項目「○（できる）」割合一覧表は以下の通りである。

<2016 年>

経験年数ごと介護技術項目（中項目）「○（できる）」割合一覧表（n=3,893 件）



評価項目		経験年数																				
大項目	中項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	平均
Ⅰ.基本介護技術 の評価	1.入浴介助	72.2	75.9	82.9	88.2	90.5	90.2	92.5	89.2	91.4	93.2	94.6	94.7	93.9	93.7	94.5	98.3	95.8	95.6	97.3	95.9	91.0
	2.食事介助	71.8	76.6	81.7	87.1	86.9	90.6	91.2	89.2	90.0	92.0	94.1	92.9	92.3	92.4	91.5	97.7	93.7	93.6	92.8	95.5	89.7
	3.排泄介助	75.4	78.1	83.5	89.6	91.1	91.7	93.0	90.7	94.3	92.9	94.1	93.8	93.7	93.1	93.3	96.7	94.4	94.2	95.5	96.0	91.3
	4.移乗・移動・体位変換	67.7	69.7	76.8	83.3	86.3	86.5	89.9	88.5	89.5	91.4	92.8	91.9	91.4	92.1	90.6	95.1	89.2	93.2	96.1	94.3	87.8
	5.状況の変化に応じた対応	49.0	60.1	71.7	77.5	77.1	82.5	81.7	86.1	90.7	88.4	86.8	88.3	93.0	88.5	85.0	93.9	96.5	91.2	92.6	91.5	83.6
Ⅱ.利用者視点で の評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	57.7	59.7	67.1	71.6	77.6	79.3	78.1	82.7	81.0	85.5	89.0	88.5	86.7	91.3	83.9	93.4	88.8	89.2	87.1	87.1	81.2
	2.介護過程の展開	42.3	54.9	55.1	64.2	67.0	76.7	73.2	76.9	76.7	79.4	85.9	85.1	86.9	81.2	86.1	88.8	87.9	87.8	85.8	85.6	76.4
	3.感染症対策・衛生管理	55.5	61.4	66.8	73.5	76.9	85.8	81.0	82.5	88.3	86.7	89.0	88.0	89.4	86.5	89.9	90.4	91.9	92.0	93.9	85.3	82.7
	4.事故発生防止	66.7	62.9	73.4	82.6	85.9	89.4	89.4	88.9	87.8	93.3	92.6	92.1	94.4	89.5	91.7	90.7	88.2	93.8	90.0	90.7	86.9
	5.身体拘束廃止	33.0	35.9	45.3	50.8	59.9	63.4	61.4	64.9	69.9	74.3	71.8	79.6	76.6	76.7	79.5	84.8	69.4	90.5	86.7	77.8	67.6
Ⅲ.地域包括ケアシ ステムとリー	6.終末期ケア	30.0	43.1	53.5	54.7	61.3	58.7	66.4	61.3	68.3	73.3	72.0	76.1	76.2	78.4	73.7	80.9	68.3	85.4	86.7	80.2	67.4
	1.地域包括ケアシステム	25.0	20.3	22.9	45.0	32.4	61.0	40.5	37.7	35.2	47.5	44.2	46.4	52.0	53.5	51.0	57.9	61.8	65.0	73.5	63.8	45.3
	2.リーダーシップ	40.0	31.3	49.1	60.7	55.4	67.1	67.2	71.9	74.0	75.2	73.2	79.5	82.0	70.8	81.0	78.8	78.9	92.0	85.2	76.7	70.0

また、中項目単位での 2019 年における介護技術項目「○(できる)」割合一覧表は以下の通りである。

<2019 年>

経験年数ごと介護技術項目（中項目）「○（できる）」割合一覧表（n=1,835 件）



評価項目		経験年数																				平均
大項目	中項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
Ⅰ.基本介護技術 の評価	1.入浴介助	79.4	86.3	84.4	84.7	90.2	93.1	90.2	92.5	90.4	96.2	96.6	91.0	97.5	96.0	96.4	96.8	94.8	95.3	100.0	97.4	92.5
	2.食事介助	83.9	86.0	87.6	82.7	88.6	93.2	87.7	90.3	88.8	94.3	93.7	90.1	96.7	93.7	96.1	88.0	90.8	94.8	93.7	92.1	90.3
	3.排泄介助	82.5	90.2	84.7	86.1	89.3	94.0	89.1	91.6	92.9	96.4	97.1	92.2	96.7	98.4	97.1	95.1	90.8	94.8	95.2	95.6	92.3
	4.移乗・移動、体位変換	75.4	81.2	83.7	80.4	86.5	90.5	86.3	87.6	91.6	93.8	94.0	89.5	94.4	93.3	95.4	90.1	94.5	94.4	92.4	97.3	89.6
	5.状況の変化に応じた対応	54.5	69.3	73.3	70.0	76.8	82.1	82.4	83.5	86.1	89.0	87.0	85.8	89.9	89.8	93.7	88.3	93.5	95.4	86.1	86.4	83.1
Ⅱ.利用者視点で の評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	65.5	68.9	72.2	67.6	71.8	78.1	72.1	81.5	87.1	88.5	83.7	85.3	88.9	95.4	90.8	90.3	87.0	90.4	94.7	75.8	81.8
	2.介護過程の展開	40.0	57.4	66.4	64.7	72.4	76.6	73.7	77.6	79.3	83.6	68.9	72.1	88.3	90.4	87.5	89.3	94.7	92.1	91.1	86.0	77.6
	3.感染症対策、衛生管理	68.6	71.7	66.2	75.4	79.3	82.1	79.6	88.1	84.5	90.3	82.6	90.2	93.3	84.3	92.3	90.3	94.4	85.2	89.5	92.4	84.0
	4.事故発生防止	66.7	69.8	85.7	81.5	81.0	92.6	90.1	86.5	94.3	95.5	85.3	85.9	95.8	98.0	93.3	92.1	96.5	93.0	85.7	89.3	87.7
	5.身体拘束廃止	30.0	37.5	61.4	58.8	63.8	71.0	64.0	68.8	73.4	80.5	67.2	73.1	91.9	83.8	78.0	76.2	89.5	84.2	82.1	78.0	70.7
	6.終末期ケア	30.0	46.7	57.6	58.8	56.1	65.9	65.5	73.2	68.9	81.9	66.1	73.1	96.8	85.9	72.4	73.8	92.1	86.8	85.7	78.0	70.8
Ⅲ.地域包括ケア システム&リー	1.地域包括ケアシステム	—	25.0	17.9	41.7	70.3	41.3	51.5	40.2	45.0	75.9	54.7	56.8	43.2	50.0	63.4	65.0	73.1	66.7	66.7	45.5	52.3
	2.リーダーシップ	—	8.3	33.3	61.1	79.2	66.7	74.5	73.0	73.0	82.7	68.8	75.8	84.8	94.1	71.4	93.3	94.9	92.6	83.3	81.8	73.1

第2章：2．期首評価票データ分析結果

ここで、2つの群、「2016年」と「2019年」の2つの母集団について、中項目単位での介護技術項目「○（できる）」割合に統計学的に違いがあるかどうか検証するため、「統計的検定」を行うこととした。

なお、今回の統計的検定にあたり、母集団やサンプルサイズの以下の条件から、検定方法について「ウエルチのt検定」を採用した。

＜条件＞

- ・2群は異なる集団である（対応のないデータ）
- ・2群の母集団が正規分布であるかどうかわからない
- ・サンプルサイズ（2群計）が30～500である
- ・母集団において2群の標準偏差が異なるといえる

「ウエルチのt検定」の判定方法

標本調査の対応のないデータから統計量「T値」を算出し、「T値」が統計学によって定められた「棄却限界値」より大きければ母集団において2群の母平均は異なる、つまり「有意な差がある」と判断する。

＜標本調査の結果＞

2群	サンプルサイズ	標本平均	標本標準偏差
A	n_1	X_1	s_1
B	n_2	X_2	s_2

【有意差判定方法】

検定統計量T

$$T \text{ 値} = \frac{X_1 - X_2}{\sqrt{\frac{s_1^2}{n_1} + \frac{s_2^2}{n_2}}}$$

棄却限界値

自由度 f を次式によって求める。

$$f = \left(\frac{s_1^2}{n_1} + \frac{s_2^2}{n_2} \right)^2 \div \left(\frac{s_1^4}{n_1^2 (n_1 - 1)} + \frac{s_2^4}{n_2^2 (n_2 - 1)} \right)$$

求められた自由度から棄却限界値を算定する

f	棄却限界値
10	2.23
20	2.09
30	2.04
40	2.02
50	2.01
60	2.00
70	1.99
80	1.99

f	棄却限界値
90	1.99
100	1.98
200	1.97
300	1.97
400	1.97
500	1.96
1,000	1.96

$T \text{ 値} \geq \text{棄却限界値}$ 「2 群の母平均は異なる」はいえる

$T \text{ 値} < \text{棄却限界値}$ 「2 群の母平均は異なる」はいえない

これら統計的検定の方法を使い、各設問ごとの、サンプルサイズ、標本平均、標本標準偏差、「検定統計量 T 」並びに「棄却限界値」は以下の表の通りとなり、

$T \text{ 値} \geq \text{棄却限界値}$ 「差がある」

$T \text{ 値} < \text{棄却限界値}$ 「差がない」

とした。

第2章：2．期首評価票データ分析結果

検定における結果は以下の通りである。

2016 年・2019 年における t 検定結果一覧表（1/3）

評価項目			経験年数																			
大項目	中項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1.入浴介助	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
		標本平均	72.2	75.9	82.9	88.2	90.5	90.2	92.5	89.2	91.4	93.2	94.6	94.7	93.9	93.7	94.5	98.3	95.8	95.6	97.3	95.9
		標本標準偏差	30.6	30.4	25.6	22.0	20.8	20.4	19.5	24.0	18.7	17.8	15.0	16.7	17.7	17.6	14.7	7.3	10.8	13.3	9.7	14.7
	2019	サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
		標本平均	79.4	86.3	84.4	84.7	90.2	93.1	90.2	92.5	90.4	96.2	96.6	91.0	97.5	96.0	96.4	96.8	94.8	95.3	100.0	97.4
		標本標準偏差	29.3	25.3	27.7	27.2	22.7	17.5	22.0	15.8	25.1	14.6	12.6	21.8	10.8	12.0	13.8	8.4	13.7	18.2	0.0	7.7
	T値	2.26	3.26	0.49	1.17	0.09	1.45	0.97	1.45	0.34	1.79	0.98	1.26	1.86	1.08	0.97	1.00	0.33	0.08	1.70	0.67	
	自由度	233	196	205	173	274	323	292	282	139	269	126	85	174	170	164	64	51	50	36	102	
	棄却限界値	1.97	1.98	1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.98	1.99	1.98	1.98	1.98	2.00	2.01	2.01	2.04	1.98	
	T値-棄却限界値	0.29	1.28	-1.48	-0.81	-1.88	-0.52	-1.00	-0.52	-1.64	-0.18	-1.00	-0.73	-0.12	-0.90	-1.01	-1.00	-1.68	-1.93	-0.34	-1.31	
	2群差異	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	
2.食事介助	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
		標本平均	71.8	76.6	81.7	87.1	86.9	90.6	91.2	89.2	90.0	92.0	94.1	92.9	92.3	92.4	91.5	97.8	93.7	93.6	92.8	95.5
		標本標準偏差	34.7	31.9	30.4	25.9	26.2	21.8	23.0	23.9	23.8	21.0	17.6	20.5	21.1	22.4	19.1	8.3	16.6	17.0	19.2	15.1
	2019	サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
		標本平均	83.9	86.0	87.6	82.7	88.6	93.2	87.3	90.3	88.8	94.3	95.1	90.1	96.7	93.7	96.6	88.0	90.8	94.8	93.7	92.1
		標本標準偏差	31.2	26.7	25.0	31.6	26.3	19.7	25.6	23.1	29.5	18.9	16.4	26.8	11.6	20.5	11.4	26.7	27.5	16.9	19.6	20.9
	T値	3.49	2.79	2.10	1.27	0.64	1.17	1.46	0.37	0.35	1.13	0.38	0.78	2.00	0.40	2.61	2.23	0.50	0.33	0.16	0.89	
	自由度	247	195	264	175	295	312	294	219	147	244	114	85	191	133	229	41	42	65	41	59	
	棄却限界値	1.97	1.98	1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.98	1.99	1.98	1.98	1.97	2.02	2.02	2.00	2.02	2.01	
	T値-棄却限界値	1.52	0.81	0.13	-0.71	-1.33	-0.80	-0.51	-1.60	-1.63	-0.84	-1.60	-1.21	0.02	-1.58	0.64	0.21	-1.52	-1.67	-1.86	-1.12	
	2群差異	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	
1.基本介護技術 の評価	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
		標本平均	75.4	78.1	83.5	89.6	91.1	91.7	93.0	90.7	94.3	92.9	94.1	93.8	93.7	93.1	93.3	96.7	94.4	94.2	95.5	96.0
		標本標準偏差	32.3	31.7	26.9	22.9	20.7	21.4	19.3	22.5	16.9	19.5	16.3	18.8	20.2	19.6	19.3	14.1	19.1	17.8	15.8	15.8
	2019	サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
		標本平均	82.5	90.2	84.7	86.1	89.3	94.0	89.1	91.6	92.9	96.4	97.1	92.2	96.7	98.4	97.4	91.5	90.8	94.8	95.2	95.6
		標本標準偏差	26.2	21.0	27.5	26.9	25.3	17.1	24.0	22.1	22.0	15.9	12.9	23.4	14.4	7.1	10.4	21.0	27.5	18.8	15.6	15.6
	T値	2.35	4.19	0.40	1.18	0.76	1.13	1.62	0.34	0.51	1.98	1.36	0.51	1.27	2.73	2.14	14.2	0.62	0.16	0.06	0.13	
	自由度	273	249	215	180	250	337	272	215	142	271	134	87	149	182	235	53	46	61	42	78	
	棄却限界値	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.98	1.99	1.98	1.98	1.97	2.01	2.02	2.00	2.02	1.99	
	T値-棄却限界値	0.38	2.22	-1.57	-0.80	-1.21	-0.84	-0.35	-1.63	-1.47	0.01	-0.62	-1.48	-0.71	0.75	0.17	-0.59	-1.40	-1.84	-1.96	-1.86	
	2群差異	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	
4.移乗・移動・ 体位変換	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
		標本平均	67.7	69.7	76.8	83.3	86.3	86.5	89.9	88.5	89.5	91.4	92.8	91.9	91.4	92.1	90.6	95.1	89.2	93.2	96.1	94.3
		標本標準偏差	33.7	33.1	30.9	28.4	24.4	25.7	22.7	22.4	22.8	19.5	16.8	21.1	20.2	19.9	19.7	16.1	21.5	18.5	9.2	15.8
	2019	サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
		標本平均	75.4	81.2	83.7	80.4	86.5	90.5	86.3	87.6	91.6	93.8	94.0	89.5	94.4	93.3	95.4	90.1	94.5	94.4	92.4	97.3
		標本標準偏差	30.3	27.9	29.0	30.1	25.8	20.2	25.6	23.6	24.1	16.6	17.6	23.6	17.8	16.7	16.2	21.3	15.7	16.0	19.0	11.5
	T値	2.28	3.27	2.20	0.85	0.09	1.68	1.36	0.29	0.67	1.29	0.45	0.72	1.08	0.47	2.04	1.31	1.20	0.33	0.85	1.11	
	自由度	247	194	233	197	282	340	291	203	169	258	102	93	120	143	185	58	69	72	25	96	
	棄却限界値	1.97	1.98	1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.98	1.99	1.98	1.98	1.98	2.01	2.00	1.99	2.09	1.99	
	T値-棄却限界値	0.31	1.29	0.23	-1.13	-1.88	-0.29	-0.61	-1.68	-1.31	-0.68	-1.53	-1.27	-0.90	-1.51	0.06	-0.70	-0.80	-1.66	-1.24	-0.88	
	2群差異	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	
5.状況の変化に 応じた対応	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
		標本平均	49.0	60.1	71.7	77.5	77.1	82.5	81.7	86.1	90.0	88.4	86.8	88.3	93.0	88.5	85.0	93.9	96.5	91.2	92.6	91.5
		標本標準偏差	39.0	36.1	34.3	31.6	31.0	28.0	30.6	25.2	21.2	23.5	25.0	25.5	16.2	22.0	27.4	17.7	10.5	21.5	16.6	19.1
	2019	サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
		標本平均	54.5	69.3	73.3	70.0	76.8	82.1	82.4	83.5	86.1	89.0	87.0	85.8	89.9	89.8	93.7	88.3	93.5	95.4	86.1	86.4
		標本標準偏差	36.0	38.7	35.4	34.2	33.6	30.8	28.4	27.1	27.9	24.4	27.0	26.8	21.7	25.1	17.5	24.2	17.5	9.7	29.1	25.4
	T値	1.37	2.04	0.41	1.96	0.12	0.15	0.19	0.79	1.17	0.24	0.03	0.66	1.02	0.34	2.97	1.31	0.83	1.26	0.94	1.09	
	自由度	241	155	213	192	276	269	328	200	141	214	100	98	85	109	222	56	42	84	28	61	
	棄却限界値	1.97	1.98	1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	1.97	1.98	1.99	1.99	1.98	1.97	2.01	2.02	1.99	2.09	2.00	
	T値-棄却限界値	-0.60	0.06	-1.56	-0.02	-1.85	-1.82	-1.78	-1.19	-0.81	-1.73	-1.95	-1.33	-0.97	-1.64	1.00	-0.70	-1.19	-0.73	-1.15	-0.91	
	2群差異	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	

第2章：2. 期首評価票データ分析結果

2016年・2019年におけるt検定結果一覧表（2/3）

評価項目			経験年数																			
大項目	中項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1.利用者家族とのコミュニケーション	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
		標本平均	57.7	59.7	67.1	71.6	77.6	79.3	78.1	82.7	81.0	85.5	89.0	88.5	86.7	91.3	83.9	93.4	87.8	89.2	87.1	87.1
		標本標準偏差	45.8	45.8	43.1	40.2	35.9	34.8	37.4	32.3	32.5	30.0	24.9	26.9	29.6	22.9	34.1	21.6	27.0	24.9	30.1	31.6
		サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
	2019	標本平均	65.5	68.9	72.2	67.6	71.5	78.1	72.1	81.5	87.1	88.5	83.7	85.3	88.9	95.4	90.8	90.3	87.0	90.4	94.7	75.8
		標本標準偏差	46.9	44.7	39.0	45.3	41.4	37.2	41.2	34.3	28.9	29.7	31.4	31.8	27.7	17.4	24.6	26.7	32.2	27.8	15.3	39.2
		T 値	1.54	1.71	1.19	0.80	1.50	0.32	1.40	0.29	1.56	0.96	1.16	0.74	0.52	1.36	1.78	0.63	0.11	0.20	1.27	1.52
		自由度	219	168	241	186	262	274	297	202	196	223	88	90	113	156	205	61	53	59	56	64
	棄却限界値		1.97	1.98	1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.99	1.99	1.98	1.98	1.97	2.00	2.01	2.01	2.01	2.00
	T値-棄却限界値		-0.43	-0.27	-0.78	-1.18	-0.47	-1.65	-0.57	-1.68	-0.42	-1.01	-0.83	-1.25	-1.46	-0.62	-0.19	-1.37	-1.90	-1.81	-0.74	-0.48
	2群差異		差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
2.介護過程の展開	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
		標本平均	42.3	54.9	55.1	64.2	67.0	76.7	73.2	76.9	76.7	79.4	85.9	85.1	86.9	81.2	86.1	88.8	87.9	87.8	85.8	85.6
		標本標準偏差	41.4	41.5	41.8	38.4	36.7	32.7	36.1	33.2	32.0	31.4	27.3	28.4	25.2	32.7	29.3	28.4	26.1	29.7	30.1	29.5
		サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
	2019	標本平均	40.0	57.4	66.4	64.7	72.4	76.6	73.7	77.6	79.3	83.6	68.9	72.1	88.3	90.4	87.5	89.3	94.7	92.1	91.1	86.0
		標本標準偏差	33.9	42.7	35.3	41.2	38.2	36.7	33.6	33.7	34.7	31.3	38.0	34.9	23.4	22.7	25.6	21.2	17.4	20.0	22.4	27.5
		T 値	0.60	0.50	2.86	0.11	1.42	0.02	0.13	0.18	0.58	1.29	3.13	2.72	0.38	2.29	0.37	0.11	1.33	0.82	0.75	0.06
		自由度	270	161	257	194	286	264	327	210	165	222	83	88	114	168	175	95	69	84	52	82
	棄却限界値		1.97	1.98	1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.99	1.99	1.98	1.98	1.98	1.99	2.00	1.99	2.01	1.99
	T値-棄却限界値		-1.37	-1.48	0.89	-1.87	-0.55	-1.95	-1.84	-1.79	-1.40	-0.68	1.14	0.73	-1.60	0.31	-1.61	-1.88	-0.67	-1.17	-1.26	-1.93
	2群差異		差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
3.感染症対策・衛生管理	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
		標本平均	55.5	61.4	66.8	73.5	76.9	85.8	81.0	82.5	88.3	86.7	89.0	88.0	89.4	86.5	89.7	90.4	91.9	92.0	93.9	85.3
		標本標準偏差	47.7	45.7	44.0	42.2	38.8	31.3	36.3	34.5	26.7	31.3	27.7	29.8	26.6	30.1	28.0	26.3	24.7	25.2	23.9	32.2
		サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
	2019	標本平均	68.6	71.7	66.2	75.4	79.3	82.1	79.6	88.1	84.5	90.3	82.6	90.2	93.3	84.3	92.3	90.3	94.4	85.2	89.5	92.4
		標本標準偏差	45.8	42.9	45.0	41.0	38.9	36.6	37.2	30.5	33.1	28.6	36.4	28.0	22.6	35.8	21.9	26.7	20.8	35.5	26.1	21.7
		T 値	2.62	1.99	0.13	0.40	0.59	0.97	0.35	1.42	0.94	1.16	1.22	0.54	1.12	0.42	0.78	0.01	0.47	0.96	0.65	1.34
		自由度	232	174	215	212	295	256	310	235	148	240	86	107	124	105	193	71	66	49	39	100
	棄却限界値		1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.99	1.98	1.98	1.98	1.98	1.99	2.00	2.02	2.04	1.99
	T値-棄却限界値		0.65	0.01	-1.84	-1.57	-1.38	-1.00	-1.62	-0.55	-1.04	-0.81	-0.77	-1.44	-0.86	-1.56	-1.20	-1.98	-1.53	-1.06	-1.39	-0.65
	2群差異		差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
4.事故発生防止	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
		標本平均	66.7	62.9	73.4	82.6	85.3	89.4	89.4	88.9	87.8	93.3	92.6	92.1	94.4	89.5	91.9	95.7	88.2	93.8	90.0	90.7
		標本標準偏差	36.9	38.3	33.4	32.0	26.0	24.7	24.6	25.2	23.7	19.6	19.2	22.0	17.1	24.9	19.8	16.0	21.7	19.4	23.0	25.2
		サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
	2019	標本平均	66.7	69.8	85.7	81.5	81.0	92.6	90.1	86.5	94.3	95.5	85.3	85.9	95.8	98.0	93.3	92.1	96.5	93.0	85.7	89.3
		標本標準偏差	42.2	39.2	30.1	28.8	32.3	24.8	25.7	30.5	15.9	15.6	30.5	24.8	13.8	7.8	18.9	22.8	10.2	23.1	30.1	24.4
		T 値	0.00	1.49	3.72	0.34	1.39	1.20	0.25	0.67	2.66	1.21	1.72	1.80	0.67	3.56	0.55	0.89	2.16	0.17	0.57	0.28
		自由度	199	162	242	228	247	289	306	181	243	277	77	93	131	174	162	55	62	55	33	79
	棄却限界値		1.98	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.97	1.99	1.99	1.98	1.98	1.98	2.01	2.00	2.01	2.04	1.99
	T値-棄却限界値		-1.98	-0.49	1.75	-1.63	-0.58	-0.77	-1.72	-1.31	0.69	-0.76	-0.27	-0.19	-1.31	1.58	-1.43	-1.12	0.16	-1.84	-1.47	-1.71
	2群差異		差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない
5.身体拘束廃止	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
		標本平均	33.0	35.9	45.3	50.8	59.9	63.4	61.4	64.9	69.9	74.3	71.8	79.6	76.6	76.7	79.5	84.8	69.4	90.5	86.7	77.8
		標本標準偏差	40.8	38.0	41.5	42.2	39.6	39.0	40.6	38.4	36.1	34.5	37.3	34.4	36.9	34.5	34.1	31.0	35.2	22.5	28.7	38.1
		サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
	2019	標本平均	30.0	37.5	61.4	58.8	63.8	71.0	64.0	68.8	73.4	80.5	67.2	73.1	91.9	83.8	78.0	76.2	89.5	84.2	82.1	78.0
		標本標準偏差	40.0	41.5	38.0	41.1	42.2	39.7	39.5	39.6	37.0	30.6	42.6	37.3	18.4	29.0	34.9	33.2	20.4	28.3	30.5	31.9
		T 値	0.69	0.32	3.90	1.67	0.94	1.79	0.62	0.81	0.73	1.85	0.73	1.25	4.17	1.51	0.31	1.38	3.04	1.08	0.55	0.03
		自由度	227	153	238	212	280	285	320	207	173	248	95	95	206	144	152	68	67	53	40	89
	棄却限界値		1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.99	1.99	1.97	1.98	1.98	2.00	2.00	2.01	2.04	1.99
	T値-棄却限界値		-1.28	-1.66	1.93	-0.30	-1.03	-0.18	-1.35	-1.16	-1.25	-0.12	-1.26	-0.74	2.20	-0.47	-1.67	-0.62	1.04	-0.93	-1.49	-1.96
	2群差異		差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない
6.終末期ケア	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
		標本平均	30.0	43.1	53.5	54.7	61.3	58.7	66.4	61.3	68.3	73.3	72.0	76.1	76.2	78.4	73.7	80.9	68.3	85.4	86.7	80.2
		標本標準偏差	41.2	45.5	46.9	44.5	43.7	45.5	42.9	45.2	43.0	40.0	42.0	39.6	38.7	38.0	41.2	35.4	41.8	29.7	28.7	38.0
		サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
	2019	標本平均	30.0	46.7	57.6	58.8	56.1	65.9	65.5	73.2	68.9	81.9	66.1	73.1	96.8	85.9	72.4	73.8	92.1	86.8	85.7	78.0
		標本標準偏差	40.0	46.4	44.6	42.8	44.8	46.1	44.6	40.0	43.8	34.4	42.9	37.3	12.3	33.6	41.7	39.7	18.2	31.8	35.0	40.2
		T 値	0.00	0.65	0.84	0.82	1.15	1.44	0.20	2.32	0.11	2.27	0.90	0.57	6.12	1.39	0.22	0.96	3.26	0.22	0.11	0.27
		自由度	230	162	230	214	290	286	308	235	174	256	105	106	226	137	154	65	60	61	35	73
	棄却限界値		1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.98	1.98	1.97	1.98	1.98	2.00	2.00	2.00	2.04	1.99
	T値-棄却限界値		-1.97	-1.33																		

第2章：2．期首評価票データ分析結果

2016 年・2019 年における t 検定結果一覧表（3/3）

評価項目			経験年数																				
大項目	中項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
Ⅲ. 地域包括ケアシステム＆リーダーシップ	1. 地域包括ケアシステム	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
			標本平均	25.0	20.3	22.9	45.0	32.4	31.0	40.5	37.7	35.2	47.5	44.2	46.4	52.0	53.5	51.0	57.9	61.8	65.0	73.5	63.8
			標本標準偏差	31.6	32.1	36.5	39.3	39.2	40.8	38.8	39.2	39.5	43.0	39.1	40.0	43.4	41.2	41.7	42.6	40.9	39.4	42.4	42.6
		2019	サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
			標本平均	—	25.0	17.9	41.7	70.3	41.3	51.5	40.2	45.0	75.9	54.7	56.8	43.2	50.0	63.4	65.0	73.1	66.7	66.7	45.5
			標本標準偏差	—	30.6	34.6	43.7	39.7	42.7	42.4	42.4	40.8	34.3	42.6	40.0	42.1	43.7	44.6	35.7	37.3	42.5	40.0	43.7
		T 値		—	1.27	1.35	0.68	9.36	2.29	2.47	0.50	1.87	7.31	1.64	1.84	1.39	0.54	2.07	0.97	1.20	0.18	0.61	2.08
		自由度		—	172	230	188	292	279	298	198	172	276	99	101	109	116	147	85	64	60	44	75
		棄却限界値		—	1.98	1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	1.97	1.99	1.98	1.98	1.98	1.98	1.99	2.00	2.00	2.02	1.99
		T値-棄却限界値		—	-0.71	-0.62	-1.30	7.39	0.32	0.50	-1.48	-0.11	5.34	-0.35	-0.14	-0.59	-1.44	0.09	-1.02	-0.80	-1.82	-1.41	0.09
		2群差異		—	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある
	2. リーダーシップ	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
			標本平均	40.0	31.3	49.1	60.7	55.4	67.1	67.2	71.9	74.0	75.2	73.2	79.5	82.0	70.8	81.0	87.8	78.9	92.0	85.2	76.7
			標本標準偏差	49.0	43.3	41.9	39.9	42.1	42.7	38.6	39.5	36.5	36.4	36.1	35.3	31.6	40.1	33.4	26.3	34.6	19.5	33.7	37.4
		2019	サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
			標本平均	—	8.3	33.3	61.1	79.2	66.7	74.5	73.0	73.0	82.7	68.8	75.8	84.8	94.1	71.4	93.3	94.9	92.6	83.3	81.8
			標本標準偏差	—	14.4	43.6	42.7	26.0	42.6	42.1	36.7	33.5	31.9	39.9	35.1	27.9	17.1	36.4	20.0	17.8	21.0	37.3	32.9
		T 値		—	7.59	3.42	0.08	7.13	0.10	1.66	0.24	0.22	2.14	0.75	0.75	0.65	5.67	1.97	1.31	2.54	0.13	0.19	0.73
		自由度		—	362	212	195	409	290	298	226	191	250	98	102	119	190	144	94	65	61	38	85
		棄却限界値		—	1.97	1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.99	1.98	1.98	1.98	1.98	1.99	2.00	2.00	2.04	1.99
		T値-棄却限界値		—	5.62	1.45	-1.90	5.16	-1.87	-0.31	-1.73	-1.76	0.17	-1.24	-1.23	-1.33	3.69	-0.01	-0.68	0.54	-1.87	-1.85	-1.26
		2群差異		—	差がある	差がある	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない

第2章：2. 期首評価票データ分析結果

また、これらの 2016 年に登録された期首評価票データと 2019 年に登録された期首評価票データにおける「○（できる）」割合の差と検定結果を一覧にまとめると以下の通りとなる。

なお、認定者群と未認定者群における割合の差において 8.0%以上の差があるものについては  網掛けをしている。

「○（できる）」割合・検定結果一覧表（1/2）

90%以上 :  80%台 :  70%台 :  60%台 :  50%台 :  50%未満 : 

評価項目		経験年数																				
大項目	中項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
Ⅰ.基本介護技術 の評価	1.入浴介助	2016	72.2	75.9	82.9	88.2	90.5	90.2	92.5	89.2	91.4	93.2	94.6	94.7	93.9	93.7	94.5	98.3	95.8	95.6	97.3	95.9
		2019	79.4	86.3	84.4	84.7	90.2	93.1	90.2	92.5	90.4	96.2	96.6	91.0	97.5	96.0	96.4	96.8	94.8	95.3	100.0	97.4
		単純差	7.2	10.4	1.4	-3.4	-0.2	2.9	-2.2	3.4	-1.0	2.9	2.0	-3.7	3.6	2.3	1.9	-1.5	-1.0	-0.3	2.7	1.5
		2群差異	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
	2.食事介助	2016	71.8	76.6	81.7	87.1	86.9	90.6	91.2	89.2	90.0	92.0	94.1	92.9	92.3	92.4	91.5	97.8	93.7	93.6	92.8	95.5
		2019	83.9	86.0	87.6	82.7	88.6	93.2	87.3	90.3	88.8	94.3	95.1	90.1	96.7	93.7	96.6	88.0	90.8	94.8	93.7	92.1
		単純差	12.1	9.4	6.0	-4.4	1.7	2.6	-3.9	1.0	-1.3	2.3	1.0	-2.8	4.4	1.3	5.2	-9.7	-2.8	1.2	0.9	-3.4
		2群差異	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない
	3.排泄介助	2016	75.4	78.1	83.5	89.6	91.1	91.7	93.0	90.7	94.3	92.9	94.1	93.8	93.7	93.1	93.3	96.7	94.4	94.2	95.5	96.0
		2019	82.5	90.2	84.7	86.1	89.3	94.0	89.1	91.6	92.9	96.4	97.1	92.2	96.7	98.4	97.4	91.5	90.8	94.8	95.2	95.6
		単純差	7.1	12.1	1.2	-3.5	-1.8	2.3	-3.9	0.9	-1.4	3.5	2.9	-1.6	3.1	5.3	4.1	-5.2	-3.6	0.6	-0.3	-0.4
		2群差異	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
	4.移乗・移動・ 体位変換	2016	67.7	69.7	76.8	83.3	86.3	86.5	89.9	88.5	89.5	91.4	92.8	91.9	91.4	92.1	90.6	95.1	89.2	93.2	96.1	94.3
		2019	75.4	81.2	83.7	80.4	86.5	90.5	86.3	87.6	91.6	93.8	94.0	89.5	94.4	93.3	95.4	90.1	94.5	94.4	92.4	97.3
		単純差	7.7	11.5	6.9	-2.9	0.2	4.1	-3.6	-0.8	2.1	2.4	1.2	-2.3	3.0	1.3	4.9	-5.0	5.3	1.2	-3.7	3.0
		2群差異	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
	5.状況の変化に 応じた対応	2016	49.0	60.1	71.7	77.5	77.1	82.5	81.7	86.1	90.0	88.4	86.8	88.3	93.0	88.5	85.0	93.9	96.5	91.2	92.6	91.5
		2019	54.5	69.3	73.3	70.0	76.8	82.1	82.4	83.5	86.1	89.0	87.0	85.8	89.9	89.8	93.7	88.3	93.5	95.4	86.1	86.4
		単純差	5.5	9.3	1.5	-7.5	-0.4	-0.5	0.6	-2.6	-3.9	0.6	0.1	-2.5	-3.1	1.3	8.7	-5.6	-3.0	4.2	-6.5	-5.2
		2群差異	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない

第2章：2．期首評価票データ分析結果

「○（できる）」割合・検定結果一覧表（2/2）

90%以上： 80%台： 70%台： 60%台： 50%台： 50%未満：

評価項目			経験年数																			
大項目	中項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	2016	57.7	59.7	67.1	71.6	77.6	79.3	78.1	82.7	81.0	85.5	89.0	88.5	86.7	91.3	83.9	93.4	87.8	89.2	87.1	87.1
		2019	65.5	68.9	72.2	67.6	71.5	78.1	72.1	81.5	87.1	88.5	83.7	85.3	88.9	95.4	90.8	90.3	87.0	90.4	94.7	75.8
		単純差	7.7	9.2	5.1	-4.0	-6.1	-1.3	-6.0	-1.2	6.1	3.0	-5.3	-3.2	2.2	4.0	6.9	-3.1	-0.8	1.2	7.6	-11.3
	2.介護過程の展開	2016	42.3	54.9	55.1	64.2	67.0	76.7	73.2	76.9	76.7	79.4	85.9	85.1	86.9	81.2	86.1	88.8	87.9	87.8	85.8	85.6
		2019	40.0	57.4	66.4	64.7	72.4	76.6	73.7	77.6	79.3	83.6	68.9	72.1	88.3	90.4	87.5	89.3	94.7	92.1	91.1	86.0
		単純差	-2.3	2.5	11.3	0.5	5.5	-0.1	0.5	0.8	2.5	4.2	-17.0	-12.9	1.4	9.3	1.4	0.5	6.8	4.3	5.2	0.4
	3.感染症対策・衛生管理	2016	55.5	61.4	66.8	73.5	76.9	85.8	81.0	82.5	88.3	86.7	89.0	88.0	89.4	86.5	89.7	90.4	91.9	92.0	93.9	85.3
		2019	68.6	71.7	66.2	75.4	79.3	82.1	79.6	88.1	84.5	90.3	82.6	90.2	93.3	84.3	92.3	90.3	94.4	85.2	89.5	92.4
		単純差	13.1	10.3	-0.6	1.9	2.4	-3.6	-1.4	5.6	-3.8	3.6	-6.4	2.2	4.0	-2.2	2.6	0.0	2.6	-6.8	-4.5	7.1
	4.事故発生防止	2016	66.7	62.9	73.4	82.6	85.3	89.4	89.4	88.9	87.8	93.3	92.6	92.1	94.4	89.5	91.9	95.7	88.2	93.8	90.0	90.7
		2019	66.7	69.8	85.7	81.5	81.0	92.6	90.1	86.5	94.3	95.5	85.3	85.9	95.8	98.0	93.3	92.1	96.5	93.0	85.7	89.3
		単純差	0.0	6.9	12.3	-1.2	-4.3	3.2	0.7	-2.3	6.5	2.1	-7.3	-6.2	1.5	8.5	1.5	-3.6	8.3	-0.8	-4.3	-1.4
	5.身体拘束廃止	2016	33.0	35.9	45.3	50.8	59.9	63.4	61.4	64.9	69.9	74.3	71.8	79.6	76.6	76.7	79.5	84.8	69.4	90.5	86.7	77.8
		2019	30.0	37.5	61.4	58.8	63.8	71.0	64.0	68.8	73.4	80.5	67.2	73.1	91.9	83.8	78.0	76.2	89.5	84.2	82.1	78.0
		単純差	-3.0	1.6	16.2	8.0	4.0	7.6	2.7	3.9	3.5	6.2	-4.6	-6.5	15.4	7.2	-1.5	-8.6	20.1	-6.3	-4.5	0.2
	6.終末期ケア	2016	30.0	43.1	53.5	54.7	61.3	58.7	66.4	61.3	68.3	73.3	72.0	76.1	76.2	78.4	73.7	80.9	68.3	85.4	86.7	80.2
		2019	30.0	46.7	57.6	58.8	56.1	65.9	65.5	73.2	68.9	81.9	66.1	73.1	96.8	85.9	72.4	73.8	92.1	86.8	85.7	78.0
		単純差	0.0	3.6	4.0	4.1	-5.2	7.1	-1.0	11.9	0.6	8.6	-5.9	-3.0	20.6	7.5	-1.3	-7.1	23.8	1.5	-1.0	-2.2
Ⅲ.地域包括ケアシステム&リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	2016	25.0	20.3	22.9	45.0	32.4	31.0	40.5	37.7	35.2	47.5	44.2	46.4	52.0	53.5	51.0	57.9	61.8	65.0	73.5	63.8
		2019	—	25.0	17.9	41.7	70.3	41.3	51.5	40.2	45.0	75.9	54.7	56.8	43.2	50.0	63.4	65.0	73.1	66.7	66.7	45.5
		単純差	#VALUE!	4.7	-5.1	-3.3	37.9	10.4	11.0	2.5	9.8	28.4	10.5	10.4	-8.8	-3.5	12.4	7.1	11.2	1.7	-6.9	-18.3
	2.リーダーシップ	2016	40.0	31.3	49.1	60.7	55.4	67.1	67.2	71.9	74.0	75.2	73.2	79.5	82.0	70.8	81.0	87.8	78.9	92.0	85.2	76.7
		2019	—	8.3	33.3	61.1	79.2	66.7	74.5	73.0	73.0	82.7	68.8	75.8	84.8	94.1	71.4	93.3	94.9	92.6	83.3	81.8
		単純差	#VALUE!	-22.9	-15.7	0.4	23.7	-0.4	7.3	1.1	-1.0	7.5	-4.5	-3.7	2.8	23.3	-9.6	5.5	15.9	0.6	-1.9	5.2
		2016	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2019	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		単純差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2016	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		2019	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		単純差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(5) 2016 年群・2019 年群の比較による介護キャリア段位制度の OJT 推進効果

これら「○（できる）」割合の差と検定結果を検定結果を踏まえると、介護キャリア段位制度が3年に渡ってもたらした介護技術のOJT推進効果について、以下の通りといえる。

基本介護技術

「入浴介助」「食事介助」といった基本介護技術について、介護職員経験年数1年と2年に「○（できる）」割合の差が出ている。このことは、介護キャリア段位制度が介護職員経験年数1年～2年といったいわゆる新人職員に対する評価とOJTの仕組みを提供し、3年経過において10%近くの介護職員について「○（できる）」割合を高めることができています、といえる。

感染症対策・衛生管理

「感染症対策・衛生管理」について、基本介護技術と同様に、介護職員経験年数1年と2年に「○（できる）」割合の差が出ている。このことは、アセッサー講習にて個別で講義を行うあるいは、レベル認定委員会において厳密に審査を行うなど、介護キャリア段位制度において、普段からのスタンダードプリコーション実施を重要視し、事業所内で徹底的に実施されているかどうかの確認を積み重ねてきた結果のあらわれであると考えられる。つまり、介護キャリア段位制度がスタンダードプリコーション実施に関する評価とOJTの仕組みを提供し、3年経過において10%近くの介護職員について「○（できる）」割合を高めることができています、といえる。

終末期ケア

「終末期ケア」について、介護職員経験年数8年と10年、13年に「○（できる）」割合の差が出ている。このことは、いわゆるベテラン層に対して、経験であり学習する機会を積極的に設けることを推進し、介護職員としての専門的な対応の中でも特に高度な技量を要する終末期ケアについて評価とOJTの仕組みを提供し、3年経過において10%近くの介護職員について「○（できる）」割合を高めることができています、といえる。

地域包括ケアシステムの実組

域包括ケアシステムへの取組について、認定者群・未認定者群の比較において「○（できる）」割合の差にて多くの差であり、大きな差がみられたところであるが、2016年から2019年の3年間での変化についても同様に、多くの差であり、大きな差がみられた。

先出の通り、介護キャリア段位制度の実組を通じて、初めて地域包括ケアシステムへの取組について学習し、対応力向上にむけた取組がされている、とここでもいえるということである。

介護キャリア段位制度の実組を展開し推進することで、介護事業所における地域包括ケアシステムの学習する機会の創出、対応力向上にむけたOJTの推進がはかられ、その結果3年経過において特に介護職員経験年数の5年～15年の介護職員について、10%近くの「○（できる）」割合を高めることができている、といえる。

介護キャリア段位制度として、介護技術評価基準が、明文化されたものとして世に出され、活用が広がっている中、2016年時点と2019年時点の変化比較からは、明文化された評価基準がもたらした事項として、基本介護技術に関するOJTの推進がなされてきたことが、数値として示された。

また、介護キャリア段位制度のアセッサー講習及びレベル認定審査の重点項目として、感染症予防対策・衛生管理（スタンダードプリコーション）の徹底についても、今回、数値としてあらわれることとなった。期せずしてまさにリスクマネジメントとして、現場で発揮されている中、本視点の重要性は再認識されているものといえる。

「終末期ケア」に関しては、スキルアップのパスとして、レベル3相当に位置づけられることにより、ベテラン層のOJT、スキルを深める分野として広まりつつあることが読み取れる。

さらに、「地域包括ケアシステム」に至っては、介護技術評価基準によるシステム構築にむけた取組への誘導と、各地域、事業所における認識の定着とが相まって、3カ年での広まりが数値として示されている。これらは、まさに介護キャリア段位制度創設のねらいがスキルとなって形になっていることの証明といえ、148にまで集約化され、行為・対応として明文化された介護技術評価基準を用いたOJTシステムがもたらした結果といえる。

3. 期首評価票データ分析結果を踏まえて

期首評価データ分析について、認定者群と未認定者群、いわゆる評価とOJTが一体的に実施されている事業所群と、評価とOJTが一体的に実施されていない事業所群の2群の比較することでOJTの効果・実態の差を数値で明らかにするとともに、2016年時と2019年時の2群の期首評価データ比較による、介護キャリア段位制度が介護事業所にもたらす介護技術のOJT推進の寄与度合いについて、数値で明らかとなった。

このことは、言い換えると、介護キャリア段位制度といった全国共通の介護技術評価指標によるデータが蓄積され、そのデータを分析・活用することで、既に介護事業所における介護技術向上の指標でありKPIといった数値目標、いわゆる介護技術向上の見える化が可能となっているということである。

例えば介護キャリア段位制度に取り組み、評価とOJTが一体的に実施されている事業所を目標水準として、介護職員として1年経過した職員について、「基本介護技術」については介護キャリア段位制度の評価指標に基づき、介護技術の定着度合いを評価し、所属する職員のうち8割の職員について介護技術定着を目指す、あるいは「状況の変化に応じた対応」や「感染予防・衛生管理の対応」について、7割の職員について介護技術定着を目指すといったことが可能となる。

また、介護事業所におけるOJTの実施状況があまり芳しくない、3年目以降の介護職員について、例えば介護職員としての経験年数5年の介護職員を対象に介護技術の評価を行い、「状況の変化に応じた対応」が8割の職員についてできているか、「介護過程の展開」について7割の介護職員ができているか、「地域包括ケアシステムの対応」については5割職員についてできているかなど、介護事業所として介護職員の介護技術における評価、事業所全体として介護技術の習得度合いを確認し、全国水準より上回っているのか、下回っているのかを確認し、下回っているものを重点的にOJTの実施をしていく、そうしたシステムを構築することが重要であると考えられる。

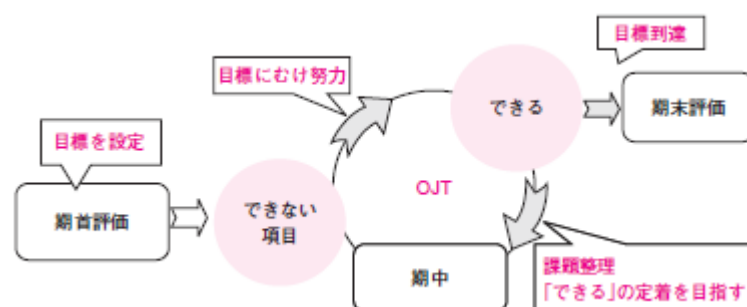
このことはOJT項目の見える化につながり、より効率的・効果的OJTの実施に寄与するものであり、3年経過後には介護技術向上に明らかな効果を得ることができる、数値で明らかにすることができる、ともいえる。

キャリアパスにおける事業所評価についてはどちらかというと抽象的な努力目標に傾倒している。これを具体的な数値目標、KPIを設定し、その数値をもって精緻に事業所評価を行っていくことが、今後、介護事業所における介護職員の質の向上をはかる上では必須である、と結論づける。

4. 期末評価票データ分析結果

(1) 期末評価票データの分析

介護キャリア段位制度における期首評価については、介護技術を客観的に評価するアセッサー（評価者）が、レベル認定を目指す介護職員に対して、日頃のケアの状況を振り返りながら、介護技術評価項目に基づく「○（できる）」「×（できていない）」評価を、OJT 前に実施することとなっている。この期首評価結果に基づき、OJT 実施計画を立て「できていない」介護技術を中心に、ある一定期間において「できる」ようになるよう OJT を実施し、一定期間経過後、介護技術の定着がはかられたかの確認である期末評価を行う、そうした評価と OJT を一体化した仕組みを介護キャリア段位では構築しているところである。



介護キャリア段位制度における 評価 ⇒ できていない ⇒ できる育成のサイクル

また、介護キャリア段位制度における評価データについては、この「期首評価」で「できていない」と評価された介護技術項目を、介護現場において OJT を実施し「期末評価」にて「できる」となった介護技術項目ごとのある一定期間の評価データが蓄積されており、そのデータの一部である評価日に着目し、評価開始日を OJT の開始日、期末評価にて「できる」と評価した日を OJT 終了日とすることで、介護技術項目それぞれの OJT 実施期間を算出し、介護技術項目の平均 OJT 実施期間並びに介護事業所におけるモデル的 OJT 期間等について分析を行った。

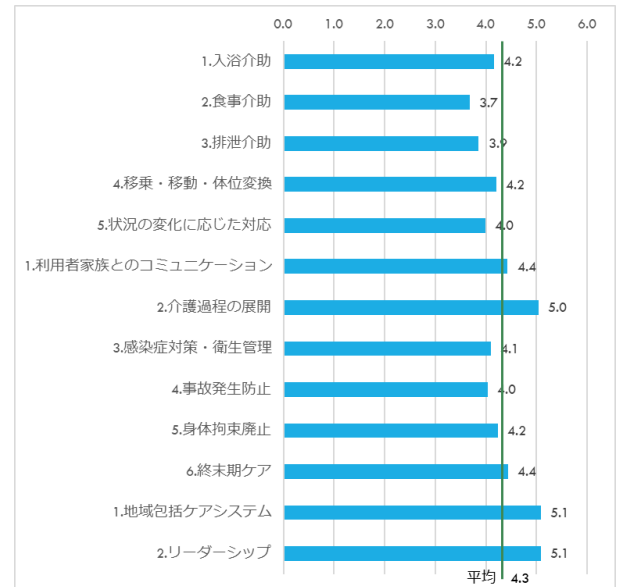
第2章：4. 期末評価票データ分析結果

介護キャリア段位制度における介護技術評価項目の中項目単位での「×（できていない）」⇒「○（できる）」となった延べ人数、並びに平均 OJT 実施期間（単位：カ月）については以下の通りとなった。

(n=4,386)

評価項目		×	⇒	○	平均
大項目	中項目	人数			月数
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	1,595			4.2
	2.食事介助	1,377			3.7
	3.排泄介助	1,152			3.9
	4.移乗・移動・体位変換	2,644			4.2
	5.状況の変化に応じた対応	1,687			4.0
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	1,034			4.4
	2.介護過程の展開	1,028			5.0
	3.感染症対策・衛生管理	812			4.1
	4.事故発生防止	862			4.0
	5.身体拘束廃止	301			4.2
	6.終末期ケア	538			4.4
Ⅲ.地域包括ケアシステム&リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	810			5.1
	2.リーダーシップ	248			5.1

(単位：人) (単位：カ月)



評価項目全体においては平均 4.3 カ月の OJT 実施期間となり、基本介護技術については平均 4.0 カ月、利用者視点での介護については平均 4.4 カ月、地域包括ケアシステム&リーダーシップについては 5.1 カ月の OJT 実施期間となった。ほとんどの介護技術項目について概ね 3 カ月から 4 カ月の OJT 実施期間となっているが、介護過程の展開、地域包括ケアシステム、リーダーシップについては 5 カ月以上の OJT 実施期間を要しており、これらの項目については OJT ツールや OJT プログラムなど、ある程度体制を整備した上で OJT を実施しないと、長期の OJT 期間を要することとなり、結果として全体的な OJT 実施完了に行きつかない要因となりえることに留意が必要といえる。

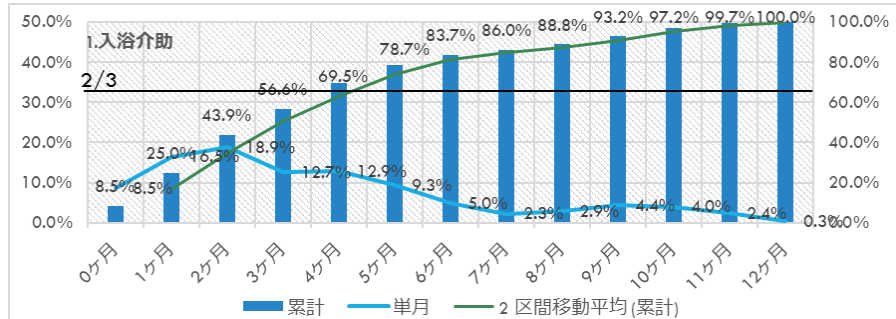
なお、中項目単位での OJT 実施期間別の割合は以下の通りとなり、できる割合を累計したものについてグラフ化したものを合わせて掲載する。

評価項目		OJT期間												
大項目	中項目	0ヶ月	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月	10ヶ月	11ヶ月	12ヶ月
Ⅰ.基本介護技術 の評価	1.入浴介助	8.5%	16.5%	18.9%	12.7%	12.9%	9.3%	5.0%	2.3%	2.9%	4.4%	4.0%	2.4%	0.3%
	2.食事介助	13.7%	19.4%	18.3%	13.1%	9.7%	7.8%	4.9%	3.3%	2.0%	3.2%	2.5%	1.7%	0.4%
	3.排泄介助	11.8%	18.8%	19.0%	12.7%	10.2%	8.1%	3.6%	2.7%	2.8%	4.0%	3.6%	1.9%	0.8%
	4.移乗・移動・体位変換	9.1%	17.1%	19.5%	11.6%	10.7%	10.0%	4.1%	3.5%	3.2%	4.4%	3.5%	3.1%	0.3%
	5.状況の変化に応じた対応	11.9%	15.7%	17.2%	14.5%	10.7%	9.5%	4.7%	2.8%	3.8%	3.9%	2.3%	2.8%	0.2%
Ⅱ.利用者視点で の評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	10.4%	14.2%	15.7%	13.6%	11.0%	10.7%	5.4%	4.8%	3.4%	4.3%	3.8%	2.4%	0.2%
	2.介護過程の展開	5.5%	10.8%	11.6%	12.5%	13.5%	15.0%	6.7%	5.0%	5.4%	5.2%	5.4%	3.0%	0.5%
	3.感染症対策・衛生管理	14.2%	15.0%	16.3%	12.3%	8.7%	11.6%	5.0%	3.2%	3.4%	3.8%	2.7%	3.4%	0.2%
	4.事故発生防止	11.8%	17.3%	15.9%	13.5%	10.1%	11.1%	4.6%	4.2%	3.7%	4.8%	1.6%	1.2%	0.2%
	5.身体拘束廃止	8.3%	11.0%	15.9%	12.6%	13.3%	15.9%	5.0%	5.6%	4.0%	4.7%	1.7%	2.0%	0.0%
	6.終末期ケア	10.6%	9.9%	15.2%	12.6%	13.6%	16.2%	5.6%	3.3%	2.8%	3.5%	3.3%	3.0%	0.4%
Ⅲ.地域包括ケア システム&リー	1.地域包括ケアシステム	7.2%	9.9%	12.1%	14.1%	11.2%	16.0%	4.9%	3.0%	4.6%	5.6%	5.6%	5.8%	0.1%
	2.リーダーシップ	5.6%	9.3%	14.9%	14.1%	12.1%	14.9%	4.8%	2.8%	4.8%	6.0%	5.6%	4.0%	0.8%

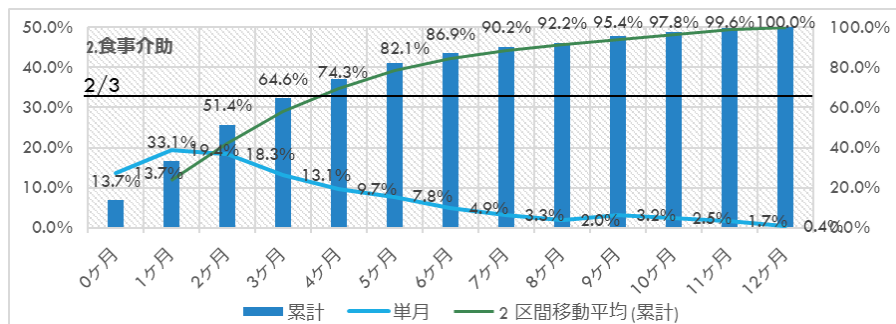
第2章：4．期末評価票データ分析結果

■ 基本介護技術

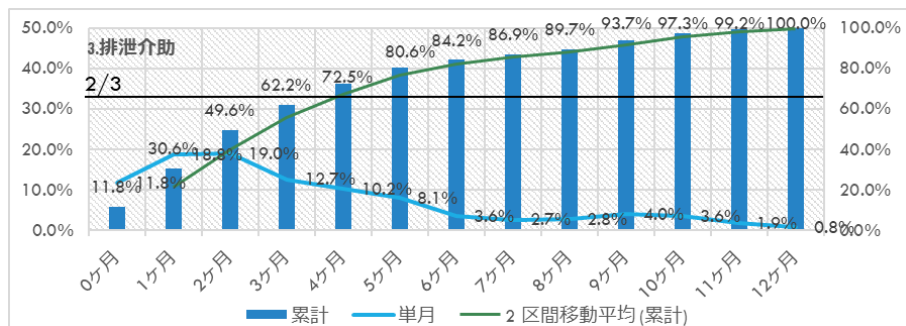
<入浴介助>



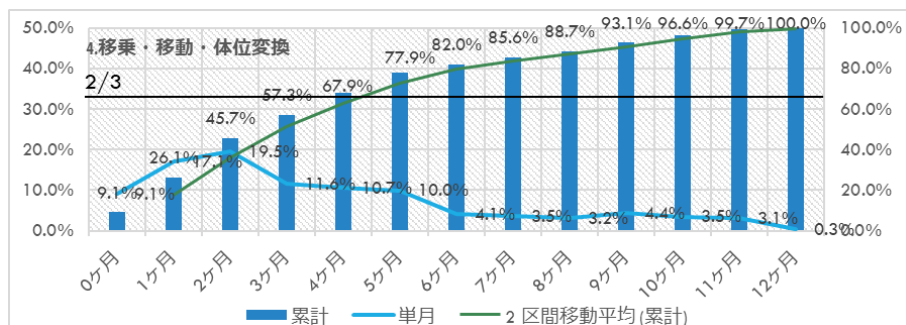
<食事介助>



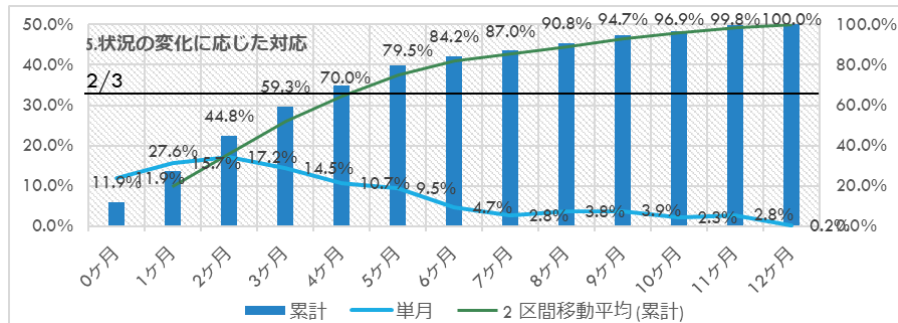
<排泄介助>



<移乗・移動・体位変換>



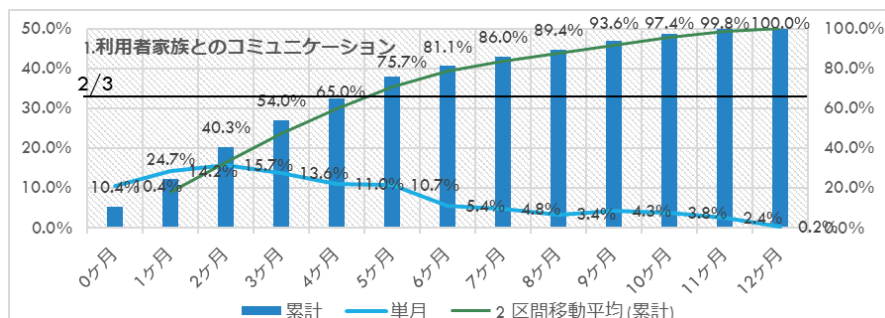
＜状況の変化に応じた対応＞



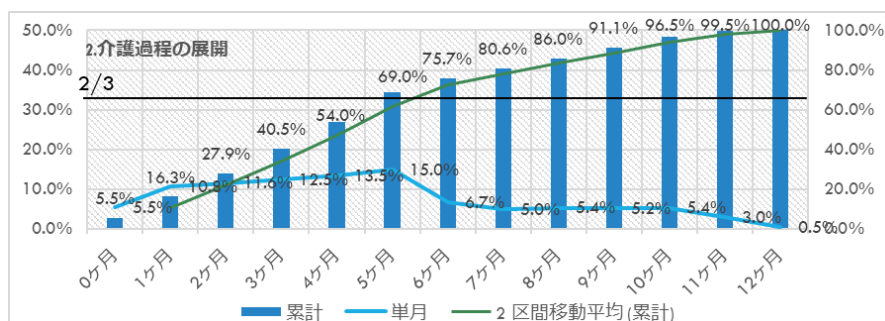
基本介護技術に関する OJT について、全般的に概ね 1 カ月ないし、2 カ月程度期間をかけて実施している傾向にあり、3 人のうち 2 人ができる割合、2/3 ラインでみてみると、3 カ月から 4 カ月の OJT 実施で達成傾向にあるといえる。

■ 利用者視点での評価（介護）

＜利用者家族とのコミュニケーション＞

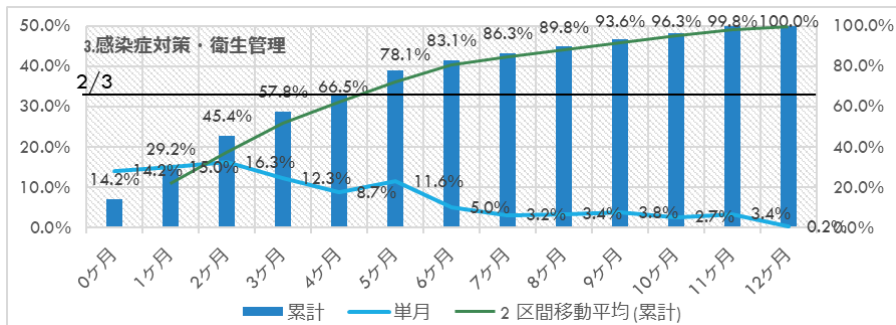


＜介護過程の展開＞

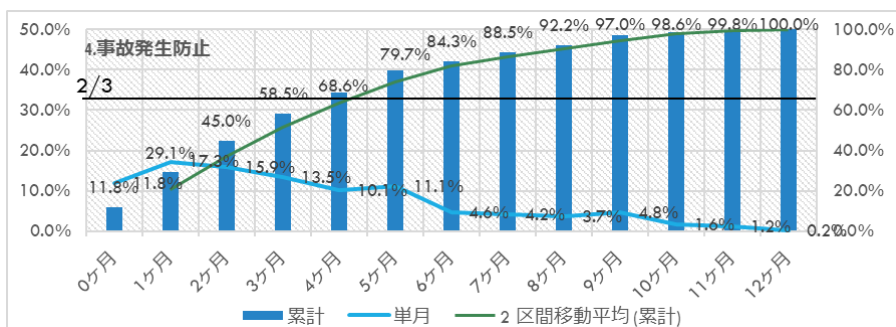


第2章：4．期末評価票データ分析結果

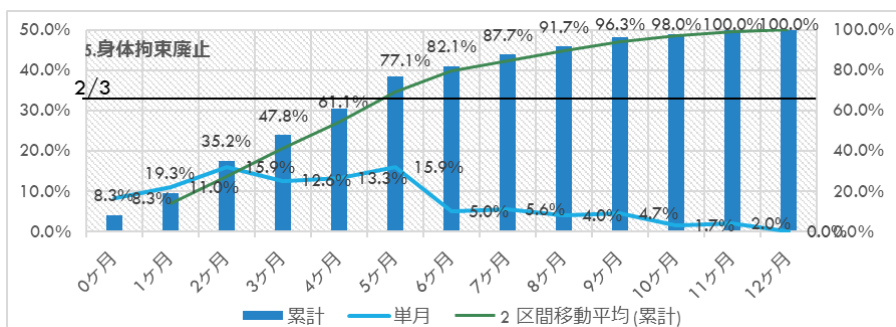
<感染症対策・衛生管理>



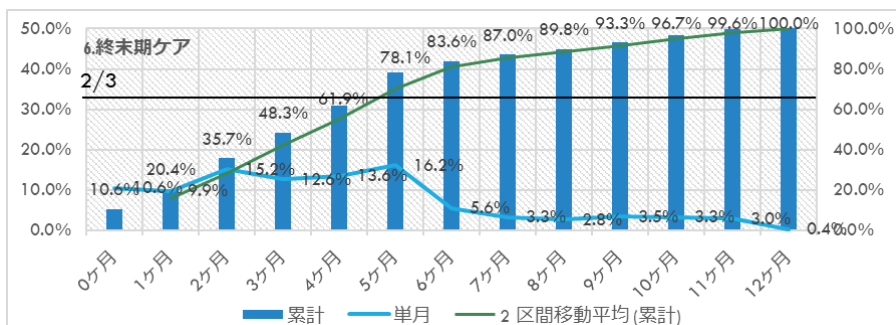
<事故発生防止>



<身体拘束廃止>



<終末期ケア>

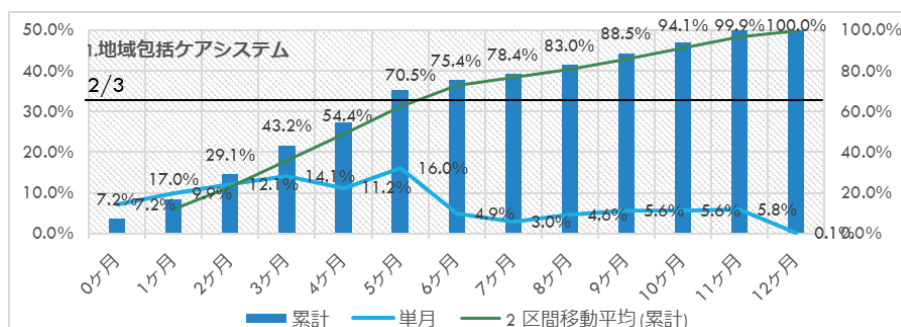


利用者視点での評価（介護）に関する OJT のうち、感染症対策・衛生管理及び事故発生防止については2カ月～3カ月程度期間をかけて実施している傾向にあり、3人のうち2人ができる割合、2/3ラインでみてみると、3カ月から4カ月のOJT実施で達成傾向にあるといえる。これは先での基本介護技術と同じ傾向にあり、基本介護技術をOJTで学ぶと同時にこれらの項目をOJTで学び身につけているといえる。言い換えると、介護現場では、基本介護技術を学ぶと同時に、感染症対策・衛生管理及び事故発生防止についてOJTで学ぶ必要がある、といえる。

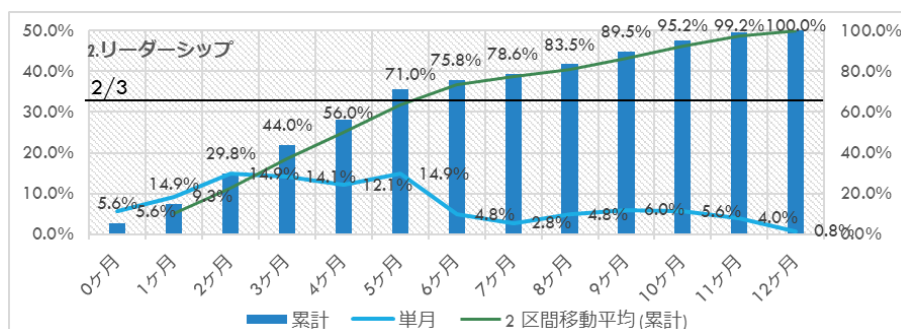
また、利用者家族とのコミュニケーション、介護過程の展開、身体拘束廃止、終末期ケアについては2カ月から5カ月程度期間をかけてOJTを実施している傾向にあり、3人のうち2人ができる割合、2/3ラインでみてみると5カ月でようやく到達できている。特に介護過程の展開に関するOJTについては5カ月かけている割合最も多く、約半年間をかけてOJTを実施し、身につけている、あるいは身につける必要があるといえる。

■ 地域包括ケアシステム&リーダーシップ

<地域包括ケアシステム>



<リーダーシップ>



第2章：4. 期末評価票データ分析結果

地域包括ケアシステム&リーダーシップに関するOJTについては2カ月から5カ月の実施期間、特に5カ月実施している割合が高くなっている。また、6カ月までにOJTを通じて身につく割合の伸びが低く、6カ月を超えて11カ月程度までOJTを実施している割合も一定数あることから、本評価項目をOJTで学ぶことについては、半年で学び身につけることができる体制を構築しないと、半年を超えて1年程度かかってしまう可能性があるといえ、OJTの効果的・効率的実施について、ツールであり教育の材料といったものが必要であると考えられる。

なお、介護キャリア段位制度における介護技術評価項目の小項目単位での「×（できていない）」⇒「○（できる）」となった延べ人数、並びに平均OJT実施期間（単位：カ月）については以下の通りとなっている。

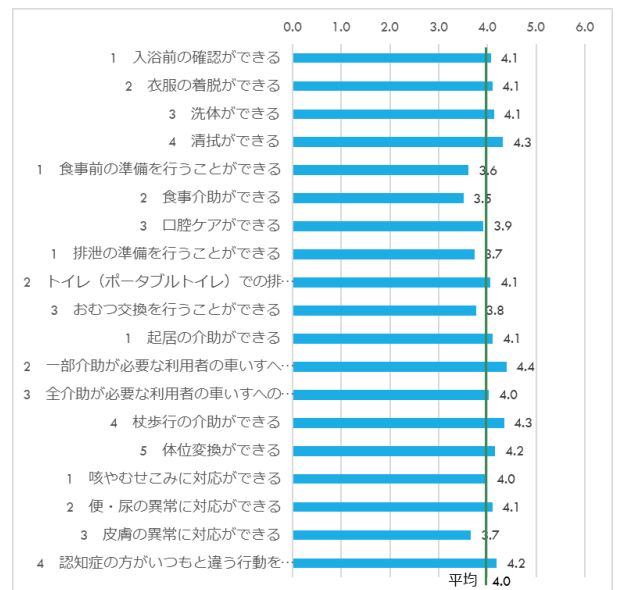
■ 基本介護技術

(n=4,386)

(単位：カ月)

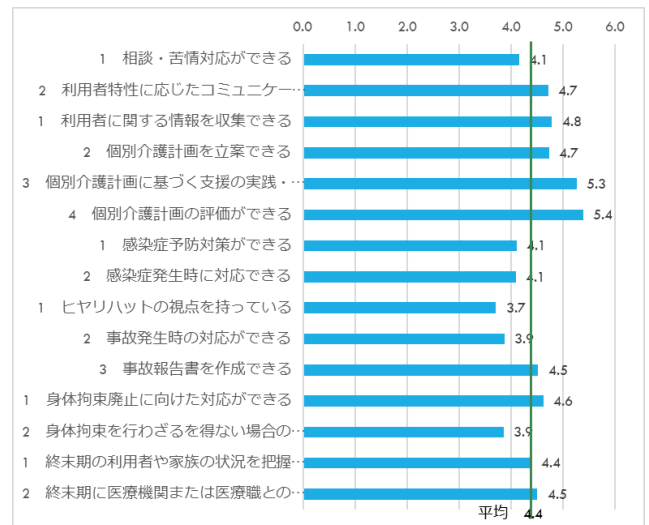
評価項目			×⇒○ 人数	平均 月数
大項目	中項目	小項目		
I.基本介護技術 の評価	1.入浴介助	1 入浴前の確認ができる	333	4.1
		2 衣服の着脱ができる	352	4.1
		3 洗体ができる	431	4.1
		4 清拭ができる	479	4.3
	2.食事介助	1 食事前の準備を行うことができる	361	3.6
		2 食事介助ができる	518	3.5
		3 口腔ケアができる	498	3.9
	3.排泄介助	1 排泄の準備を行うことができる	241	3.7
		2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	479	4.1
		3 おむつ交換を行うことができる	432	3.8
	4.移乗・移動・体位 変換	1 起居の介助ができる	377	4.1
		2 一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	572	4.4
		3 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	713	4.0
		4 杖歩行の介助ができる	465	4.3
		5 体位変換ができる	517	4.2
	5.状況の変化に応じ た対応	1 咳やむせこみに対応ができる	273	4.0
		2 便・尿の異常に対応ができる	372	4.1
		3 皮膚の異常に対応ができる	375	3.7
		4 認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に	667	4.2

(単位：人) (単位：カ月)



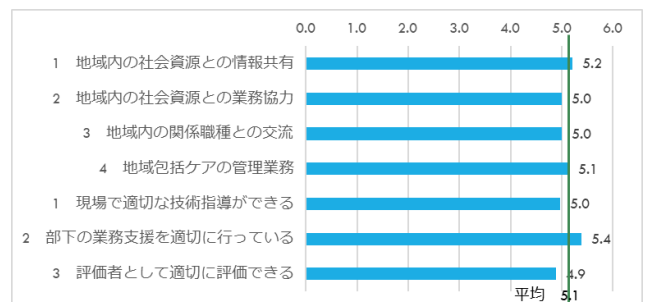
■ 利用者視点での評価（介護）

評価項目			×⇒○ 人数	平均 月数
大項目	中項目	小項目		
Ⅱ. 利用者視点での評価	1. 利用者家族とのコミュニケーション	1 相談・苦情対応ができる	705	4.1
		2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる	329	4.7
	2. 介護過程の展開	1 利用者に関する情報を収集できる	115	4.8
		2 個別介護計画を立案できる	342	4.7
		3 個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	260	5.3
		4 個別介護計画の評価ができる	311	5.4
	3. 感染症対策・衛生管理	1 感染症予防対策ができる	366	4.1
		2 感染症発生時に対応できる	446	4.1
	4. 事故発生防止	1 ヒヤリハットの視点を持っている	288	3.7
		2 事故発生時の対応ができる	405	3.9
		3 事故報告書を作成できる	169	4.5
	5. 身体拘束廃止	1 身体拘束廃止に向けた対応ができる	221	4.6
		2 身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる	80	3.9
	6. 終末期ケア	1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる	241	4.4
		2 終末期に医療機関または医療職との連携ができる	297	4.5



■ 地域包括ケアシステム&リーダーシップ

評価項目			×⇒○ 人数	平均 月数
大項目	中項目	小項目		
Ⅲ. 地域包括ケアシステム&リーダーシップ	1. 地域包括ケアシステム	1 地域内の社会資源との情報共有	158	5.2
		2 地域内の社会資源との業務協力	194	5.0
		3 地域内の関係職種との交流	181	5.0
		4 地域包括ケアの管理業務	277	5.1
	2. リーダーシップ	1 現場で適切な技術指導ができる	67	5.0
		2 部下の業務支援を適切に行っている	76	5.4
		3 評価者として適切に評価できる	105	4.9



基本介護技術については概ね4カ月程度OJT実施期間となっており、特に大きな差異はみられていないが、清拭、一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗、杖歩行介助については他の介護項目と比較して若干長い傾向がみられた。

利用者視点での評価（介護）については、特に介護過程の展開、その中で個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリング、個別介護計画の評価に関するOJT実施期間が長くなっている。これは個別介護計画立案後、ある一定程度期間経過後、概ね3カ月もしくは6カ月にてモニタリングであり評価を行うところから、この期間が他と比較して長くなることは必然であり、介護過程の展開としてのOJTが介護現場においてしっかり行われているあかしでもある、ということができる。

地域包括ケアシステム&リーダーシップについては概ね5カ月程度OJT実施期間となっており特に大きな差異はみられていない。

第2章：4. 期末評価票データ分析結果

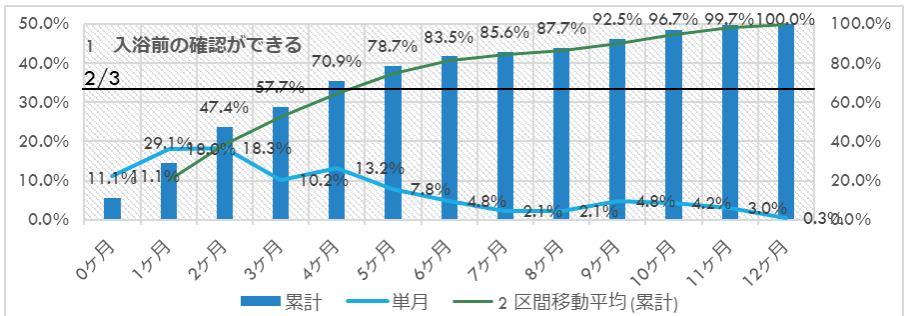
なお、小項目単位でのOJT実施期間別の割合は以下の通りとなり、できる割合を累計したものについてグラフ化したものを合わせて掲載する。

■ 基本介護技術

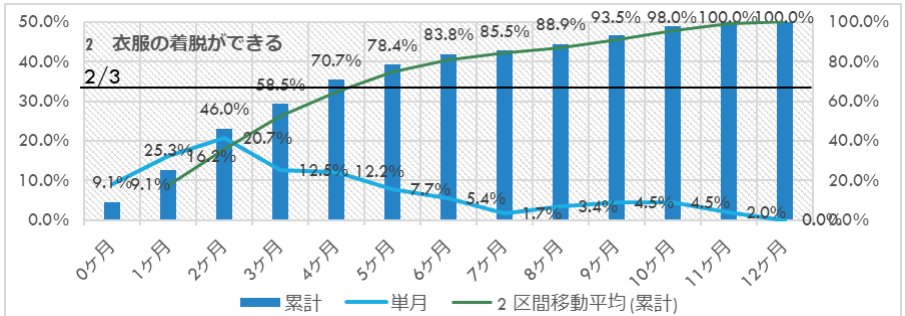
評価項目			OJT期間												
大項目	中項目	小項目	0ヶ月	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月	10ヶ月	11ヶ月	12ヶ月
Ⅰ. 基本介護技術 の評価	1.入浴介助	1 入浴前の確認ができる	11.1%	18.0%	18.3%	10.2%	13.2%	7.8%	4.8%	2.1%	2.1%	4.8%	4.2%	3.0%	0.3%
		2 衣服の着脱ができる	9.1%	16.2%	20.7%	12.5%	12.2%	7.7%	5.4%	1.7%	3.4%	4.5%	4.5%	2.0%	0.0%
		3 洗体ができる	7.7%	17.9%	18.6%	14.2%	11.6%	8.4%	5.3%	2.3%	3.5%	5.1%	3.9%	1.2%	0.5%
		4 清拭ができる	7.1%	14.4%	18.4%	13.2%	14.2%	12.3%	4.4%	2.7%	2.5%	3.3%	3.5%	3.5%	0.4%
	2.食事介助	1 食事前の準備を行うことができる	15.8%	17.7%	17.2%	13.9%	10.5%	7.5%	6.9%	2.8%	1.1%	1.9%	1.9%	2.2%	0.6%
		2 食事介助ができる	14.3%	21.2%	19.7%	12.7%	7.7%	6.9%	4.6%	3.7%	2.3%	3.1%	2.3%	1.0%	0.4%
		3 口腔ケアができる	11.6%	18.7%	17.7%	13.1%	11.2%	8.8%	3.6%	3.2%	2.2%	4.2%	3.0%	2.2%	0.4%
	3.排泄介助	1 排泄の準備を行うことができる	15.8%	19.1%	16.6%	12.4%	10.0%	7.5%	2.5%	3.3%	2.5%	5.0%	2.9%	1.7%	0.8%
		2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	10.4%	18.2%	18.2%	14.0%	10.2%	6.9%	4.6%	2.1%	3.5%	4.4%	4.6%	1.9%	1.0%
		3 おむつ交換を行うことができる	11.1%	19.2%	21.3%	11.3%	10.4%	9.7%	3.2%	3.0%	2.1%	3.0%	3.0%	2.1%	0.5%
	4.移乗・移動・体位 変換	1 起居の介助ができる	9.3%	17.0%	22.3%	10.3%	9.0%	10.6%	4.8%	2.7%	2.7%	5.3%	2.4%	3.7%	0.0%
		2 一部介助が必要な利用者の搬いすへの移乗ができる	8.9%	15.6%	17.7%	11.5%	12.8%	8.9%	4.9%	3.7%	3.8%	4.5%	4.0%	3.1%	0.5%
		3 全介助が必要な利用者の搬いすへの移乗ができる	10.4%	19.2%	18.9%	11.8%	9.8%	9.4%	3.6%	3.8%	2.1%	3.9%	3.9%	2.7%	0.4%
		4 杖歩行の介助ができる	9.2%	16.6%	17.0%	11.8%	11.0%	10.3%	3.9%	4.7%	4.7%	3.9%	3.0%	3.4%	0.4%
		5 体位変換ができる	7.2%	16.2%	22.6%	12.2%	10.4%	11.2%	3.7%	2.5%	2.9%	4.6%	3.5%	2.7%	0.2%
		6 咳やむせごみに対応ができる	12.1%	16.8%	15.8%	14.7%	12.1%	9.5%	3.3%	3.7%	2.9%	3.7%	2.6%	2.9%	0.0%
	5.状況の変化に応じ た対応	2 便・尿の異常に対応ができる	12.9%	12.9%	19.4%	14.5%	9.1%	8.6%	4.6%	3.8%	6.2%	2.2%	3.0%	3.0%	0.0%
		3 皮膚の異常に対応ができる	17.1%	16.8%	16.3%	14.4%	8.3%	8.5%	6.4%	1.3%	2.9%	2.4%	2.9%	2.4%	0.3%
		4 認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に対応できる	8.2%	16.2%	17.2%	14.4%	12.4%	10.5%	4.5%	2.7%	3.3%	5.7%	1.3%	3.0%	0.4%

＜入浴介助＞

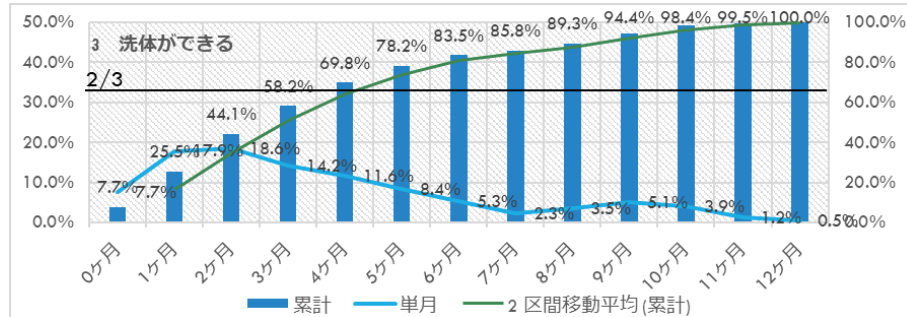
1 入浴前の確認ができる



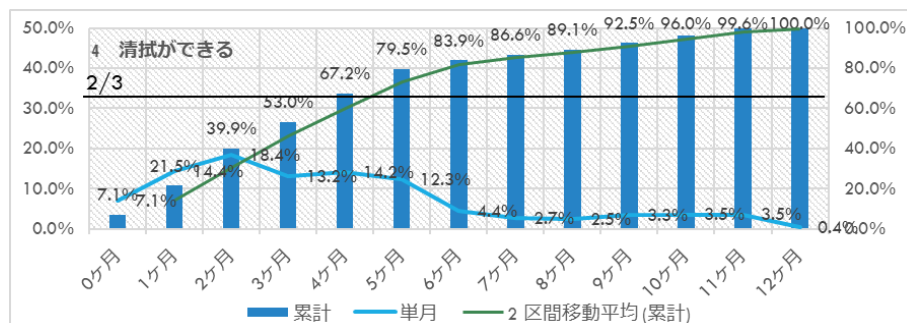
2 衣服の着脱ができる



3 洗体ができる

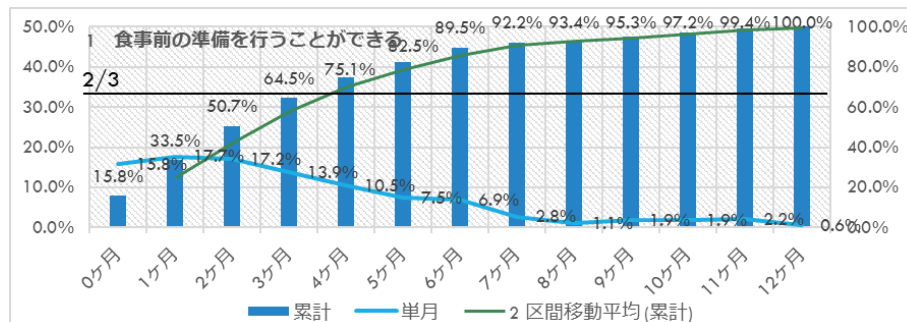


4 清拭ができる

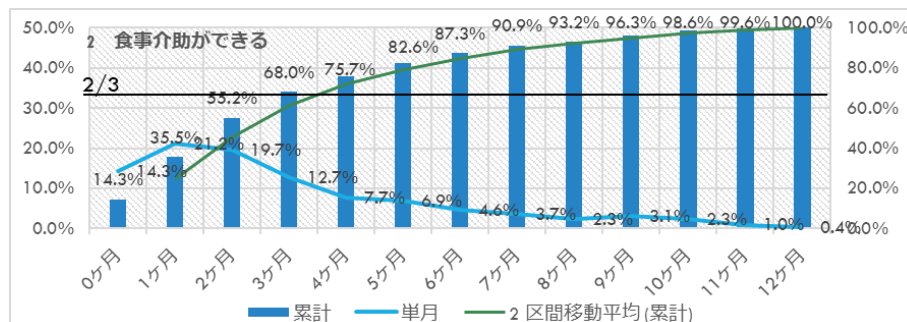


<食事介助>

1 食事前の準備を行うことができる

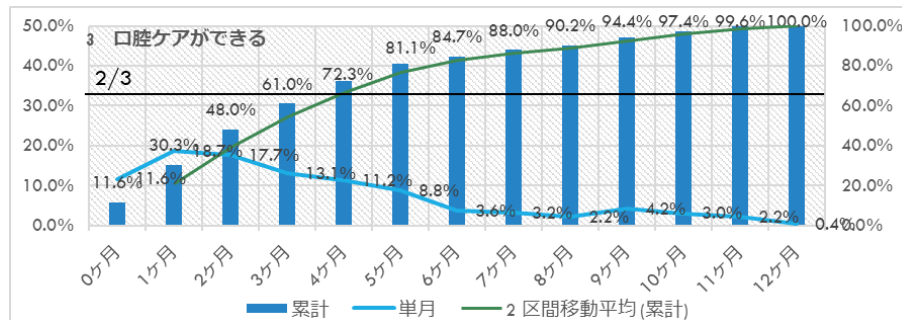


2 食事介助ができる



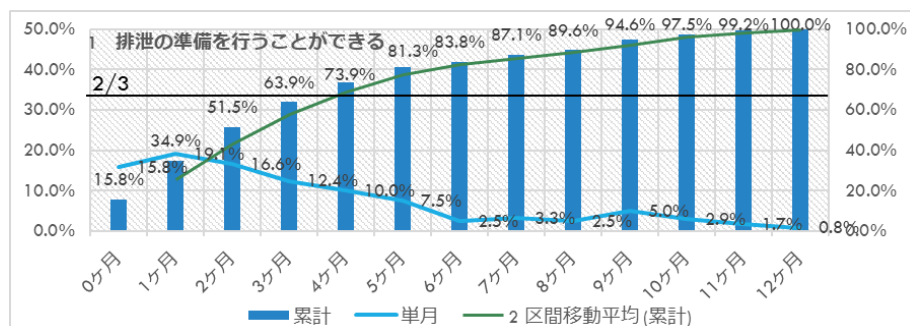
第2章：4. 期末評価票データ分析結果

3 口腔ケアができる

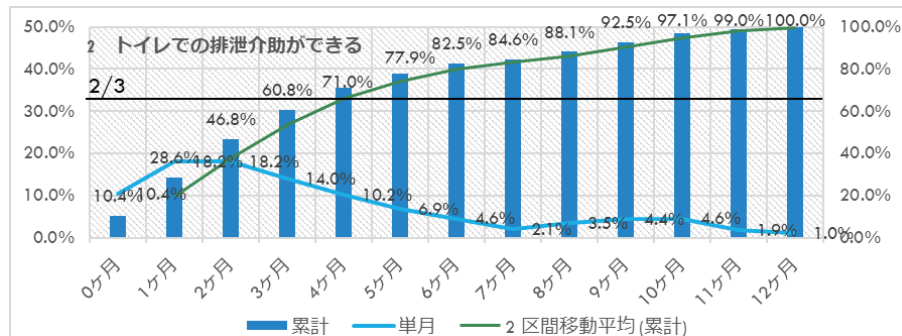


<排泄介助>

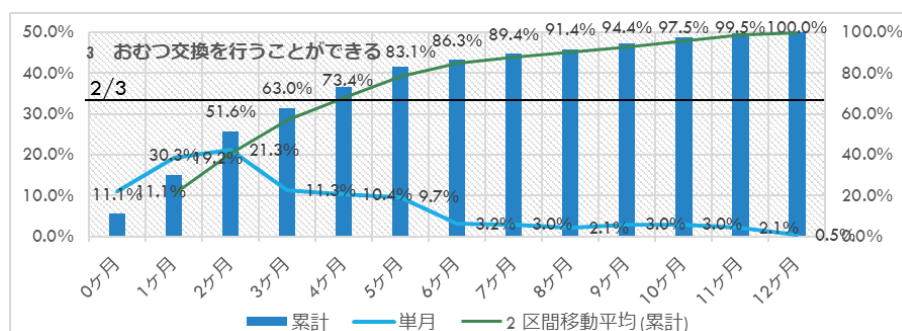
1 排泄の準備を行うことができる



2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる

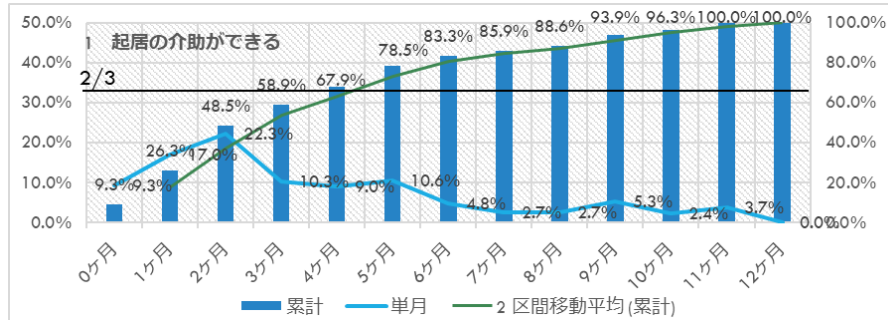


3 おむつ交換を行うことができる

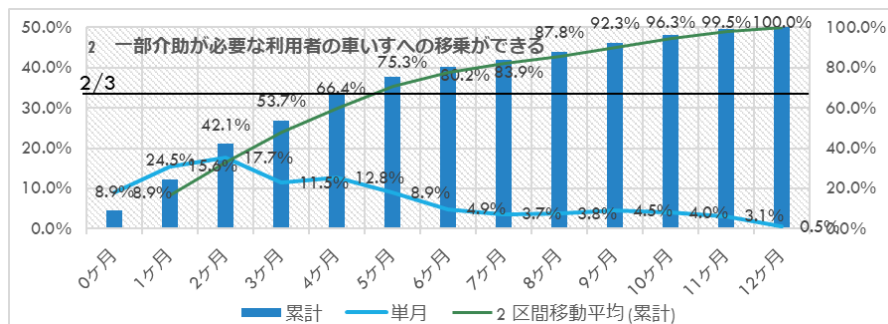


＜移乗・移動・体位変換＞

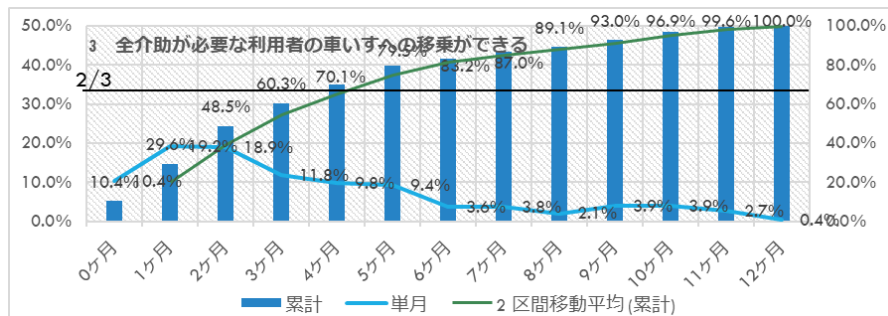
1 起居の介助ができる



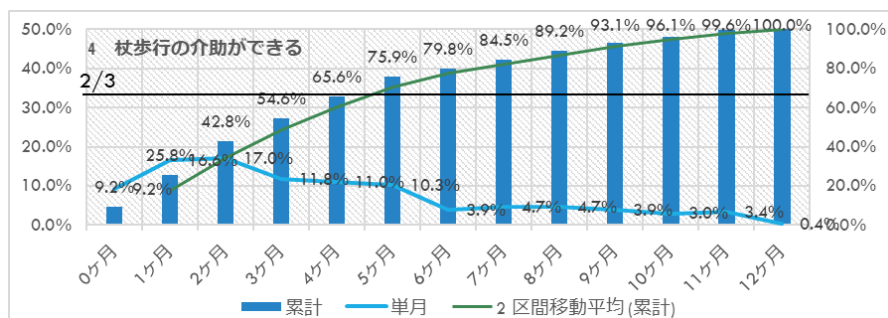
2 一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる



3 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる

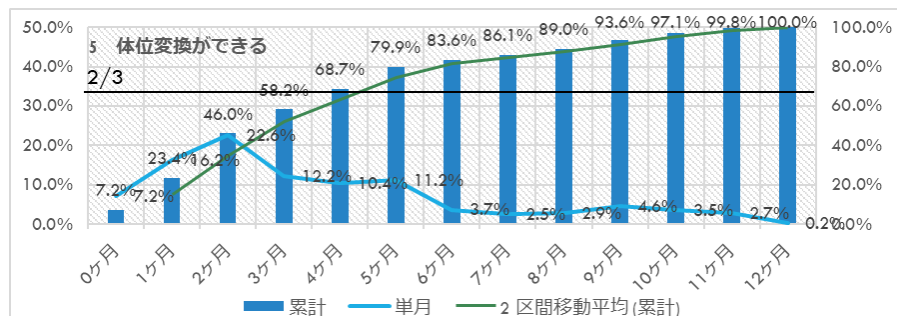


4 杖歩行の介助ができる



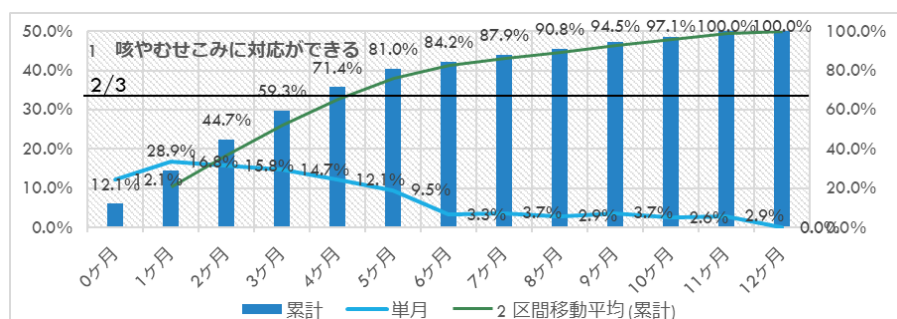
第2章：4．期末評価票データ分析結果

5 体位変換ができる

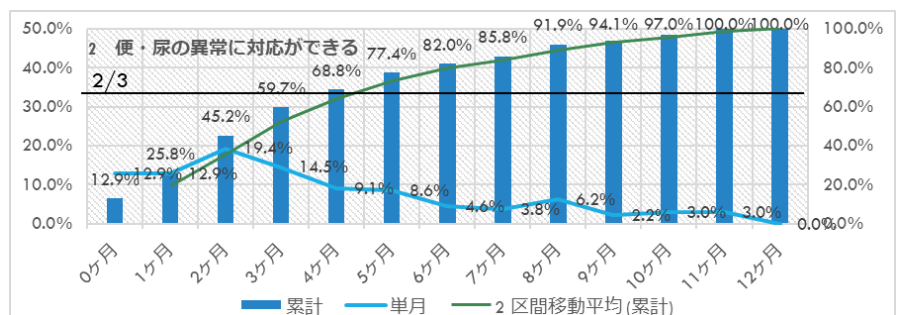


<状況の変化に応じた対応>

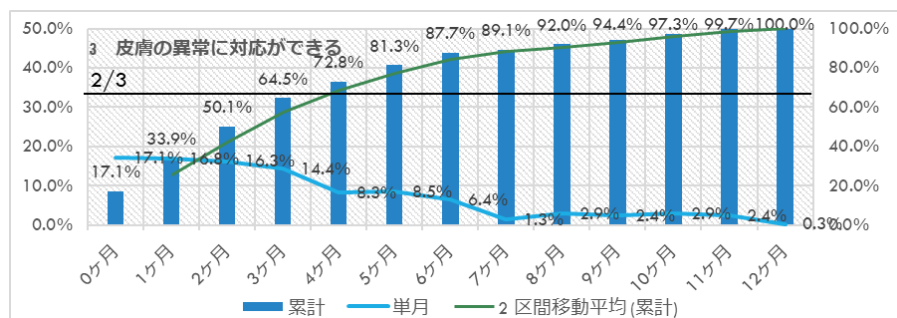
1 咳やむせこみに対応ができる



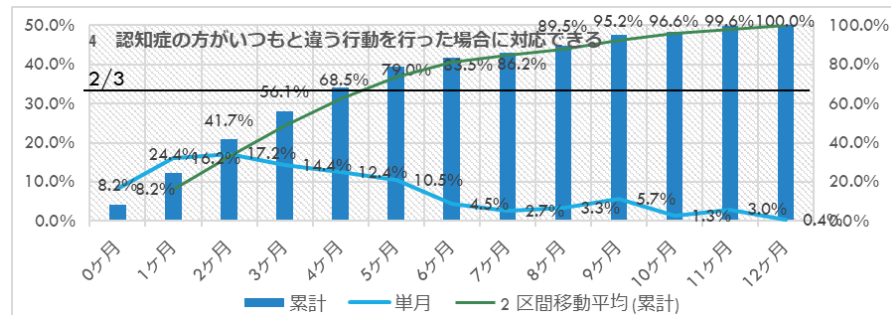
2 便・尿の異常に対応ができる



3 皮膚の異常に対応ができる



4 認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に対応できる

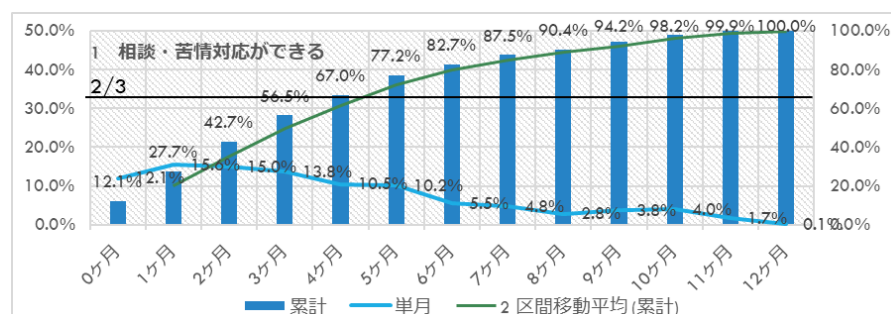


■ 利用者視点での評価（介護）

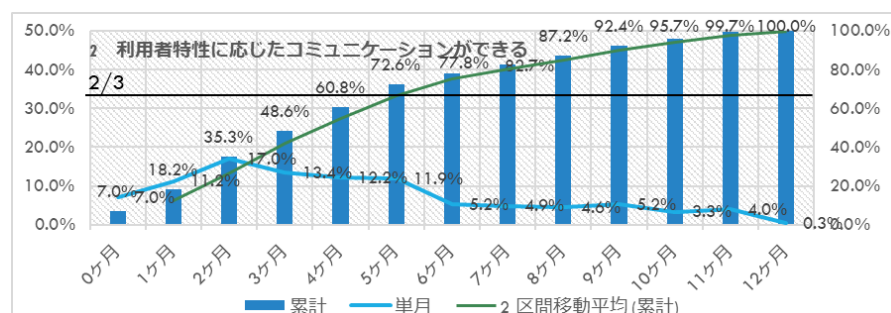
評価項目			OJT期間												
大項目	中項目	小項目	0ヶ月	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月	10ヶ月	11ヶ月	12ヶ月
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	1 相談・苦情対応ができる	12.1%	15.6%	15.0%	13.8%	10.5%	10.2%	5.5%	4.8%	2.8%	3.8%	4.0%	1.7%	0.1%
		2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる	7.0%	11.2%	17.0%	13.4%	12.2%	11.9%	5.2%	4.9%	4.6%	5.2%	3.3%	4.0%	0.3%
	2.介護過程の展開	1 利用者に関する情報を収集できる	7.0%	10.4%	13.0%	13.0%	13.9%	17.4%	3.5%	6.1%	3.5%	2.6%	7.0%	1.7%	0.9%
		2 個別介護計画を立案できる	7.3%	13.5%	12.6%	11.7%	12.6%	14.6%	6.1%	5.0%	5.3%	4.7%	4.4%	2.0%	0.3%
		3 個別介護計画に基づく実施・モニタリングができる	5.0%	9.6%	10.0%	13.1%	13.8%	14.6%	8.5%	4.2%	5.8%	6.5%	5.8%	2.3%	0.8%
		4 個別介護計画の評価ができる	3.5%	9.0%	11.3%	12.9%	14.1%	14.8%	7.1%	5.1%	5.8%	5.5%	5.1%	0.3%	
	3.感染症対策・衛生管理	1 感染症予防対策ができる	12.6%	13.7%	17.2%	13.7%	10.1%	12.6%	3.8%	3.3%	4.4%	4.1%	1.6%	2.7%	0.3%
		2 感染症発生時に対応できる	15.5%	16.1%	15.5%	11.2%	7.6%	10.8%	6.1%	3.1%	2.7%	3.6%	3.6%	4.0%	0.2%
	4.事故発生防止	1 ヒヤリハットの視点を持っている	10.8%	17.4%	18.1%	16.3%	10.4%	10.1%	5.2%	4.5%	2.8%	2.4%	1.0%	0.7%	0.3%
		2 事故発生時の対応ができる	14.1%	17.5%	16.5%	12.6%	8.9%	9.6%	4.4%	4.2%	3.5%	5.7%	1.2%	1.5%	0.2%
	5.身体拘束廃止	3 事故報告書を作成できる	8.3%	16.6%	10.7%	10.7%	12.4%	16.6%	4.1%	3.6%	5.9%	6.5%	3.6%	1.2%	0.0%
		1 身体拘束廃止に向けた対応ができる	7.2%	11.3%	14.0%	11.3%	14.9%	15.4%	5.4%	5.9%	5.4%	4.1%	2.3%	2.7%	0.0%
	6.終末期ケア	2 身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる	11.3%	10.0%	21.3%	16.3%	8.8%	17.5%	3.8%	5.0%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
		1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる	10.4%	10.8%	16.6%	13.3%	12.4%	14.1%	5.4%	4.6%	2.5%	3.7%	2.9%	2.9%	0.4%
	7.終末期ケア	2 終末期に医療機関または医療職との連携ができる	10.8%	9.1%	14.1%	12.1%	14.5%	17.8%	5.7%	2.4%	3.0%	3.4%	3.7%	3.0%	0.3%

<利用者家族とのコミュニケーション>

1 咳やむせこみに対応ができる



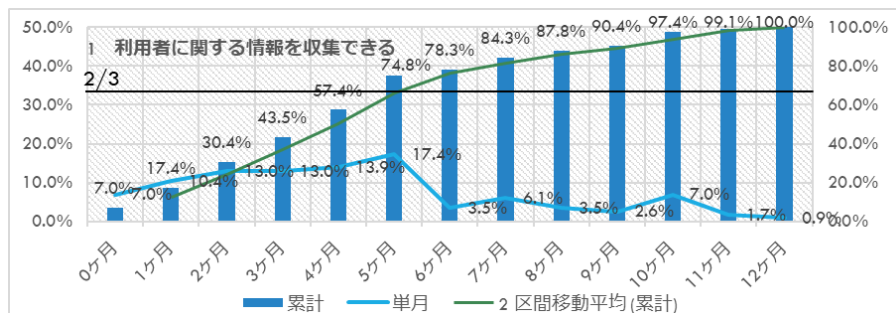
2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる



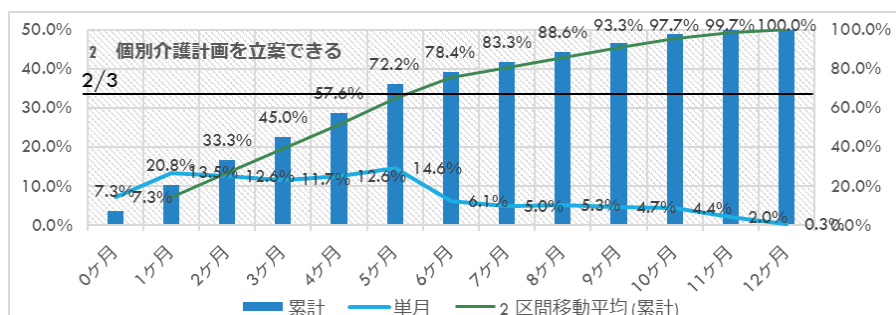
第2章：4．期末評価票データ分析結果

<介護過程の展開>

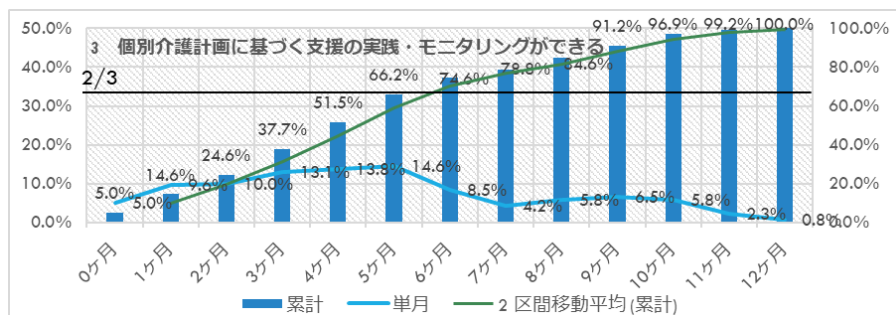
1 利用者に関する情報を収集できる



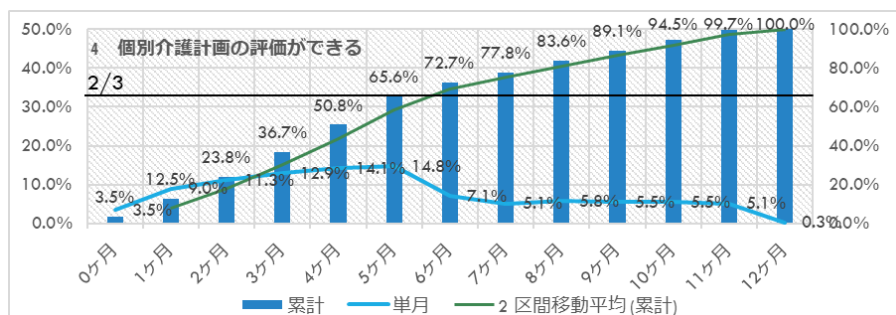
2 個別介護計画を立案できる



3 個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる

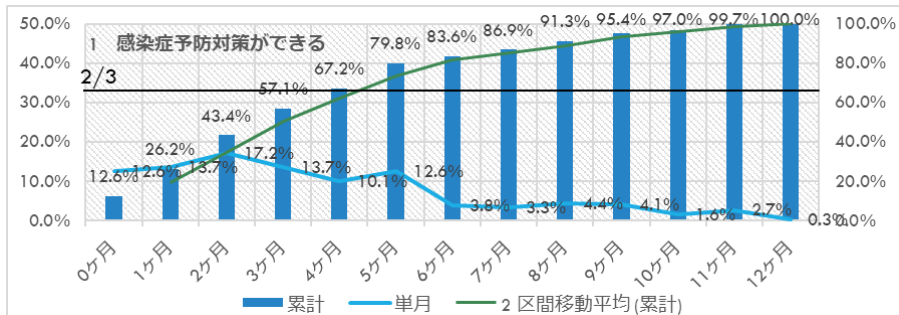


4 個別介護計画の評価ができる

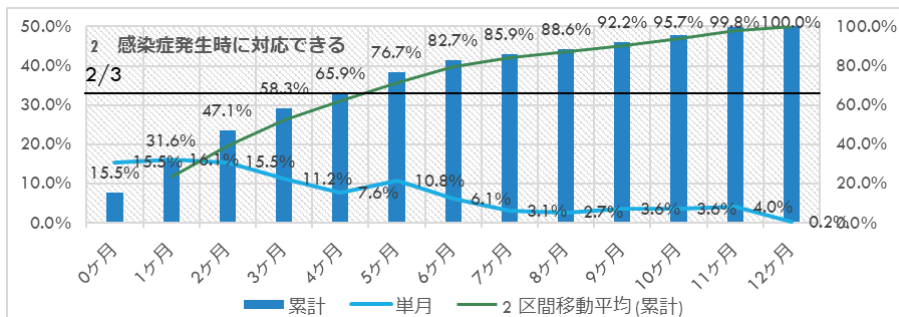


＜感染症対策・衛生管理＞

1 感染症予防対策ができる

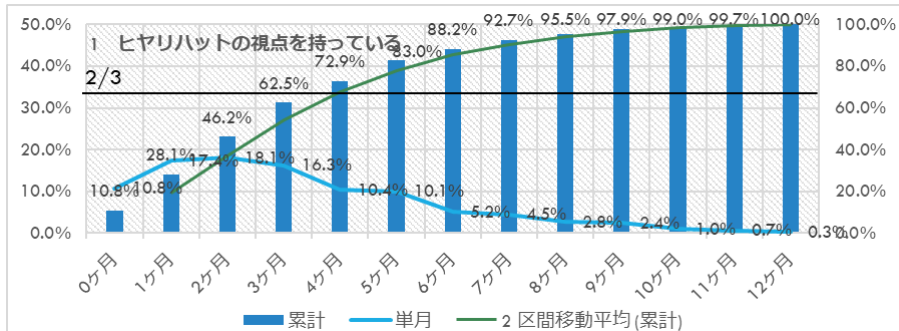


2 感染症発生時に対応できる

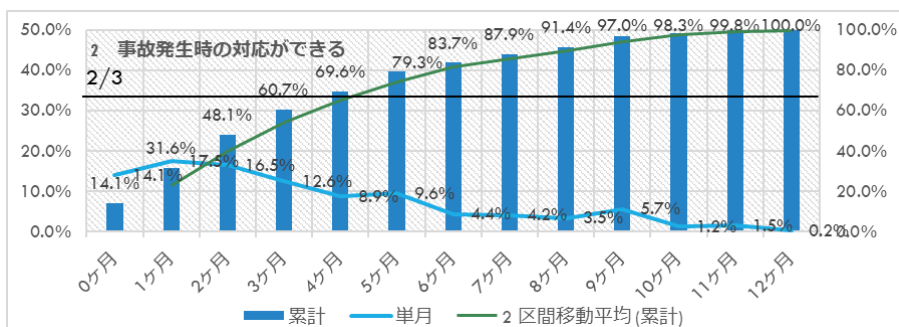


＜事故発生防止＞

1 ヒヤリハットの視点を持っている

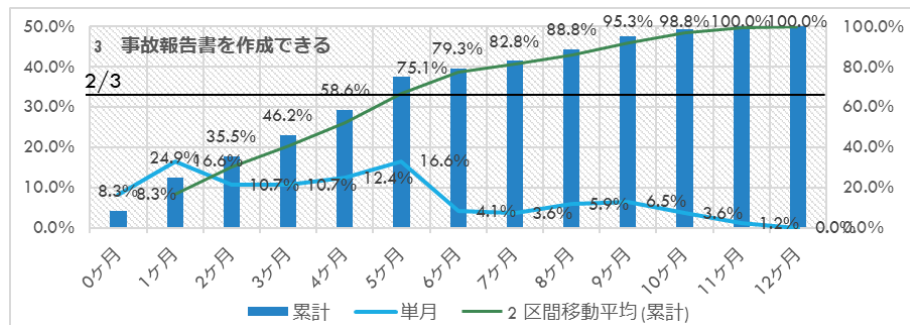


2 事故発生時の対応ができる



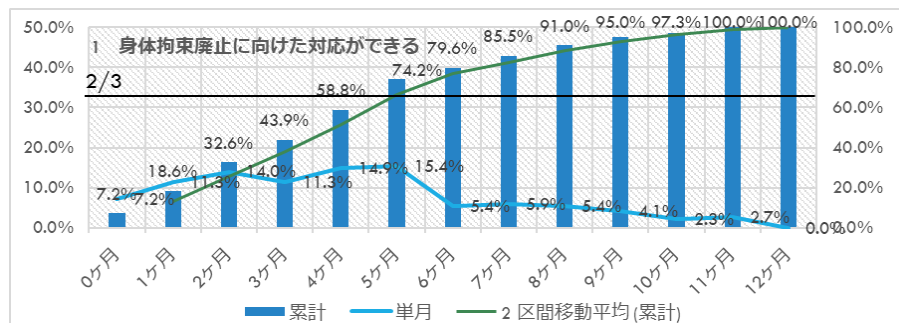
第2章：4．期末評価票データ分析結果

3 事故報告書を作成できる

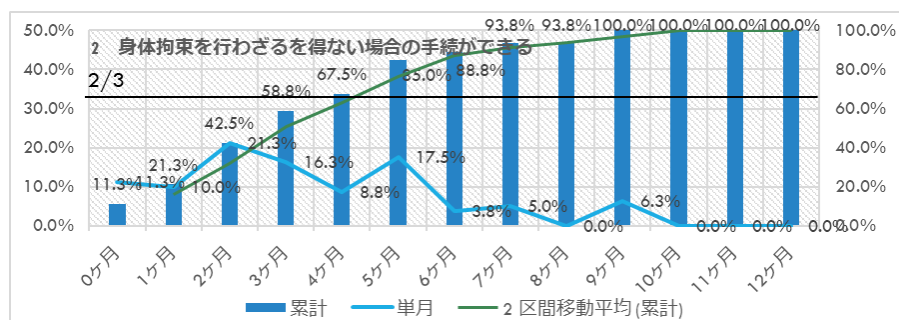


<身体拘束廃止>

1 身体拘束廃止にむけた対応ができる

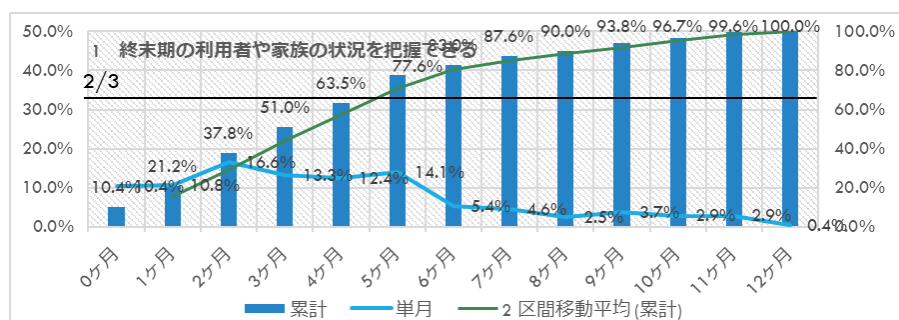


2 身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる

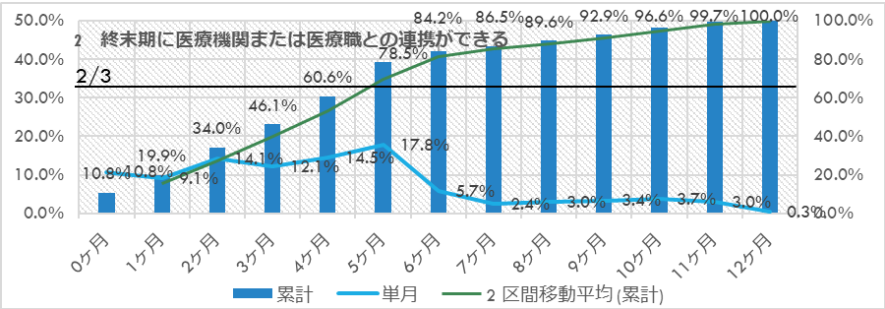


<終末期ケア>

1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる



2 終末期に医療機関または医療職との連携ができる

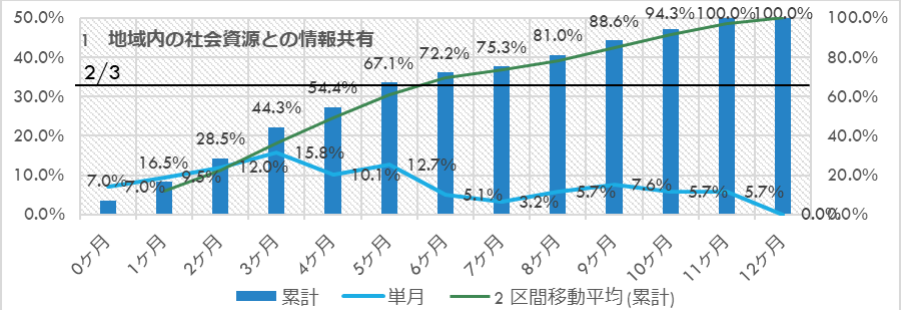


■ 地域包括ケアシステム&リーダーシップ

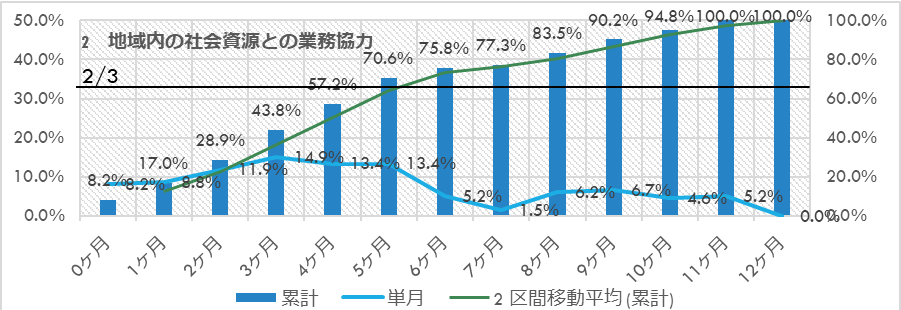
評価項目			OJT期間												
大項目	中項目	小項目	0ヶ月	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月	10ヶ月	11ヶ月	12ヶ月
Ⅲ.地域包括ケアシステム&リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	1 地域内の社会資源との情報共有	7.0%	9.5%	12.0%	15.8%	10.1%	12.7%	5.1%	3.2%	5.7%	7.6%	5.7%	5.7%	0.0%
		2 地域内の社会資源との業務協力	8.2%	8.8%	11.9%	14.9%	13.4%	13.4%	5.2%	1.5%	6.2%	6.7%	4.6%	5.2%	0.0%
		3 地域内の関係職種との交流	6.1%	12.7%	11.6%	14.4%	8.8%	18.8%	3.9%	5.0%	2.8%	3.9%	6.6%	5.5%	0.0%
		4 地域包括ケアの管理業務	7.2%	9.0%	12.6%	12.3%	11.9%	18.1%	5.4%	2.5%	4.0%	4.7%	5.4%	6.5%	0.4%
	2.リーダーシップ	1 現場で適切な技術指導ができる	4.5%	11.9%	11.9%	14.9%	13.4%	16.4%	4.5%	4.5%	3.0%	4.5%	7.5%	3.0%	0.0%
		2 部下の業務支援を適切に行っている	3.9%	9.2%	15.8%	14.5%	10.5%	10.5%	6.6%	1.3%	9.2%	7.9%	3.9%	5.3%	1.3%
		3 評価者として適切に評価できる	7.6%	7.6%	16.2%	13.3%	12.4%	17.1%	3.8%	2.9%	2.9%	5.7%	5.7%	3.8%	1.0%

<地域包括ケアシステム>

1 地域内の社会資源との情報共有

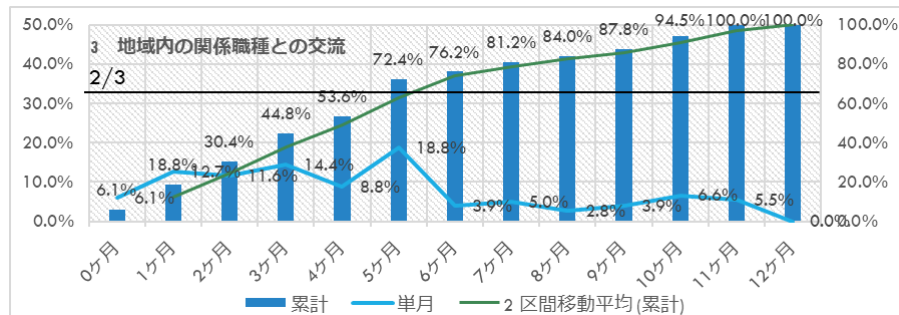


2 地域内の社会資源との業務協力

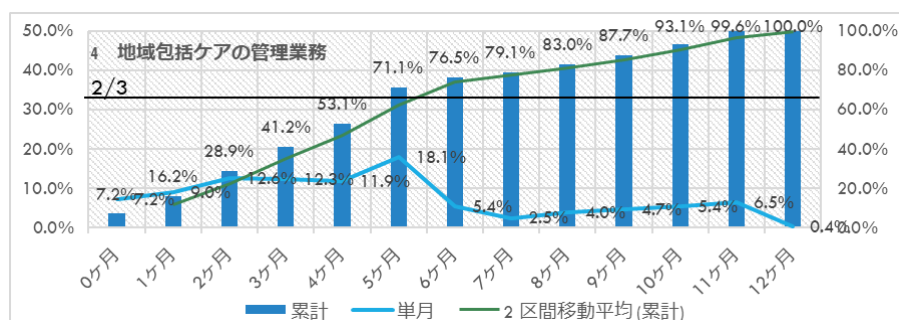


第2章：4．期末評価票データ分析結果

3 地域内の関係職種との交流

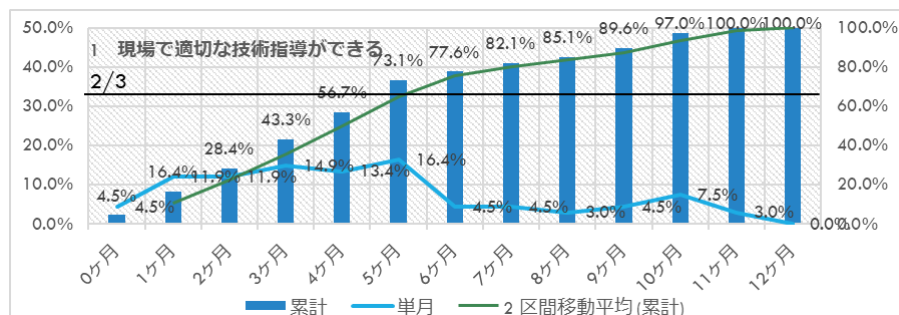


4 地域包括ケアの管理業務

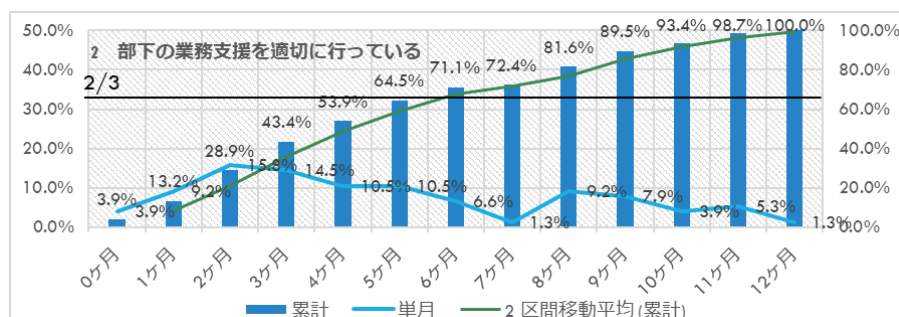


<リーダーシップ>

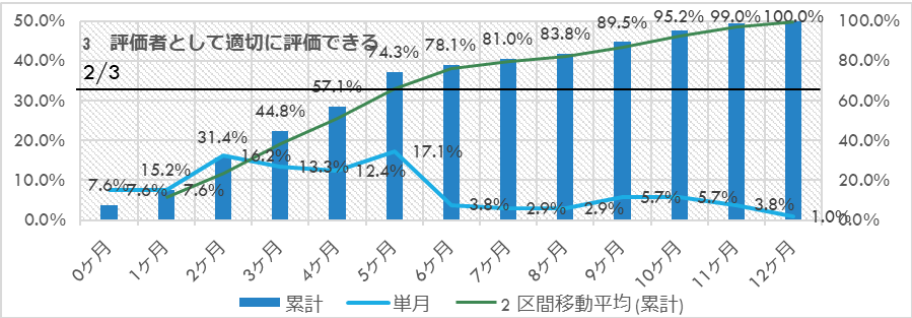
1 現場で適切な技術指導ができる



2 部下の業務支援を適切に行っている



3 評価者として適切に評価できる



なお、比較対象として介護技術評価項目の中項目単位での期首評価「○（できる）」、期末評価「○（できる）」、いわゆる OJT 実施をあまり必要としなかった OJT 実施に関する延べ人数、並びに平均 OJT 実施期間（単位：カ月）については以下の通りとなった。



OJT 実施期間の全体平均については 3.9 カ月と、半月程度短くなっており、基本介護技術については 3.5 カ月、利用者視点での評価(介護)については 4.2 カ月、地域包括ケアシステム&リーダーシップについては 4.4 カ月となっている。

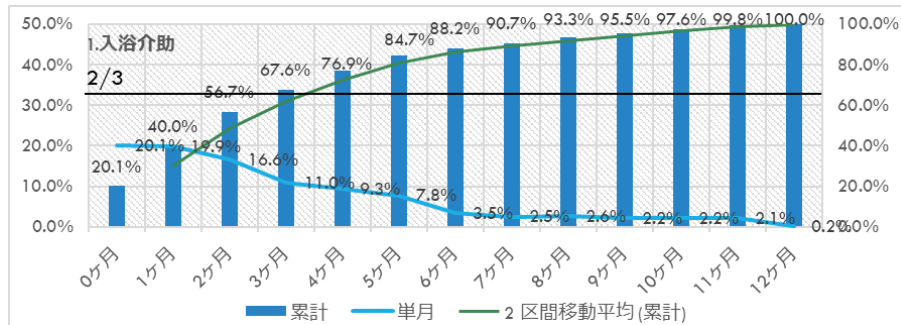
また、中項目単位での OJT 実施期間別の割合は以下の通りとなり、できる割合を累計したものについてグラフ化したものを合わせて掲載する。

評価項目		OJT期間												
大項目	中項目	0ヶ月	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月	10ヶ月	11ヶ月	12ヶ月
Ⅰ.基本介護技術 の評価	1.入浴介助	20.1%	19.9%	16.6%	11.0%	9.3%	7.8%	3.5%	2.5%	2.6%	2.2%	2.2%	2.1%	0.2%
	2.食事介助	21.2%	20.1%	16.0%	11.0%	8.9%	7.0%	3.7%	2.4%	2.3%	2.7%	2.1%	2.2%	0.4%
	3.排泄介助	20.5%	20.7%	16.5%	10.8%	9.3%	7.0%	3.7%	2.5%	2.6%	2.4%	1.9%	2.0%	0.2%
	4.移乗・移動・体位変換	16.7%	19.6%	16.9%	11.6%	10.2%	8.1%	3.8%	2.5%	3.0%	2.6%	2.4%	2.4%	0.2%
	5.状況の変化に応じた対応	17.3%	16.7%	15.4%	11.8%	10.0%	9.3%	4.3%	3.4%	3.4%	3.2%	2.7%	2.3%	0.2%
Ⅱ.利用者視点で の評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	12.4%	14.2%	14.7%	12.5%	10.7%	11.2%	5.0%	3.7%	4.5%	3.9%	3.4%	3.3%	0.4%
	2.介護過程の展開	10.5%	13.8%	14.6%	11.6%	12.1%	12.4%	5.6%	4.1%	4.2%	3.7%	3.6%	3.5%	0.3%
	3.感染症対策・衛生管理	16.7%	17.3%	15.3%	11.2%	8.4%	9.3%	4.6%	3.3%	3.7%	3.1%	3.3%	3.4%	0.3%
	4.事故発生防止	14.0%	15.6%	15.1%	12.4%	10.7%	10.3%	5.3%	4.2%	3.3%	3.7%	3.1%	2.0%	0.3%
	5.身体拘束廃止	13.0%	12.7%	15.0%	13.9%	10.5%	11.5%	5.1%	3.1%	4.2%	3.6%	3.9%	3.6%	0.0%
	6.終末期ケア	15.4%	14.7%	11.6%	12.9%	11.0%	10.2%	5.8%	3.7%	3.7%	3.9%	4.3%	2.7%	0.2%
Ⅲ.地域包括ケア システム&リー	1.地域包括ケアシステム	12.5%	16.1%	14.3%	10.2%	11.3%	11.8%	5.8%	3.8%	3.4%	4.1%	4.5%	2.1%	0.2%
	2.リーダーシップ	9.6%	13.6%	13.3%	11.8%	10.3%	15.1%	5.8%	3.4%	4.4%	4.7%	4.2%	3.6%	0.1%

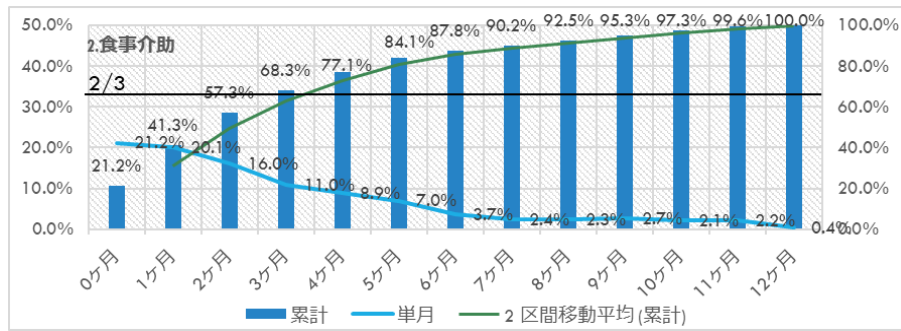
第2章：4. 期末評価票データ分析結果

■ 基本介護技術

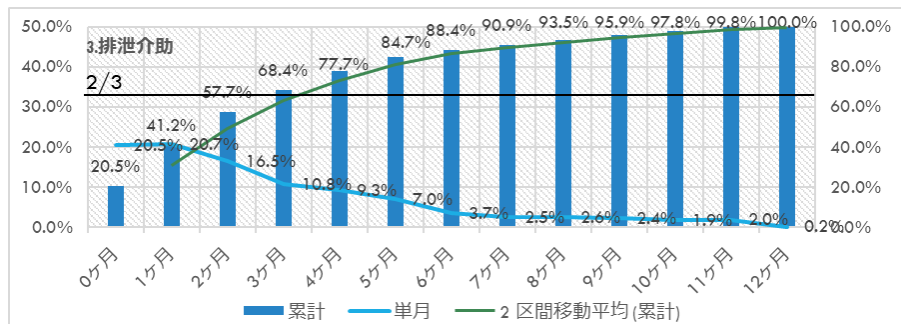
<入浴介助>



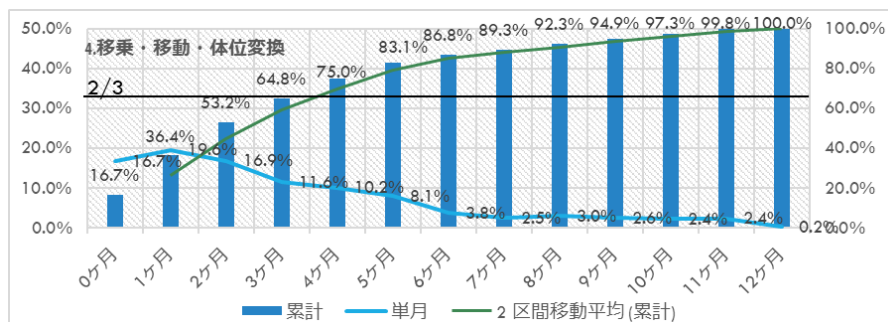
<食事介助>



<排泄介助>

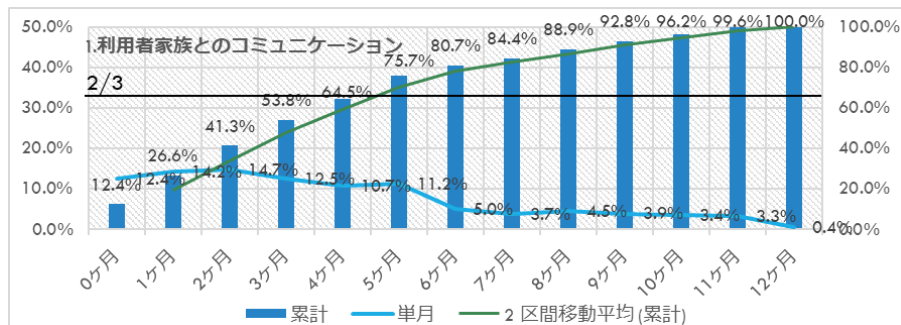


<移乗・移動・体位変換>

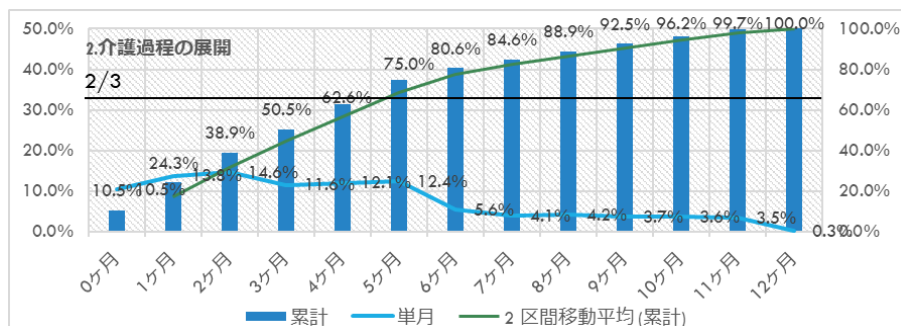


■ 利用者視点での評価

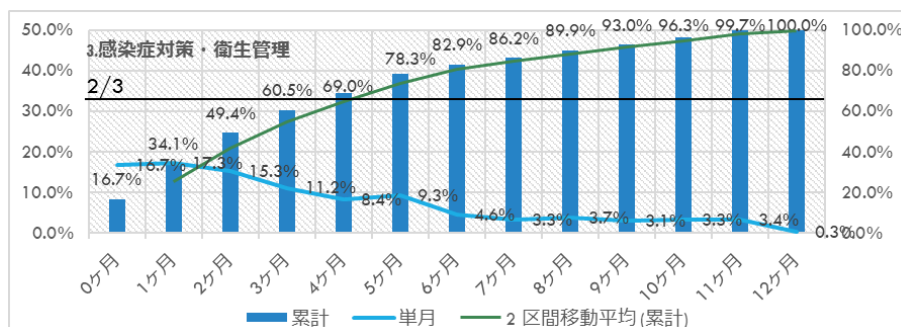
<利用者家族とのコミュニケーション>



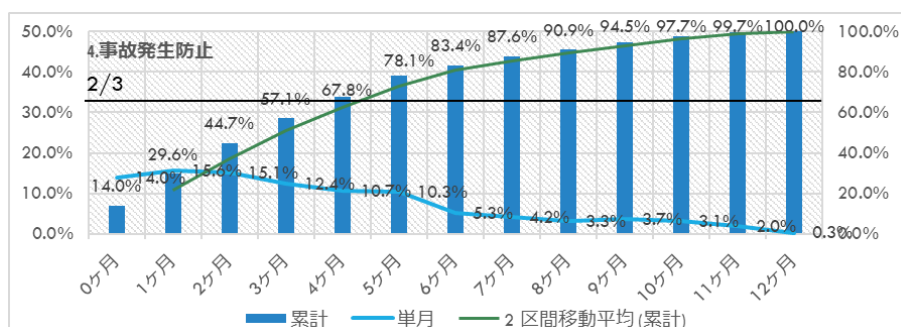
<介護過程の展開>



<感染症対策・衛生管理>

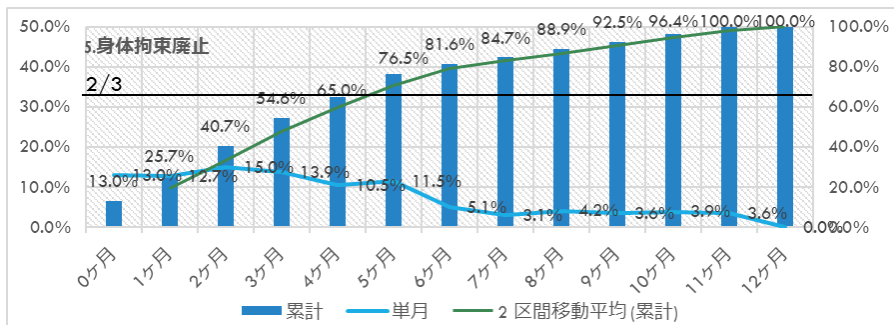


<事故発生防止>

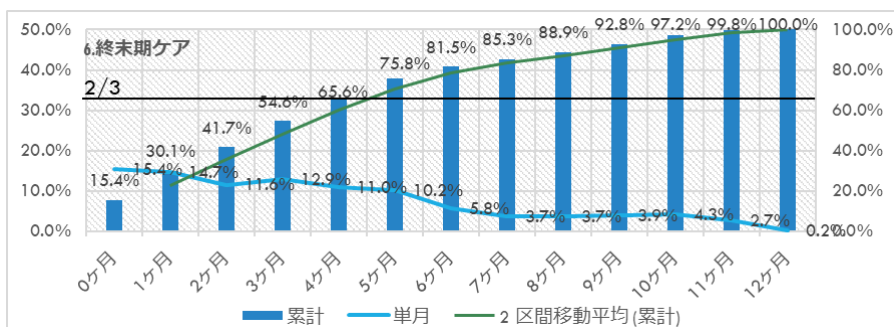


第2章：4. 期末評価票データ分析結果

<身体拘束廃止>

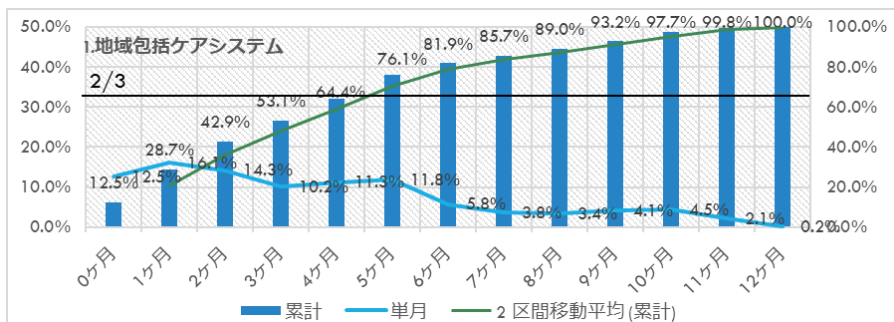


<終末期ケア>

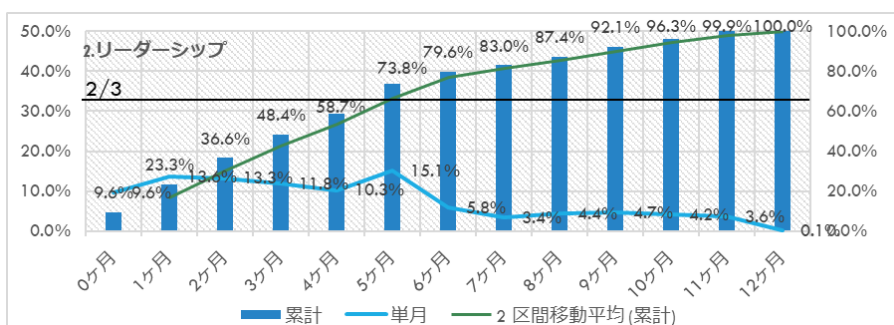


■ 地域包括ケアシステム&リーダーシップ

<地域包括ケアシステム>



<リーダーシップ>



5．期末評価票データ分析結果を踏まえて

介護事業所・施設においては、介護職員に対してどういった介護技術を身につけさせたいか、というところまでは見出せていると考えられるが、その介護技術をいつまでに定着化させるか、というところまでは、介護職員が不足しているという現状の中においては、日頃の介護業務をどうしても優先しなければならない、具体的に示すということが困難な状況にあると推察される。介護職員が不足する中においては、個々の介護職員の介護技術向上をはかり、効果的・効率的に介護業務を実施することを推進していかなければならないが、職場における介護技術向上の術である OJT が曖昧なままであると、介護職員の介護技術向上がはかられず、結局個々の介護職員への負担として跳ね返っていく、そうした負のスパイラルに陥りやすい現状にある、特に介護についてはそうした傾向が強くあらわれる業種であると考えられる。

そうした中、負のスパイラルから抜け出すためには、介護技術の OJT 実施項目を明らかにするとともに、いつまでに向上を達成するか、そうした時間軸での KPI の設定が重要となってくる。如何にして効果的・効率的に介護技術の OJT を実施していくかの考察、必ず時間軸を設定し、その時間軸を同じ職場の介護職員と共有、相互に高め合うための環境づくりを行うことが特に必要となる業種であるといえる。つまり、2 カ月なら 2 カ月間、3 カ月なら 3 か月間と OJT 実施期間を設定し、対象となる介護職員に対して、期首評価で見出された「できていない」介護技術項目を職場内・チーム内において共有し、その期間に集中して OJT を実施する、ということである。

今回、期末評価データ分析により、介護キャリア段位制度における介護技術評価項目ごとの平均的 OJT 実施期間が明らかとなったが、言い換えると、介護キャリア段位制度に取り組み、レベル認定を取得する職員が属する事業所においては、OJT 実施期間を設定し、それに基づき OJT を集中的に実施し、介護技術定着の確認が確実に行われていることが、明確となった。

本分析の結果として、この介護項目については OJT 実施期間として何カ月であるべき、とまとめることはせず、効果的・効率的な介護技術の OJT を実施している事業の平均的 OJT 実施期間の提示に留めることとしている。これは介護事業所・施設のサービス種別であり、人員数など、様々な環境の違いがあるためであり、あくまでも平均的 OJT 実施期間として考察の基準としていただくことを目的としているからである。介護事業所・施設がこの数値を参考にし、自事業所ではこの介護項目についてはもっと手厚く OJT を実施すべきであるから期間を長く取る、あるいは OJT 実施期間をもっと短く効果的・効率的 OJT を実施するため、OJT のツールを見直し、新しいものを取り入れる、そうした考察のきっかけとなる数値となることを期待する。